

令和4年度

国立大学附属学校自己点検・評価

日本教育大学協会企画・調査研究委員会  
国立大学附属学校の在り方検討ワーキンググループ

令和5年2月

【実施期間】令和4年8月22日（月）～令和4年11月25日（金）

➢ 附属学校（8項目）回答期間：8月22日（月）～9月30日（水）

➢ 大学・学部（7項目）回答期間：10月11日（火）～11月25日（金）

【評価基準】5段階（3を標準、5を目指すべき評価基準とする。評価基準4又は5に該当する場合は、好事例の内容を回答（任意））

【回答数】

➢ 附属学校：236校（附属学校全体で回答している場合は1としてカウント）

※兵庫教育大学（3校圏分）、愛媛大学教育学部（5校圏分）

➢ 大学・学部：48大学・学部

大項目	小項目	番号	評価指標	評価基準	回答数	
大学・学部との教育・研究における連携	ガバナンス	1	附属学校園全体の存在意義や各学校園に求めるミッション、役割等を明確にし、それに基づいた運営・評価を行なっている。	5	ミッション、役割等について決定し、学内外に提示の上、運営・評価を行っている。さらに、その <b>評価結果を運営に反映</b> している。	13
				4	ミッション、役割等について決定し、学内外に提示の上、運営・ <b>評価</b> を行っている。	16
				3	ミッション、役割等について決定し、学内外に提示の上、 <b>運営</b> している。	15
				2	ミッション、役割等について <b>決定</b> し、 <b>学内外に提示</b> している。	1
				1	ミッション、役割等について <b>検討</b> している。	3
	共同研究・共同教育活動	2	大学・学部と附属学校園において研究・教育実践の成果の共有や、教員養成カリキュラム改善につなげる体制ができている。	5	組織体制を整備し、全ての附属学校園と共同研究・教育実践を行い、これらの成果を <b>恒常的に教員養成カリキュラム改善につなげるシステムを構築</b> している。	7
				4	組織体制を整備し、 <b>全ての附属学校園と共同研究・教育実践</b> を行い、これらの <b>成果を教員養成カリキュラムの改善につなげた実績</b> がある。	14
				3	組織体制を整備し、 <b>一部の附属学校園と共同研究・教育実践</b> を行い、これらの成果を共有している。	25
				2	組織体制を <b>整備</b> したところである。	1
				1	<b>組織体制について検討</b> している。	1
		3	附属学校園と大学・学部が共同して教育実習について企画・検討する組織を有しており、その内容が教育実習のカリキュラムに十分生かされ、高い成果が出ている。	5	企画・検討する組織体制を整備しており、その内容が教育実習のカリキュラム改善に <b>十分</b> 反映されるとともに、 <b>学生の評価基準も明確</b> にしている。	74
				4	企画・検討する組織体制を整備しており、その内容が <b>教育実習のカリキュラム改善に一部</b> 反映されている。	64
				3	企画・検討する <b>組織体制を整備</b> しており、教育実習を実施している。	85
				2	<b>企画・検討</b> しながら、教育実習を実施している。	5
				1	<b>連携</b> しながら、教育実習を実施している。	8
	4	【教職大学院を設置している大学のみ】 教職大学院における研究実践フィールドとして、附属学校が活用されている。	5	現職教員・学部卒学生それぞれの力量を考慮した上で、恒常的に活用し、 <b>学生の研究内容に具体的に生かされている</b> 。	21	
			4	現職教員・学部卒学生それぞれの力量を考慮した上で、恒常的に活用している。	6	
			3	<b>恒常的に活用</b> している。	12	
			2	<b>必要に応じて</b> 活用している。	4	
			1	<b>ほとんど活用していない</b> 。	0	
拠点校	5	附属学校園は、学習指導要領改訂に資するよう、次世代を見据えた先進性・独自性の高い教育研究を行い、先導的・実験的拠点校としての役割を果たしている。	5	先進性・独自性の高い教育研究を行うとともに、その成果を発信し、さらに成果が <b>学外（国、教育委員会、各学校等）において活用</b> されている。	51	
			4	先進性・独自性の高い教育研究を行うとともに、その成果を発信し、それに対する <b>学外者の意見等を集約</b> している。	74	
			3	先進性・独自性の高い教育研究を行うとともに、その <b>成果を発信</b> している。	98	
			2	<b>先進性・独自性の高い教育研究</b> を行っている。	9	
			1	どのような研究を行うか <b>検討</b> している。	4	
	地域のモデル校	6	附属学校園は、地域の教育課題の解決につながる教育研究に取り組んでいる。	5	教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行った上で、課題解決につながる教育研究に取り組み、その成果を発信している。さらに、その成果が <b>地域の教育委員会や学校において活用</b> されている。	40
				4	教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行った上で、課題解決につながる教育研究に取り組み、その成果を発信している。さらに、成果について <b>教育委員会等の評価</b> を受けている。	45
				3	教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行った上で、課題解決につながる教育研究に取り組み、その <b>成果を発信</b> している。	112
				2	教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行った上で、 <b>課題解決につながる教育研究に取り組んでいる</b> 。	26
				1	<b>教育委員会もしくは学校と連携</b> し、地域の <b>教育課題の把握や分析</b> を行っている。	13
特色ある教育	7	附属学校園は、特色ある教育活動の実践や研究を行い、継続的にその成果を検証し、学校外において活用されている。 【例：ICT教育、国際教育】	5	実践・研究を行い、その成果を発信し、それに対する学外者の意見等を集約・反映している。さらに、その成果が、 <b>学外（国、教育委員会、各学校等）において活用</b> されている。	52	
			4	実践・研究を行い、その成果を発信し、それに対する <b>学外者の意見等を集約・反映</b> している。	73	
			3	実践・研究を行い、その <b>成果を発信</b> している。	105	
			2	実践・研究を <b>行っている</b> 。	5	
			1	実践・研究について <b>検討</b> している。	1	

大項目	小項目	番号	評価指標	評価基準	回答数
拠点校・地域のモデル校としての取組	特色ある学校運営	8	附属学校園は、特色ある学校運営を継続的に行い、その成果を検証し、学校外において活用されている。 【例：働き方改革、地域貢献、国際貢献】	5 実践・研究を行い、その成果を発信し、それに対する学外者の意見等を集約・反映している。さらに、その成果が、 <b>学外(国、教育委員会、各学校等)において活用</b> されている。	23
				4 実践・研究を行い、その成果を発信し、それに対する <b>学外者の意見等を集約・反映</b> している。	50
				3 実践・研究を行い、その <b>成果を発信</b> している。	115
				2 実践・研究を <b>行っている</b> 。	41
				1 実践・研究について <b>検討</b> している。	7
現職教員の研修	現職教員の研修	9	地域の教育委員会（教育センターを含む）及び学校園における研修や授業研究会等に対して附属学校園による指導・助言体制が整備・機能している。	5 講師派遣をするとともに、教育委員会等と連携し、研修や研究会の企画運営を行い、その <b>成果検証</b> を実施している。	27
				4 講師派遣をするとともに、教育委員会等と連携し、 <b>研修や研究会の企画運営</b> を行っている。	54
				3 講師派遣をするとともに、 <b>恒常的な指導・助言する体制を構築</b> している。	68
				2 講師派遣や <b>研修内容について指導・助言</b> をしている。	60
				1 <b>講師派遣</b> をしている。	27
	10	教育委員会等との人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を効果的に行い、現職教員の資質向上に貢献している。	5 教育委員会等と協定等に基づき、多様な人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を計画的に行っており、受入教員に対して、指導的な役割を果たせる専門性や力量を身に付ける <b>体制を整備</b> している。	16	
			4 教育委員会等と協定等に基づき、 <b>多様な人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を計画的に行っており、受入教員に対して、指導的な役割を果たせる専門性や力量を身に付けさせるよう努めている</b> 。	17	
			3 教育委員会等と <b>協定等に基づき</b> 、人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を <b>計画的に行っている</b> 。	14	
			2 人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を <b>当該年度の協議に基づき行っている</b> 。	1	
			1 人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を <b>行っていない</b> 。	0	
同一学校種複数校設置	適正規模	11	【同一学校種を複数校設置している大学のみ】 大学・学部が、同一校種に複数の附属学校を設置している場合、その役割や課題にふさわしい規模で配置されている。	5 現状の規模の検証・評価を行い、将来的な計画を策定し、 <b>対外的に公表・説明</b> している。	1
				4 現状の規模の検証・評価を行い、 <b>将来的な計画を策定</b> している。	5
				3 現状の規模の検証・評価を行っている。	5
				2 <b>現状の規模</b> の検証・評価について <b>具体的に検討</b> している。	0
				1 適正規模についての検証は <b>未検討</b> である。	0
	12	【同一学校種を複数校設置している大学のみ】 大学・学部は各附属学校園の教育・研究が有機的なつながりを持つとともに、附属学校園全体の教育研究の質が向上するように努めている。	5 全学校園の教育・研究に有機的なつながりを持たせる取組を行っており、 <b>成果を発信</b> している。	4	
			4 <b>全学校園の教育・研究に有機的なつながりを持たせる取組</b> を行っている。	4	
			3 <b>各地区毎</b> に取組を行っている。	3	
			2 <b>各学校園それぞれ</b> が取組を <b>部分的に行っている</b> 。	0	
			1 教育・研究の有機的なつながりを構築する <b>取組は行われていない</b> 。	0	
入学者選抜	入学者選抜	13	附属学校園は、地域の教育課題、社会的ニーズを踏まえた研究と連動した入学者選抜を行っている。	5 選抜方法の評価や見直しを具体的に実施・検証しており、 <b>教育研究成果につなげている</b> 。	11
				4 選抜方法の評価や見直しを具体的に実施・ <b>検証</b> している。	45
				3 選抜方法の評価や見直しを <b>具体的に実施</b> している。	125
				2 選抜方法の評価や見直しについて <b>検討</b> している。	40
				1 選抜方法の評価や見直しは <b>未検討</b> である。	15
成果発信と還元	学校園の取組	14	附属学校園は、公開研究発表会（研究授業・協議会・講演等）を開催し、発信・普及するとともに、参加者の評価を活用するよう取り組んでおり、さらに、教育関係者以外に対しても、多様な手法・媒体による発信にも取り組んでいる。	5 定期的に成果の発信を行っており、参加者の意見等をとりまとめ、学内に共有し、 <b>教育研究の改善に活用</b> している。さらに、教育関係者以外に向けても、多様な手法・媒体によって、広く・分かりやすい広報を実施している。	51
				4 定期的に成果の発信を行っており、参加者の意見等をとりまとめ、学内に共有している。さらに、 <b>教育関係者以外に向けても、多様な手法・媒体によって、広く・分かりやすい広報</b> を実施している。	68
				3 定期的に成果の発信を行っており、 <b>参加者の意見等をとりまとめ、学内に共有</b> している。	95
				2 定期的に成果の発信を行っており、 <b>参加者にアンケート等を実施</b> している。	21
				1 <b>定期的に成果の発信</b> を行っている。	1
	大学の取組	15	大学・学部は、附属学校園全体の教育研究の成果が効果的に普及できるよう、戦略的に成果発信に取り組んでいる。	5 成果発信の内容を把握し、より効果的なものになるよう指導助言し、全附属学校園の一体的な成果発信について具体的に検討、 <b>改善を図り、戦略的な成果発信</b> に取り組んでいる。	8
				4 成果発信の内容を把握し、より効果的なものになるよう指導助言し、 <b>全附属学校園の一体的な成果発信について具体的に検討</b> している。	14
				3 成果発信の内容を把握し、より効果的なものになるよう <b>指導助言</b> している。	25
				2 成果発信の <b>内容を把握</b> している。	0
				1 成果発信の <b>受け手</b> である。	1

## 「国立大学附属学校自己点検・評価」のWeb実施結果まとめ

実施期間：令和4年8月22日（月）～令和4年11月25日（金）

- 附属学校（8項目）回答期間：8月22日（月）～9月30日（水）
- 大学・学部（7項目）回答期間：10月11日（火）～11月25日（金）

調査対象：日本教育大学協会 附属学校を設置する会員大学・学部

- 附属学校：252校
- 大学・学部：54大学・学部

評価基準：5段階（3を標準、5を目指すべき評価基準とする。評価基準4又は5に該当する場合は、好事例の内容を回答（任意））

回答数：

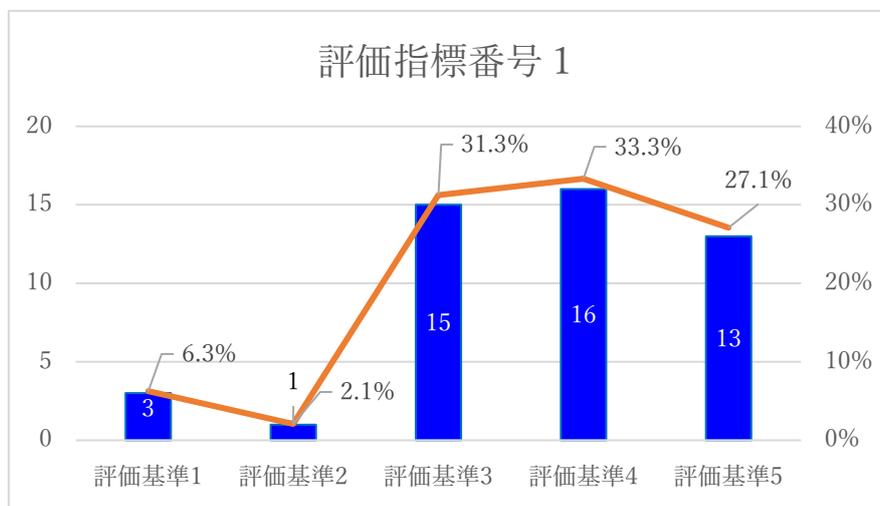
- 附属学校：236校（附属学校全体で回答している場合は1としてカウント）  
※兵庫教育大学（3校園分）、愛媛大学教育学部（5校園分）
- 大学・学部：48大学・学部

### 評価大項目：大学・学部との教育・研究における連携

評価小項目：ガバナンス

評価指標番号1：附属学校園全体の存在意義や各学校園に求めるミッション、役割等を明確にし、それに基づいた運営・評価を行なっている。

（想定される回答者：大学・学部）



#### 【評価基準】

- 1：大学・学部は、各附属学校園それぞれのミッション、役割等について検討している。
- 2：大学・学部は、各附属学校園それぞれのミッション、役割等について決定し、学内外に提示している。
- 3：大学・学部は、各附属学校園それぞれのミッション、役割等について決定し、学内外に提示の上、運営している。
- 4：大学・学部は、各附属学校園それぞれのミッション、役割等について決定し、学内外に提示の上、運営・評価を行っている。
- 5：大学・学部は、各附属学校園それぞれのミッション、役割等について決定し、学内外に提示の上、運営・評価を行っている。さらに、その評価結果を運営に反映している。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学】

北海道教育大学附属学校学校評価実施要項に基づき、自己評価及び学校関係者評価を実施し、当該評価の結果及び今後の改善方策を報告書等にまとめ、年 1 回開催の附属学校園成果交流会において報告を行っている。

●【岩手大学教育学部】

学部長が議長を務め、附属学校を担当する理事も構成員となっている附属学校運営会議を設置し附属学校の運営を進めており、評価についても、附属学校に係る中期目標・中期計画に基づく年度計画や本学が 2030 年を見据え目指すべき方向性を示すものとして策定した『岩手大学ビジョン 2030』アクションプランに関し、同運営会議において実績報告及び自己評価を行っている。

●【秋田大学教育文化学部】

附属学校園のミッションについては、HP 上でビジョン・アクションプランとしてその内容を公開している。また附属学校園の役割は大学全体としての中期目標・中期計画の中で明確化されている。さらに附属学校園は年度計画に基づき運営されており、評価・IR センターを通して大学が年度毎に進捗状況を点検し、評価を実施している。

●【宇都宮大学共同教育学部】

附属学校教員と大学教員が組織する 13 分野の研究プロジェクトごとに公開研究会で発表した研究授業および資料をオンラインにより全国的に公開した。公開研究発表会の参加者を対象としたアンケートから、連携研究の重要性など公開研究発表会合同開催により効果が得られることが明らかになった。特に、公開した研究成果が活用されるなど、附属学校園の地域の拠点機能、モデル的役割を十分に達成した。

●【埼玉大学教育学部】

埼玉大学教育学部では第 4 期中期計画を「附属四校園と教育学部・教育学研究科との連携・協働による『共生・ダイバーシティ社会』の担い手づくりとなる教育モデルを開発・実践」と定めている。これにより、埼玉県域の小中学校教育への協力・指導を積極的に推進し、地域貢献に貢献するというミッションを果たしていく。

●【千葉大学教育学部】

毎年、拡大附属学校経営会議を開催し、各附属学校園の自己評価と要望等を附属学校園長、副園長・副校長、附属学校担当理事、附属学校担当副学長とともに、必要事項について協議し、改善や予算等について検討を行っている。

●【東京藝術大学音楽学部】

大学・学部は、令和 3 年度に附属高校と連携して同校のスクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定を行い、それらは学内外に提示された。一連のプロセスは大学教員が多数参加する附属高校の運営委員会内で実施、運営、評価された。

●【お茶の水女子大学】

平成 29 年度に文部科学省から出された報告書を受け、本学では「国立大学附属学校に関する有識者会議報告書へのお茶の水女子大学の対応」という文書を取りまとめており、そこで、附属学校園のミッションや役割等について述べ、学内外に提示している。また、学長を委員長とする附属学校評価委員会の体制を整えており、令和元年度に出された評価に基づく取組に令和 2 年度以来取り組んでいる。

●【横浜国立大学教育学部】

第三者で構成される附属学校の在り方検討委員会を設置し、短期・中長期的なビジョンを明確にした上で今後の取組を検討している。

●【新潟大学】

新潟大学の第4期中期目標・中期計画（令和4年度～令和9年度）に連動した部局等の独自取組として、附属学校園全体のミッション、役割を決定している。さらに、二つの地区に分かれている附属学校園の特色を明確にして、それぞれのミッションと役割を定めている。これらは、具体の計画と年度計画ロードマップに落とし込み、評価指標に基づいて進捗を評価し運営に活かしている。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類】

附属学校園の目標・評価や学校園長の評価、将来構想などを大学の中期計画及び中期目標に基づいて管理している。附属学校園を統括する統括長を置き、各校園間の調整や意思統一を行う。

●【福井大学教育学部】

教育学校附属学園では、学園を構成する幼稚園、義務教育学校および特別支援学校の校長、副校長および教頭、そして、大学教員が就任する正副学園長で構成する附属学園室会議を設置し、同会議において、各学校のミッション、役割等について最新の国の動向等の状況提供を行いながら、各校園のあり方について協議を重ねている。また、外部評価等の結果を同会議にフィードバックし、その評価結果を附属学園の運営に活かしている。

●【信州大学教育学部】

附属学校園が県内のモデル校になることに一つとして、働き方推進を進めている。R4年度は文科省の校務のDX化に関わる事業を受託し、各校で校務のDX化およびその効果検証を進めている。その成果をシンポジウム等で公開していく。

●【京都教育大学】

中期目標計画期間中は、附属学校園に関わる年度計画を毎年度策定し、附属学校部が各附属学校の進捗状況や達成状況を点検し、大学評価室で評価している。

●【兵庫教育大学】

令和3年度から、附属学校園のミッション・ビジョンを作成し、学校要覧に掲載するなど外部に広く公表している。また、令和4年度から、各校園では、ミッション・ビジョンを踏まえた学校経営計画を作成して学校運営を行い、学校評価を行っている。さらに、今後は、学校運営協議会を制度化する予定であり、ミッション・ビジョンを踏まえた学校経営計画等の学校運営の基本的な方針は、学校運営協議会で承認を得ることが必要となる。

●【神戸大学】

各校園の設置目的及びミッションについて、各校園の校園則に明記するとともに、大学の中期目標・中期計画、さらに各年度の年次計画にその目的・ミッションに応じた目標を掲げ、計画を立て、実施している。さらにその計画についての実施結果について、各校園の自己評価と大学による評価を行い、その評価結果をフィードバックさせている。

●【山口大学教育学部】

各附属学校園は、山口大学第3期中期目標の中期計画〔31〕に対応した運営・評価を実施し、また、学校経営ビジョンを示し、学校評価アンケートを実施してそこでの課題を改善策として取り組んでいる。

●【鳴門教育大学】

附属学校園のミッション・役割については、主な取組も含め大学ホームページに公表している。また、中期目標・中期計画に基づいた毎年度の評価指標を策定し、その取組状況について、半期毎に進捗を管理している。

●【愛媛大学教育学部】

第4期中期目標・計画期間において、附属学校園の位置付け・役割に関する目標を組み入れ、3つの中期計画を設定した。具体的には、1) 附属学校園を地域の拠点校として位置付け、地域の教育課題に対するモデル的取組の具現化、2) 5つの附属学校園の特色を活かした、組織的連携・協働による教育・研究活動の推進、3) 附属学校園と大学が連携し、多様で高度な教育を提供する体制を整備し、連携による教育モデル開発と実践の推進、である。本年度は、その初年度に相当し、各学校園では、定められた中期計画の具体的内容に従って運営を行っている。また、本年度末には、初年度の評価を行う予定である。

●【福岡教育大学】

各附属学校において中期目標期間中の研究方針を定め、大学・附属学校と各地域の教育委員会から選出された委員で構成される地域連絡協議会で審議を行い、運営に反映している。その結果、各校園で先導的モデルとなる教育研究活動を行い、毎年度に公開の教育研究発表会を開催して評価を得るとともに、大学の教育研究活動に反映している。

●【長崎大学教育学部】

毎年度初めの附属学校運営協議会において、附属学校園が継続して取り組むべき課題を確認・共有している。各校園は教育学部とリンクしたホームページで、教育方針や研究内容などを公開している。各校園では、毎年、外部の委員を招いて学校評価委員会を開催し、運営改善に役立てている。学部でも年度末に、外部委員を招き、教育学部運営評価委員会を開催しており、その中で附属学校園の運営に関する事項も併せて討議されている。

●【大分大学教育学部】

附属学校園連携統括長、附属教育実践総合センター長、学部事務長、各附属校園長・教頭が出席する「王子キャンパス会議」を毎月開催し、附属校園の機能・役割を確認しながら、国や県の今日的課題にも対応した適切な運営を行っている。また、県教委との「連携協力推進協議会」の中に附属学校部会を設置し、関係各課と綿密に連携しながら、附属校園の取組を推進している。協議会では、毎年、情報共有及び成果検討を行うことにより、地域のモデル校園としての機能評価を行い、その後の各附属校園の運営に反映させている。

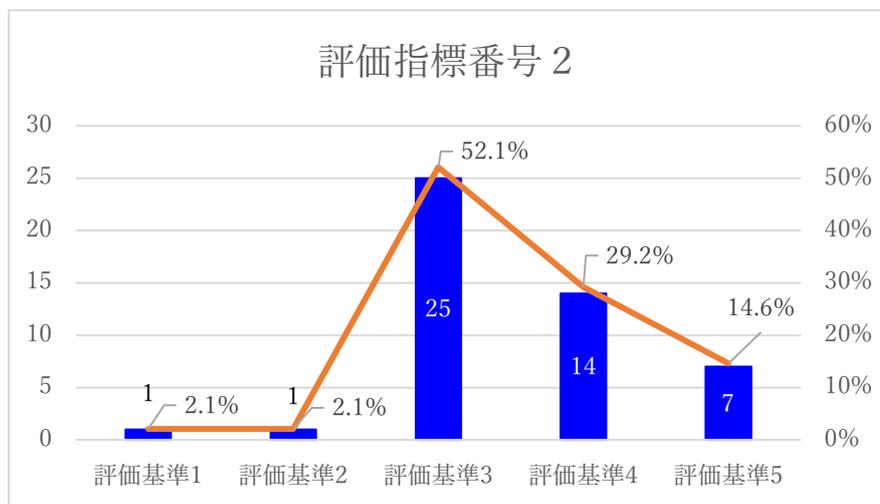
●【名称非公開】

- ① 大学と附属学校園との間で運営協議会を組織し、附属学校園の運営に関して両者が定期的に協議している。また、各附属学校園では学校評議員制度を挿入し、評議員が校園長の行う学校運営等に関して意見を述べている。
- ② 各附属学校では、学校運営協議会に大学関係者も委員として参画し、大学、附属、地域のそれぞれの立場から意見を出し合って、附属学校の運営を行うとともに、その評価を行っている。また、教育学部の運営協議会があり、教育委員会、高校校長等を構成メンバーとして参画いただき、教育学部の運営評価の中に附属学校についても話し合っている。

評価小項目：共同研究・共同教育活動

評価指標番号2：大学・学部と附属学校園において研究・教育実践の成果の共有や、教員養成カリキュラム改善につなげる体制ができている。

(想定される回答者：大学・学部)



【評価基準】

- 1：大学・学部は、附属学校園と研究・教育実践を共同で企画・推進する組織体制について検討している。
- 2：大学・学部は、附属学校園と研究・教育実践を共同で企画・推進する組織体制を整備したところである。
- 3：大学・学部は、附属学校園と研究・教育実践を共同で企画・推進する組織体制を整備し、一部の附属学校園と共同研究・教育実践を行い、これらの成果を共有している。
- 4：大学・学部は、附属学校園と研究・教育実践を共同で企画・推進する組織体制を整備し、全ての附属学校園と共同研究・教育実践を行い、これらの成果を教員養成カリキュラムの改善につなげた実績がある。
- 5：大学・学部は、附属学校園と研究・教育実践を共同で企画・推進する組織体制を整備し、全ての附属学校園と共同研究・教育実践を行い、これらの成果を恒常的に教員養成カリキュラム改善につなげるシステムを構築している。

具体的好事例の内容：

●【岩手大学教育学部】

教育学部と附属学校との共同研究強化を促進するための仕組みとして、学部長裁量経費による「教育学部プロジェクト推進支援事業（学部 GP）」を設定している。同 GP では教育学部と附属学校が、社会のニーズや岩手県の学校が抱える諸課題に対する改善方策や新たな教育方法等について共同で研究・開発を行っており、附属学校ではその実践的な検証と教育現場へ公開を行い、教育学部ではその成果を学生教育に活かすとともに学術的に「教育実践研究論文集」として公開している。

●【秋田大学教育文化学部】

学部・附属学校園との共同利用施設として附属教職高度化センターが設置されており、研究・教育実践の成果の共有が出来ている。

●【山形大学】

大学教員と附属学校園教員（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）で構成される共同研究部会を設置している。教科・領域等による共同研究部会の中で検討した ICT 活用についての授業アイデア等を、令和 4 年度から学部の教育実習の一部に加えている。また、令和 4 年度は、教員養成カリキュラムの改善を図るため、大学と附属学校園との共同研究・教育実践の成果を踏まえた「教育実習プログラム」の作成に着手している。

●【宇都宮大学共同教育学部】

附属中学校教育実習の実践における大学の教科指導法授業の有効性を、7 教科を対象にアンケートにより調査を行った。教育実習では実習生の 72.4%が有効と回答、附属学校での実践に大学の指導法授業が有益であることが示された。小学校・中学校では、プロジェクト研究で大学教員が参加する授業が増え、授業研究会での議論から附属学校教員と学部教員が課題を共有し、実践を通して授業改善に取り組み、アクティブラーニング指導法構築への実績を積み重ねることができた。

●【千葉大学教育学部】

毎年、学部長裁量経費により附属学校・学部連携研究を募集し、学部教員と附属学校園教員に共同研究予算を配分している。その研究成果は、研究論集として発行するとともに、研究会や授業改善に役立っている。

●【東京藝術大学音楽学部】

教育実習事前指導の一部を附属学校で実施し、教育実習における実践の具体や課題を実習生全体で共有し、理解を深めている。また、高大連携の観点から双方に授業を開設したり、学生と生徒が同じ授業を受講できる授業を設けたりして、カリキュラムの改善に役立っている。

●【お茶の水女子大学】

本学は、附属学校園の研究・教育実践を企画・推進する組織として学校教育研究部を置いている。学校教育研究部は、各附属学校の教諭と大学の教育科学コース所属教員を主任研究員として構成しており、附属学校園の研究・教育実践を大学の教員養成カリキュラムの改善につなぐことが可能な体制となっている。大学は、教育実習専門部会の構成員に各附属学校園教諭を置き、大学・附属学校園一体となった教育実践の改善体制を構築している。

●【横浜国立大学教育学部】

学内に ESD や GIGA のプロジェクトチームを創り、附属学校との協働の中で実践を進めると同時に、現代的教育課題科目として学部の新規の授業を立ち上げている。

●【福井大学教育学部】

教育学部の組織であり、本学部の教育課程編成を担う教育課程委員会と、教育実習の計画および運用を担う教育実習委員会が合同で会議を実施することで、教育実習の改善に資する対応を行っている。例えば、両委員会組織では、教育実習の振り返りおよびフィードバックを教育実習委員会で行うが、教育実習委員会と教育課程委員会を合同で実施することで、教育実習の反省を踏まえた教育課程編成の一助になっている。

●【信州大学教育学部】

附属学校と学部教員が共同して進める教育研究プロジェクトについて申請してもらい、学部長裁量経費で総額 180 万円の予算を用意して審査し、5 件のプロジェクトを採択・支援した。

●【岐阜大学教育学部】

大学・学部と附属学校では、附属学校の研究・教育実践を協働で企画・推進する研究計画として、総合的な学習の時間と道徳、生活科を融合した「どう生きる科」という横断的・総合的な授業のカリキュラム開発に取り組んでいる。

●【神戸大学】

附属学校部内に「大学連携研究支援部門」を設置し、総合大学の附属学校園である強みを生かし、各研究科の大学教員と附属学校教員との共同研究・連携研究を積極的に推進しており、その結果、全校園で共同研究の実施がなされている。とりわけ、附属幼稚園では人間発達環境学研究科と共同して、文部科学省委託事業を受託して実施しており、そしてその結果を教員養成プログラムにも反映させている。

●【山口大学教育学部】

各附属学校園の研究大会や学部附属共同研究は、附属学校園教員と学部教員の協働で展開され、成果発表をオンデマンド形式にしていつでも学べるようにしたり、研究大会の研究授業を学部授業で活用できるようにしている。

●【鳴門教育大学】

大学と附属学校園の協力のもと幼小中一貫型教育を目指しており、幼小接続の科学的思考力涵養プログラム等の成果を発信してきた。現在、その成果を大学のカリキュラムに反映させた授業を学士課程で 1 科目、専門職学位課程で 2 科目開設している。

●【愛媛大学教育学部】

教育学部内に「実習委員会」を設置し、附属学校園における実習を中心とした共同運営体制が構築されている。また、共同研究については、毎年、教育学部長裁量経費から一定額を、学部－附属共同研究推進のために組織的に充当し、活発に共同研究を行っている。これらの一連の成果を、教育学部の教員養成カリキュラムへの改善に繋げている。具体的には、これまでに「部活動指導論」、「一環教育・連携教育概論」や「インターン実習」などが教育学部のカリキュラムに導入されてきた。

●【高知大学教育学部】

テーマ：幼児期における防災・安全教育のあり方と教材の作成

概要：高知大学教育学部と教育学部附属幼稚園との連携により、附属幼稚園で実施される複数の発達段階に応じた避難訓練映像を収集した。当該映像は、教育データとして教育学部授業「子どもの理解と援助」に利活用し、発達段階に応じた子ども理解を促す資料としてカリキュラム改善にも活用した。附属幼稚園の避難訓練の実施計画および映像等を踏まえ、防災訓練に活用可能な「幼児の安全を育む絵本」教材を大学生とともに作成した。

●【福岡教育大学】

附属学校の研究成果について、附属学校の教育や研究・研修に携わった教員（校長、指導助言者、共同研究者等）が大学の授業に反映させ（一部はシラバスに明記）、学生の教員としての資質・能力の向上に役立てることとしている。

●【長崎大学教育学部】

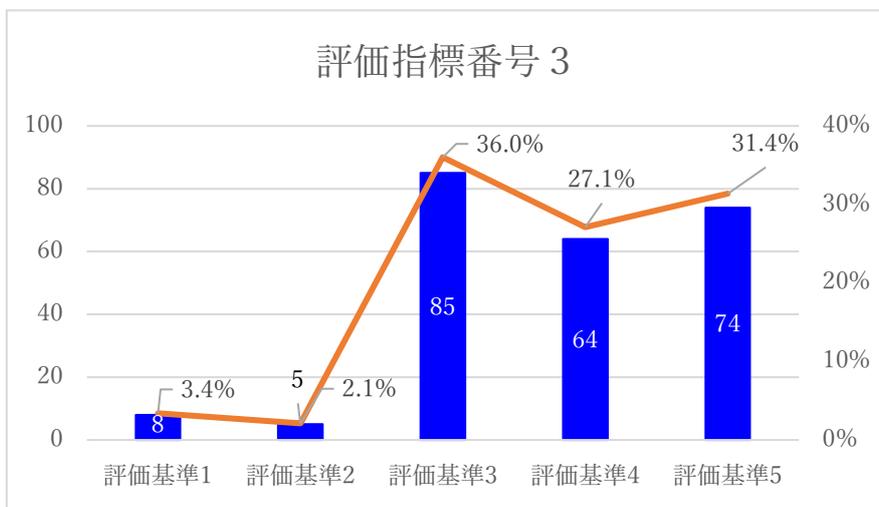
教育学部・研究科の研究企画推進委員会により、教育学部と附属学校園等の共同研究を推進する体制が整備・実施されており、研究科主催の教育実践研究フォーラムで研究成果を発表している。また、附属学校と保健体育専攻の共同研究の成果を基に、教育実習後に長崎県教育庁体育保健課が主催する研修会に学生が参加して指導力向上を図っている。さらに、教育実習委員会による学生の意識調査を利用したカリキュラム・科目内容の改善も実施している。

●【大分大学教育学部】

学部教員の専門領域や研究情報、協力可能な教科・分野（内容）、附属学校園の教員の校務や専門領域等の情報を集めた、学部独自の総合的なデータベースである「人材バンク」の設置により、学部とすべての附属学校園との連携体制が構築され、研究協力が推進されている。また、学部教員と附属学校園の教員の共同研究を推進する「短期プロジェクト」が、毎年、15件程度実施され、連携強化に寄与している。さらに、「学部・附属学校園連携委員会」のもとに「共同教育研究推進委員会」が設置され、学部と附属の毎年の共同研究やその研究成果の還元の様態について整理、分析することにより、学部・附属の共同研究を推進している。毎年実施している「附属学校園を活用した学部・大学院新任教員FD」は、附属校園への大学教員の意識を高めることにつながっている。教員養成カリキュラム改善については、学部教員養成カリキュラム検討委員会において、重要な検討事項について随時、審議している。また、学部附属合同実習委員会において、各年度の実習計画、実施後の成果および課題の分析・検討等を定期的に行っており、学部と附属学校園が協働して実習を運営する体制を構築している。

評価指標番号3：附属学校園と大学・学部が共同して教育実習について企画・検討する組織を有しており、その内容が教育実習のカリキュラムに十分生かされ、高い成果が出ている。

(想定される回答者：附属学校園)



【評価基準】

- 1：附属学校園は、大学・学部と連携しながら、教育実習を実施している。
- 2：附属学校園は、大学・学部とともに教育実習について企画・検討しながら、教育実習を実施している。
- 3：附属学校園は、大学・学部と共同して教育実習について企画・検討する組織体制を整備しており、教育実習を実施している。
- 4：附属学校園は、大学・学部と共同して教育実習について企画・検討する組織体制を整備しており、その内容が教育実習のカリキュラム改善に一部反映されている。
- 5：附属学校園は、大学・学部と共同して教育実習について企画・検討する組織体制を整備しており、その内容が教育実習のカリキュラム改善に十分反映されるとともに、学生の評価基準も明確にしている。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学附属札幌中学校】

教育実習委員会の構成委員に附属学校の実習担当者が加わり、実習全体の企画・改善に関わる場面がある。また、実習の事前・事後指導にも附属学校が関わることで、実習と大学での学習、進路選択につながりをもつようになっている。

●【弘前大学教育学部附属中学校】

学部の教育実習担当教員と附属 4 校園の校園長が一堂に会する「実習部門会議」が概ね月 1 回開催されており、実習に関する計画・実施上の留意点・評価等かなり細かい部分まで話し合われている。

●【岩手大学教育学部附属特別支援学校】

附属校園の職員と大学の職員で構成される「教育実習合同委員会」が組織されており、年 2 回、会議を行っている。コロナ禍における教育実習の対応について、会議だけではなく、必要に応じて検討し、共通理解を図りながら実施している。

●【宮城教育大学附属小学校】

附属学校園と大学の担当者が集い、協議する組織として実習委員会を年 3 回実施しており、そこでの議論を通して、実習内容の電子化を進めるなど、学生にとって学びやすく、教員にとって指導しやすい環境が整備されてきている。

●【秋田大学教育文化学部附属幼稚園】

附属学校園での教育実習の充実・改善に資する内容の実習生へのアンケートを実施している。附属幼稚園では、学部教員と実習の内容や研究保育等、連携を密に取りながら、担任からの指導、ならびにカンファレンス等、事後の反省会も充実した内容となっている。

●【秋田大学教育文化学部附属小学校】

実習生一人一人のニーズに応える実習となるよう、事前指導において実習生が実習課題を設定する場を設けている。実習において、指導教諭が実習生の課題に応じた個別のカンファレンスやリフレクションを行うことで、成果を実感できるようにしている。

●【秋田大学教育文化学部附属中学校】

大学において、大学の教育実習担当と附属中学校教員による実習委員会が年間 4 回開催されている。また、附属中学校の研究内容や実習生の評価基準の明確化などが協議され、実習運営に反映されている。

●【山形大学附属小学校】

大学と附属学校園が参加する教育実習連携協力校連絡委員会を開催し、実習の目的やプログラムについて共通理解するとともによりよい内容になるよう意見を交わしている。

●【山形大学附属中学校】

実習担当のみならず、指導教授の方々も来校し、実習生の様子を参観し情報交換等を行っており、実習生に対し具体的な助言ができています。

●【茨城大学教育学部附属幼稚園】

教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱと段階的に実習を実施している。実習終了後もボランティア等で保育に参加し、学習し続けられる工夫をしている。

●【茨城大学教育学部附属特別支援学校】

大学に教育実習委員会の組織があり、学科の教員及び附属特別支援学校の教育実習主任と定期的に教育実習全般について企画・検討を実施し、教育実習のカリキュラム改善に努めている。

●【筑波大学附属学校園】

大学の「教職課程委員会」の委員として、また、教育実習の「事前指導」・「事後指導」における講師として、各附属学校から教員を派遣している。さらに、実習生が活用する冊子「教育実習手帳」の改編作業等にも附属学校の教員が携わるなど、大学と共同して教育実習の企画・検討に当たっている。

●【筑波大学附属高等学校】

筑波大学の教職課程を取りまとめる教員と附属 11 校の教育実習運営担当教員（計 40 名程度）が集まり、年に 4～5 回会合を持つ場がある（全学学群教職課程委員会）。ここでは学生の単位認定を含めた評価に関する事、附属各校での実習報告や大学への要望、実習の事前・事後指導の実施方法などに関する議論に加え、それぞれの立場から各種情報の共有を行なっている。また、附属学校の教員も、事前・事後指導の授業を担当している。

●【筑波大学附属聴覚特別支援学校】

教育実習事前指導における講師派遣。

●【宇都宮大学共同教育学部附属学校園】

実習主任が中心となって教育実践専門委員会と綿密に連絡を取り、事前調査で把握している学生の情報を共有し、学生の学習面、心身の状況等に応じた支援をしながら教育実習でのつまずきがないようにしている。また、学生たちの教職員志向が高まるような実習を目指すため、実習後には次年度に向けての改善点の検討や中長期的なカリキュラムの改定の方向性に向けての協議を行っている。

●【宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園】

実習の見直しを行い、幼小中の子どもの発達の連続性を踏まえ、小中学校の実習を終えてからの幼稚園の観察実習を行うカリキュラムにしたことで、学生の意識の向上につながっている。毎年、実習主任と教育実践専門委員会とで具体的な実習の方法について検討をしており、短時間ではあるが、発達の連続性について議論する機会となっている。

●【宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校】

学生の評価基準に関しては大学と検討しながら明確にし、教員間で実習前に共通理解を図るようにしている。

●【埼玉大学教育学部附属小学校】

コロナ禍において例年とは違う対応が多々生まれたが、その都度大学側と話し合う機会をもつことで、大学、実習校両者の負担と、学生の学びの機会の保障のバランスの取れた判断をすることが出来た。

●【千葉大学教育学部附属幼稚園】

教育学部幼児教室の大学教員と共に教育実習を企画・検討して進めている。大学教員は大学 1 年生の授業から幼稚園の参観を通して幼児教育の意義を伝えたり、教師の援助や環境構成について講義をしている。その流れの中で、3 年生でコア実習、4 年生で発展実習を行い、事後実習を大学と連携して幼稚園で行っている。

●【東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）】

教育実習に限らず、大学 4 年間を通した教員養成カリキュラムについて、大学と附属幼稚園で、毎年、検討・改善を行っている。実習について、本学全附属学校園が掲載されている学生用手引きと附属教員用サポート冊子により、他学校種の情報も得ながら、幼稚園実習の検討・改善を行っている。教職大学院実習の受け入れやインターンシップの受け入れも行い、多様な教員養成・実習の在り方についても、検討を進めている。

●【東京学芸大学附属世田谷小学校】

大学の組織として「教育実習委員会」があり、大学と各附属学校の担当で教育実習についての計画をしている。

●【東京学芸大学附属小金井小学校】

大学側の組織と附属学校の担当組織の情報共有できる手続きが確立され推進されている。また、実習時における大学との連携や事後のフィードバックが、次年度の取組に積極的に活かされている。

●【東京学芸大学附属大泉小学校】

本校では校務分掌として教育実習部があり、その代表が大学の実習委員会に参加して、毎年、実習の内容について検証している。

●【東京学芸大学附属竹早小学校】

大学と附属の実習部において、運営方針はもちろん、学生個人の情報についても共有しながら、よりよい実習を提供できるよう努力している。

●【東京学芸大学附属小金井中学校】

大学と附属学校園の双方が参加する実習委員会において企画・検討を行い、カリキュラムの改善を行ってきた。大学が推進する実習日誌のデジタル化に対して、本校は学内の他附属学校園に先がけて、試行年度の段階から学校全体で率先して参加してきた。

●【東京学芸大学附属竹早中学校】

年間を通して委員会を実施し、実習期間中は、大学担当者と緊密に支援を行っている。

●【東京学芸大学附属高等学校】

全学的な教育実習委員会が本学の教育実習について総括的に方針を示し、専任教員が実務的に対応する教育実習グループがある。附属学校の教育実習担当教員が附属学校校内組織への連絡調整を行い実務的に対応している。教育実習の評価基準として定められており、各校の事情により柔軟に対応させるなど実質的調整機能も有する。

●【東京学芸大学附属国際中等教育学校】

大学の先端教育人材育成機構教育実習グループと附属学校の実習委員会が定期的で開催されており、附属学校での実情や意見が実習運営に反映されている。大学と附属学校の担当者および管理職は密に連絡を取りあい、情報を共有しており、学生が抱える問題の解決に努めている。指導教員による学生の教育実習における評価について、評価基準は明確である。

●【東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校】

担当としては、大学の教務係と本校の教育実習担当が連携し、また現在は附属音楽高等学校長は大学の音楽教育の教授が兼務しているため、しっかりとした連携が取れている。

●【横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校】

実習記録の様式変更等について、附属学校の意見を取り入れて大学が改善を図っている。結果的に、附属学校教員の負担軽減になった。

●【横浜国立大学教育学部附属横浜小学校】

実習日誌のフォーマットの改善、実習内容（授業数等）の見直しを行い、教職員の働き方や学生の負担も考慮した実習となるよう努めた。

●【横浜国立大学教育学部附属特別支援学校】

教職のよさや魅力を伝えることに視点をおき、全員対象の研究授業を一部とし、変更して研究協議を行い、実習生目線での気づきや課題に対応できるようにした。

●【山梨大学教育学部附属幼稚園】

教育実習が終了するたびに、大学の担当教員が反省や課題を聞き取り、その後、教育実習運営連絡協議会、そして、教育実習検討委員会が実施される。大学学部と附属学校園、実習協力校から出された意見を基にその都度見直しが図られている。

●【山梨大学教育学部附属小学校】

教育実習生の担当授業及び研究授業について、回数、指導案の検討、準備体制等を大学側と共通理解しながら進めるとともに、観察実習として2年次学生にも参加してもらい、大学教員とも連携している。実習録の形式やシステム化についても大学側と連携しながら検討し、学生にとってもよりよい形での教育実習を模索している。

●【新潟大学附属幼稚園】

大学・学部担当者、附属校園長及び教育実習担当職員で構成される教育実習委員会を定期的開催し、教育実習の実施方針や方法についての共通理解を図るとともに、カリキュラムや評価項目、評価基準等の検討・改善を行っている。今年度は、学生の実態や現場職員の声を基に、評価の観点についての検討を進めているところである。

●【新潟大学附属新潟小学校】

教育実習生の中に個別の配慮を要する学生がいたが、大学の指導教員と連携を図り、事前に当該学生の情報共有を行い、学生にとってできるだけ無理のないカリキュラムになるように配慮することができた。また、教育実習生は100名近くおり、教育実習生に給食を提供することが困難な現状があったが、大学担当職員との打合せや大学の教育実習委員会での検討を重ね、効率的な昼食（弁当）手配を実施した。

●【新潟大学附属長岡小学校】

教育実習委員会で企画・検討し、学校現場のニーズに応じて、教育実習のカリキュラム改善及び学生の評価基準の変更を行った。

●【新潟大学附属長岡中学校】

教育実習委員会を定期的実施し、評価基準の検討やICT機器の活用などこれからの教育に必要な内容や実践的な内容を実習に取り入れるように検討を行い、改善に努めている。

●【富山大学教育学部附属小学校】

コロナ禍での教育実習の実施については、学生がワクチン接種を確実に終えてから行っている。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園】

大学、附属学校園、協力校の教員が集まり、実習運営委員会を年に数回実施している。実習生の評価に関しては、実習終了後、大学教員、附属学校園配属学級担任、実習生の3名による実習事後指導として、話し合いを行い、その後、大学教員、担任がその場で評価を決定する。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校】

教育実習校として大学と連携を図り、計画・運営及び実習生の指導にあたる。教育実習運営委員会を定期的実施し、前年度の反省をもとに見直しを図っている。コロナ禍での実施となった近年は、状況を見ながら大学と協議し、期間や方法等、柔軟な対応を取りながら進めている。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校】

中学校の教育実習主任と大学の教育実習担当教授との間で年間5回教育実習運営委員会を実施して、カリキュラム改善に役立てている。実習後、中学校の指導教諭、大学の担当教官、学生の間で評価基準をもとに話し合いが行われ、それを踏まえて評価がされている。

●【福井大学教育学部附属義務教育学校】

本校での教育実習実施に向けて、「教育課程及び教育実習合同委員会」で大学教務課と協議し、実習前に、事前指導3回、授業参観2回を実施している。今年度から、1回目の事前指導の際に、担当する单元等について実習生に伝達することとした。大学の授業においても教材研究を進め、実習開始後からではなく、事前指導の段階から指導案の検討ができるようにするためである。評価基準は事前に学生に周知している。

●【福井大学教育学部附属特別支援学校】

特別支援学校免許を取得するカリキュラムの変更に伴い、大学当局の構想と附属特別支援学校の受け入れ体制や実施時期、実習内容や方法について話し合いながら調整している。

●【信州大学教育学部附属学校園】

学部の教育実習担当教員は、附属の様子を理解した上で事前の打ち合わせや情報共有、カリキュラム作成はもちろん、実習中の情報提供、参観、実態把握を細やかにしていただき、学部との連携を強固なものにしている。それが、カリキュラムの柔軟な作成・修正や評価基準の設定にもつながっている。

●【信州大学教育学部附属長野小学校】

本校を含めた附属学校園と教育学部教務部、教職大学院の実務家教員との連携を密にして、3年次及び4年次の教育実習についてコロナ禍においても実習を止めないカリキュラム、代替カリキュラムを構築・改善し、コロナ禍においても実習の質を低下させない教育実習の取組を行ってきている。教育実習生の評価に関しては、代替カリキュラムも含めて評価基準を明確に設け、評価している。

●【信州大学教育学部附属長野中学校】

学習指導案の書き方、実習に取り組む姿勢等の指導を方向を合わせて進めている。また、ICT機器を活用した授業の推進や学部の先生の研究につながる授業実践を行ってきている。

●【信州大学教育学部附属松本中学校】

学部と附属学校園とか共同歩調で教育実習に臨むことを重視している。学部の担当教員と事前の詳細な打合せは勿論、実習中も毎日情報交換を行い、カリキュラム編成から評価まで、実習生の実態に合わせた改善を継続的に行っている。今日的課題であるICT活用の授業についても教育実習生が実習の中で実践している。

●【信州大学教育学部附属特別支援学校】

実習連絡会が位置付けられ、企画から運営、評価まで、細部にわたり教育学部と検討、共有がなされている。令和3年度は、コロナ禍の中、学部協力のもとICTを活用した完全オンライン実習を企画・運営した。

●【静岡大学教育学部附属幼稚園】

実習企画部会として、管理職だけでなく、附属学校園の実習担当が運営組織の中で意見を出したり、講話を行ったりしている。

●【静岡大学教育学部附属静岡小学校】

教育実習にかかわる附属学校園の校長と大学の担当者の会議や、附属学校園の実習担当者と大学の担当者の会議など会議があり、それぞれの教育実習の反省を次の教育実習に生かしたり、個別に配慮を要する実習生の情報を事前に各学校園に伝えてくれるので、適切に対応できる。

●【静岡大学教育学部附属浜松小学校】

配慮すべき実習生について、事前に詳細を連絡してくれている。

●【静岡大学教育学部附属静岡中学校】

大学の実習担当の先生を中心に組織で学校で起きた問題や要望等に、丁寧かつ迅速に対応してくれる。とても感謝している。

●【静岡大学教育学部附属浜松中学校】

附属学校園と大学・学部が共同して教育実習について企画・検討する組織を有しており、その内容が教育実習のカリキュラムに十分生かされ、高い成果が出ている。

●【静岡大学教育学部附属島田中学校】

教育実習担当が参加する会も充実しているが、各校園長も参加する教育実習企画部会も開かれ、詳細についてまで情報交換がされている。また、学生個々の情報共有についても、丁寧に行われている。実習校である附属学校園からの緊急連絡体制も整えられている。

●【静岡大学教育学部附属特別支援学校】

特別支援教育実習の内、特別支援教育専攻以外（以下：他専攻）の学生の特別支援教育実習について、昨年度までは、4年次の5月に3週間まとめて行っていた。しかし、それでは、他専攻の学生が特別支援学校を進路の選択肢として検討する時期に間に合わないという実態があった。そのため、今年度からは、静岡大学の教育実習企画委員会での検討を重ね、3年次の7月に1週間と4年次の5月に2週間の2回に分散して実施する方法に改善した。学生からは、進路選択の幅が広がり助かったという評価があり、学校側としては、特別支援教育を希望する学生の増加に貢献できると考える。

●【愛知教育大学附属幼稚園】

教育実習に関わる教育実践開発科目運営委員会を大学にて定期的に実施し、前年度の反省や附属学校園の実情を基に見直しを行い、改善に努めている。

●【愛知教育大学附属名古屋小学校】

学長、学部長も出席する附属学校運営会議を設置して附属学校の運営を進めている。近隣の教育委員会との意見交換を行う会議を開催し、附属学校の取組について校長が報告し、協力依頼を行っている。

●【愛知教育大学附属名古屋中学校】

新型コロナでオンライン授業に切り替えた際、実習についてもオンラインによる説明や授業観察ができるように対応をしてもらい、互いに安心できる状態で実施することができた。実習前に事前指導として、本校の教員が大学に赴き、指導案の書き方や教科の授業について伝える機会をもてた。

●【滋賀大学教育学部附属小学校】

学部教育実習委員及び附属学校園校長、副校長、教育実習主任から構成される「附属学校園教育実習連絡会」を定期的に実施し、改善に努めている。また、教育実習に限らず、大学4年間を通した、大学と附属学校園での教員参加カリキュラムができており、適宜、検討・改善を行っている。教職大学院の学生も年間を通して附属学校で実践研究を行っている。

●【滋賀大学教育学部附属中学校】

組織を介してコロナ禍の実施体制や日程変更、学生への個別対応を丁寧に行うことができた。教員免許に関する実習だけでなく教育参加プログラムとして1回生からの教育実習カリキュラムを毎年組織を介して改善しながら実施している。

●【京都教育大学附属幼稚園】

園児の人数と年齢に応じた受け入れに適切な実習生の数を大学の先生と検討し、A班B班に分けての実施、内容の検討をしながら、学生の経験、教師の働き方改革などのバランスを考え、様々な視点から検証中である。

●【京都教育大学附属桃山小学校】

大学と共同して企画・検討する組織での振り返りを行う場が適切に設定されており、また、学生自身が自らの実習を振り返り、改善策を提案できる場も設定している。そこで得られた提案を大学、附属学校ともに共有できている。

●【京都教育大学附属京都小中学校】

大学と協働した基準となる指導案書式、実習日誌書式や、教育実習事前指導などの策定・実施。教職大学院への実務家教員派遣、教育実習受け入れ。

●【大阪教育大学附属高等学校（平野校舎）】

附属平野地区では、五つの校舎種が揃う特色をいかし「五校舎連携型教育実習」を実施している。これは、実習校舎以外の校舎を訪問し、子どもの観察や授業観察、管理職による講義等のプログラムをとおして、各校舎の教育活動への理解を深めることを目的としている。各校舎での観察・受講内容は実習生全員と共有し、各校舎での指導・支援の共通点や相違点を考察することにより、発達段階に応じた指導・支援のあり方について理解を深めている。

●【大阪教育大学附属高等学校（池田校舎）】

教育実習の実施に当たって指導教員用のマニュアルを配布し、教育実習の質を担保するように努めている。また、教育実習後に受講生に対してアンケート調査を実施し、教育実習のカリキュラム改善に活用する計画である。

●【兵庫教育大学附属学校舎】

令和2年度に「附属学校舎実地教育メンター研修プログラム策定WG」を設置して、教育実習に係る実習指導教員研修プログラムを策定し、令和3年度から実施。この研修プログラムでは、学生への事前指導内容の視聴、附属学校舎の実習指導教員への事前説明会や各校舎内研修のほか、教育実習終了後に、附属学校舎教員や大学教員が参加する合同リフレクション研修会を開催し、実習指導に関する報告や次年度の実習指導に向けた改善点の協議等を行い、より教育効果を高める教育実習となるよう改善を図っている。学生の評価基準については、教員養成スタンダード(学部)として、評価基準を明確に示している。

●【神戸大学附属特別支援学校】

本校では毎年学生から実習後にアンケートをとり、カリキュラム等内容の改善を図っている。それを踏まえ、教育実習前には、各附属ごとに大学との教育実習会議を持ち、実習時期と内容について確認検討している。実習終了後は全附属学校と大学とで教育実習反省会議を持ち、大きな課題について確認をしている。

●【奈良教育大学附属学校舎】

平成30年度に策定された教育実習ポリシー及び指標に基づき教育実習を行っている。事前・実施・事後にて教育実習委員会が開催され、大学の担当教員と附属の担当教員が内容等を検討するとともに、実習後には評価指標と実習内容を照らし合わせ、必要に応じて見直すなど適宜、検討・改善を行っている。

●【奈良教育大学附属幼稚園】

実習生の評価を実習生にかかわる全教員でポリシーに基づいて行うことで、年々実習内容がブラッシュアップされている。

●【奈良女子大学附属幼稚園】

幼稚園教育実習担当の大学教員と附属教員の連携を綿密に行い、現場で幼児教育の実践環境に触れることを重視し感染拡大予防の十分な対策の基、教職実践演習及び各種実習を実施した。実習後だけでなく、実習前の実習生の評価を大学教員と附属幼稚園で共有するシステムを構築した。また、保育内容指導法は、実際の環境に触れ具体的実践事例から学びを得るため附属幼稚園の教師が担当するなど、教員免許取得のための講義に附属教員が積極的にかかわっている。

●【奈良女子大学附属中等教育学校】

大学教員・事務方・中等教員が、毎年12月に教育実習反省会をもち、教員や学生の評価にもとづいた振り返りを実施している。またその審議結果にもとづいて、次年度の実施計画や学生評価のあり方の改善をはかっている。

●【鳥取大学附属小学校】

基礎実習（3年）と応用実習（4年）の評価基準を見直し実習の実態に合わせて配点の変更を行った。

●【鳥取大学附属特別支援学校】

実習については大学の担当者等と連絡調整、事後の話し合いを行っている。実習生の評価に関すること、実習生のアンケートによる課題等について情報共有し、改善策について協議している。大学2年生においても実習を受けている。

●【島根大学教育学部附属学校園】

実習生の授業実践に向けての指導案作成や模擬授業の実施等において、大学の教員と附属学園の教員の双方が実習生に関わりながら指導にあたっている。実習中も大学、附属学園の実習部の教員を中心に、実習生の様子や授業の予定等の連絡を密に取り合い、状況に応じて大学の教員も附属学園に来校し、授業や実習生活について指導や助言を行っている。実習終了後には、大学、附属学園の実習部で、実習の内容や運営面についての見直しを行い、次年度に向けてのよりよい教育実習の在り方について検討を重ねている。

●【岡山大学教育学部附属学校園】

実習専門委員会において、学部と附属学校園の実習担当者が感染対策を行いながら最大限の効果を得られるよう教育実習カリキュラムを工夫し、その成果と課題を踏まえて実習指導科目及び教育実習科目の改善を行っている。

●【岡山大学教育学部附属特別支援学校】

大学4年間の学びを見通して主免教育実習4Wのねらいを1Wごとに設定し、実習期間を分け(2年次に1W+3年次に3W)、大学での学びと連動できるようにしている。

●【広島大学附属学校園】

教育実習連絡協議会(年3回)を開催し、大学学部関係教員・附属学校関係教員が参集して運営等に関して意見交換や協議を行っている。学部・附属学校共同研究プロジェクトにおいては、教育実習がテーマとされることが多く、教育実習指導の諸課題について大学・附属学校で共同研究を進め、研究紀要等で成果発表が行われている。

●【広島大学附属小学校】

教育実習委員会によって、評価規準、評価シートが作成されており、教科担任制を生かした教育実習を実施している。

●【山口大学教育学部附属幼稚園】

教育実習計画委員会により、学部と附属共同で教育実習について検討している。保育内容・映像を学部授業で活用、園での保育観察・参加と保育後の担任との話し合い、学部授業への幼稚園教諭の参画などを実施し、学部1~4年までの幼児教育の授業内容と教育実習内容がリンクするよう検討し、カリキュラムに反映させている。また、学生が学部提出する保育参加レポートや園に提出する実習課題などを学部と附属が共有したり、学部の授業レジュメや実習指導内容を共有したりして、学生の学びの内容を共有している。

●【山口大学教育学部附属山口小学校】

教育実習について学部と共同して企画・検討する「教育実習計画委員会」を組織し、年2回の会議をもとにカリキュラムを作成している。また、学生の評価規準についても、共同で作成し、学生に明確に示している。

●【山口大学教育学部附属特別支援学校】

教育学部長、副学部長、教育実習部の大学教員等及び附属学校園校長、教育実習担当教諭等から構成される「教育実習計画会議」が実施され、前年度の反省を基に見直しが行われている。今年度は、実習期間や評価についての改善が図られた。

●【鳴門教育大学附属幼稚園】

大学担当者との会議で、計画や評価指標の検討を行っている。今日の教育課題を実習内容に組み込むなど、大学と附属学校とが方向性について話し合い、計画や評価基準等に反映している。

●【鳴門教育大学附属小学校】

大学の実習担当の教員と本校の担当が連絡を取り合い、充実した実習になるように努めている。

●【香川大学教育学部附属坂出小学校】

教育実習カリキュラムについては、コロナ禍等の状況に合わせて、大学教員とともに検討・改善を図りながら、柔軟に対応している。例えば、令和2・3年度は、日程の短縮やオンラインでの事前指導を行った。

●【香川大学教育学部附属坂出中学校】

教育実習実施専門委員会を定期的実施しており、前年度の反省をもとに見直しを行い、改善に努めている。コロナ禍の中、不測の事態が起きた際も、連携を密にして対応できている。

●【香川大学教育学部附属特別支援学校】

教育学部及び附属6校園で運営会議を行い、計画や調整を行っている。

●【愛媛大学教育学部附属学校園】

教育学部に実習委員会を設置し、当該委員会と各附属学校園の実習担当者が教育実習の内容を、より充実したものになるよう検討を重ねてきている。また、実習の評価基準についても明確にしている。今年度は学生への合理的配慮についても関係者間で事前に何度も情報交換し、改善に努めた。これまでの実習の在り方に関する検討により蓄積された知見をもとに、教育学部の実習関連科目群の体系化（実習・省察科目の体系化）と事前事後指導、リフレクション等の一連の実習体系化がなされた。

●【高知大学教育学部附属学校園】

教育実習運営協議会を設置し、教育実習の企画、運営を協議し、教育実習のカリキュラムの改善、評価基準の明確化・改善を行っている。

●【高知大学教育学部附属幼稚園】

学部教員と附属学校校長等で構成される教育実習運営協議会において、各附属学校の取組内容の確認や成果・課題の整理、改善案の検討を行っている。また、学部教員の実習先への訪問では、現状把握とともに年度ごとの学生の状況に合わせた取組方法について検討するなど、教育実習の質の向上を図っている。

●【高知大学教育学部附属特別支援学校】

教育実習プロジェクトの会で大学と4附属校園が様々なことを検討し、共有し取組をすすめている。プロジェクト会議で決められた事柄を教職員に周知し、校内の窓口は教育実習委員の教員がなり、大学と連携をしながら教育実習に取り組んでいる。特に現在は、新型コロナウイルス感染症対策も大変大きなウエートを占め、実習前や実習中の学生の健康管理等も連携して取り組んでいる。

●【福岡教育大学附属学校園】

「学校における実習および体験活動委員会」という全学委員会にて教育実習、その他の実習及び体験活動、介護等体験に関する企画・検討を行っている。本学では、委員会の審議のもと「体験実習」「観察参加」「基礎実習」「本実習（主免実習）」「教育総合インターン実習」といった4年間の系統的な教育実習を行っており、附属学校園と連携して大学のカリキュラムを踏まえた授業づくり等に関する実践的指導を行っている。

●【佐賀大学教育学部附属幼稚園】

教員養成カリキュラム委員会や教育実習委員会にて、感染予防策や実習日誌及び評価等について協議し、改善に努めている。

●【長崎大学教育学部附属幼稚園】

教育学部・教育学研究科教育実習委員会に本園担当者が出席し、実習内容や実習生への対応等について協議している。コロナ感染症の影響で実習期間中に実習ができない学生の措置についても、学部と園と連携をとりながら、臨機応変に柔軟に対応している。実習後には学部教員と実習評価委員会を開催し、評価基準を明確に示した上で評価している。

●【熊本大学教育学部附属幼稚園】

実習委員会において、大学と附属学校が実習生に係る参加の在り方等について意見を出し合い検討することで、より主体的な実習参加となるような改善に繋がっている。

●【熊本大学教育学部附属小学校】

コロナ感染対策等連携して教育実習の実施できている。

●【熊本大学教育学部附属特別支援学校】

校務分掌組織に教育実習部を位置付け、大学・学部と適宜連携、相談をしながら対応している。月に1回教育実習委員会が開催されており、成果や課題等も共通認識のもと取り組んでいる。

●【大分大学教育学部附属幼稚園】

幼稚園の実習での初の試みとして、大学側とも協議したうえで、所属外のクラスにも保育実践を実施した。改善点が次の保育に反映されているかを評価項目に入れるなどした。実習生にとっては、子どもの実態をより把握して保育に取り組まなければいけないことを実感している。

●【大分大学教育学部附属中学校】

教育実習生の中に、精神的な面で配慮を要することがあり、実習に入る前の表情や実習の様子、姿勢等について、大学側の担当教員等と連携して実習を行うことで、より教育実習生に適切な指導や助言を行うことができた。

●【宮崎大学教育学部附属小学校】

大学と附属学校園で開催する実習運営委員会での検討事項を本校教育実習計画に反映させ、全職員で共通理解を図っている。また、評価規準を作成し、学生を適切に評価できるようにしている。評価結果については、実習運営委員会で報告を行っている。

●【鹿児島大学教育学部附属特別支援学校】

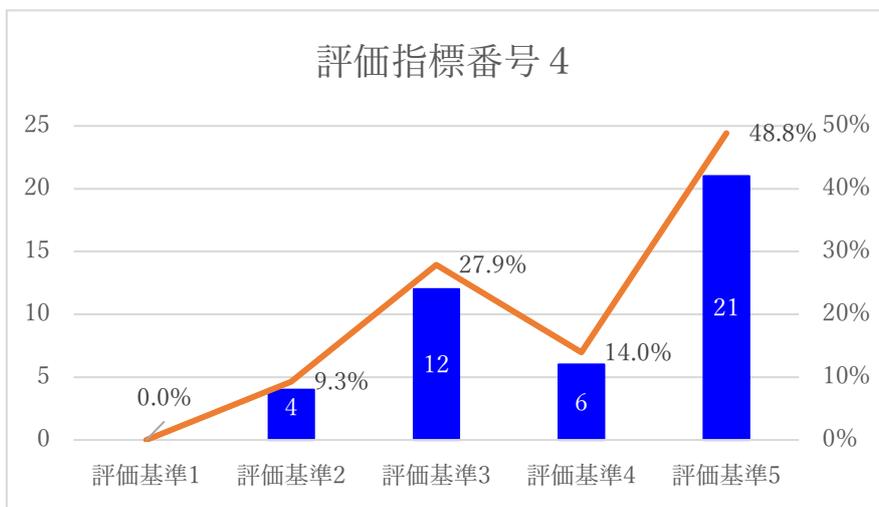
大学・学部と附属学校間で教育実習連絡協議会を年2回実施し、教育実習に係る大学の方針や附属学校側からの意見・要望等を確認したり、教育実習運営に係る協議等を行っている。学生の評価については、評価規準及び基準を明文化するとともに、毎年教育実習前に校内（教師間）で確認する機会を設けている。

●【名称非公開】

- ① 令和2年度以降、コロナ禍における実習期間や日数を協議し設定した。それと連動させて、実践授業の回数や授業参観の方法等を協議して決めた。
- ② 毎年、教育実習では、教育実習事前指導、教育実習、教育実習事後指導に加え、2回生を対象に教育実地研究Ⅱ（附属小・中学校での授業参観及び3回生教育実習の見学等）を、1回生を対象に教育実地研究Ⅰ（附属小・中学校での授業参観※本年度はオンラインで）を実施している。

評価指標番号4：【教職大学院を設置している大学のみ回答】教職大学院における研究実践フィールドとして、附属学校が活用されている。

(想定される回答者：大学・学部) ※対象校数：47



【評価基準】

- 1：大学・学部は、教職大学院のカリキュラムにおいて、附属学校園を研究実践フィールドとしてほとんど活用していない。
- 2：大学・学部は、教職大学院のカリキュラムにおいて、附属学校園を研究実践フィールドとして必要に応じて活用している。
- 3：大学・学部は、教職大学院のカリキュラムにおいて、附属学校園を研究実践フィールドとして恒常的に活用している。
- 4：大学・学部は、教職大学院のカリキュラムにおいて、現職教員・学部卒学生それぞれの力量を考慮した上で、附属学校園を研究実践フィールドとして恒常的に活用している。
- 5：大学・学部は、教職大学院のカリキュラムにおいて、現職教員・学部卒学生それぞれの力量を考慮した上で、附属学校園を研究実践フィールドとして恒常的に活用し、学生の研究内容に具体的に生かされている。

具体的好事例の内容：

●【弘前大学教育学部】

特別支援教育を専門とするコースの実習先として附属特別支援学校を活用し、院生の実践研究の場としている。

●【秋田大学教育文化学部】

附属学校を研究実践フィールドとして恒常的に活用するだけでなく、教職大学院と附属学校との合同FDを実施しインターシップの内容に関する改善を図るなどしている。

●【茨城大学教育学部】

教職大学院のカリキュラムの中に課題発見実習、教科領域実習Ⅰ、特別支援教育教材開発実習、養護科学実習として位置づけている。

●【宇都宮大学共同教育学部】

学部卒における1年次では教育実習科目「長期インターンシップ」を附属学校において実施している。各院生の研究テーマ、研究計画に基づき授業観察及び授業実践を行い、それに基づくリフレクション科目「リフレクションⅠ」を課している。そこでは、授業実践の成果と課題の検討、研究計画の見直し・修正等を行っている。

●【埼玉大学教育学部】

教職大学院生の実地研究先として附属学校園が位置づけられており、附属学校園での指導教員、教職大学院での指導教員連携のもとで院生の指導がなされている。

●【千葉大学教育学部】

新卒教職大学院生の実践活動場として附属学校園を恒常的に活用するとともに、教職大学院教員と附属学校園教員の授業改善に関する検討の場としても活用されている。

●【横浜国立大学教育学部】

附属学校教員の教職大学院派遣プログラムに加え、ストレートマスターの実践研究フィールドとして附属学校が有効活用されている。また、それら研究成果は学内の紀要等の論文にもまとめられている。

●【新潟大学】

学部卒院生は附属新潟校園において、1年次前期、週2回、継続的に教育実習を行うとともに、研究課題の発見につなげている。また多くの講義において、附属校園の教育実践を題材として授業を展開しており、一例として「発達理論の理論と実践（必修科目）」では、学卒・現職院生ともに附属幼稚園の保育参観、現場保育者との協議に参加することで、幼児教育や異校種間連携について学び、各自の研究課題の検討へとつなげている。

●【富山大学教育学部】

附属学校は、学生の実習の場となっており、課題研究のフィールドとなっている。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類】

全附属学校園との連携を恒常化するために、全学校園の校長または教員を教職大学院の兼任教授または特任教員とし、実務家・院生の専門に鑑み、附属学校園で学校実習を実施し、院生の研究テーマにつなげている。その際、本学独自で開発した「web実習システム」を活用し、きめ細やかなポートフォリオ的学習を実現している。また、各学校園・学類・教職大学院研究推進委員会を編成し、共同研究に取り組んでいる。

●【福井大学教育学部】

学校拠点方式を採用している福井大学教職大学院では、附属の各学校園も「拠点」となっている。特にストレートマスターの教職大学院生が、附属の各学校園で、各教科指導や学級経営等について学び、附属学校園教員とともに、その内容等を振り返ることを繰り返し、かつ、他の院生と共有することで、自分の学びを深めている。その経過・プロセスは、「最終報告書」の作成に活かされている。

●【信州大学教育学部】

本学教職大学院では学校拠点方式を採用し、附属学校園6校もそのフィールドに入っている。学部の研究者教員と附属に籍を置く実務家教員とが連携し、拠点校で教育研究を深める授業が学年ごとに隔週で展開され、附属学校がその中心的役割を果たしている。

●【滋賀大学教育学部】

ストレートマスター学生に対し、一部、学部生の実習と日程を重複させた実習を行っており、教職大学院生は、教えることのスキルを高めるだけでなく、メンター的な立場に立つことを踏まえた実習にもなっている。ストレートマスターの実習では、同一敷地内にある附属幼・小・中を連続して観察する機会がある。子どもたちの多くが附属学校園のなかで長期にわたり生活し成長しており、そうした子どもたちの姿を観察するとともに、校種を超えた教員間の連携を観察することができ、校種間連携の考察につながっている。特別支援実習を小・中・特別支援学校で実施しており、該当コースの現職教員・ストレートマスターの両方が、子供の特性理解や組織的対応について学ぶことができている。

●【京都教育大学】

教職専門実習の実習校として、またフィールドワークの実習フィールドとして恒常的に活用している。教科研究開発高度化系では、教職専門実習Ⅰの実習校として活用しており、学部新卒生の多くはこの実習での経験をきっかけとして修了論文を執筆している。学校臨床力高度化系の授業科目では、特徴的なカリキュラムを実施している附属学校をフィールドワークで訪問し、研究実践フィールドとして活用している。

●【岡山大学教育学部】

毎年1名の附属学校園教員が、教職大学院に派遣されている。

●【山口大学教育学部】

教職大学院のカリキュラムにおいて、附属学校園の研究大会を教職の高度化のための実践研究の学びの場にすることでなく、実践研究科目のなかで院生の実践研究課題に応じて附属学校園を研究実践フィールドとして活用できるようにしている。

●【香川大学教育学部】

教職大学院の学部卒生（授業力開発コース）は、「学校臨床基礎実習Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）」の授業科目で年間を通して附属学校で実践研究を行っており、大学院生によっては、修了時の教職実践研究の主課題としている。教職大学院の現職教員学生（学校力開発コース・授業力開発コース）は、「探究実習（不定期）」として附属学校を対象としてテーマ研究を行っている。

●【愛媛大学教育学部】

愛媛大学大学院教育実践高度化専攻（教職大学院）では、松山市内を中心とした小中公立学校、県内の公立高等学校、さらに大学附属高校、教育学部附属学校園を連携協力校として教育実践活動を進めている。実践では、豊富な連携協力校から、大学院生の教育研究のニーズに対応した実習先のマッチングを行っている。その中で、毎年、約10名程度の大学院生が、附属学校園を教育研究実践フィールドとして恒常的に活用して、教員としての資質向上に努めている。

●【高知大学教育学部】

教職大学院の教育実習において、学部卒院生の1年次の実習先を高校実習希望者を除いて附属学校園にしており、実習を通して教育実践研究を行っている。学部卒院生は、附属学校園を研究実践フィールドとして、自らの研究課題の現実的現象を見取り、その解決に資する理論を具体的実践として解釈する探究をすすめ、具体的教育活動や実験的授業を一部実践してその有効性を検証・省察しさらなる研究課題を得て実践的研究を深化させている。

●【福岡教育大学】

教職大学院の基本的課題である理論と実践の往還をめざし、教育実践力開発コースとスクールリーダーシップ開発コースの各プログラムにおいて、1年次前期のTA実践インターンシップなどの附属学校における実習を計画的に位置づけ、年次を通した学生の研究や研修に効果的に生かしている。

●【長崎大学教育学部】

学校教育実践研究の実践フィールドの場が学校教育実践実習である。現職教員（管理職養成コース以外）の実習は最初から公立学校としているが、学部卒学生の初期段階の実習は、各自の研究テーマに沿った観察とそれに基づく授業実践といった基礎的学習が中心となるため、附属学校園で実施している（学校教育実践実習1～5のうち1と2）。管理職養成コースでは、地域において先導的な役割を果たす附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の実習を通して学校経営の先進例を学び、学びを教育実践研究に反映・活用している。

●【大分大学教育学部】

教職大学院では、主たる学修分野に応じて、実習科目が3つの領域毎に設定されている。そして省察科目では、実習日誌や研究計画書をもとに、教員が大学院生それぞれの力量や関心を把握しながら、指導が行われている。1年次前学期は、どの領域の実習科目も附属学校園での実習が含まれており、附属学校園における学校教育目標の評価方法、カリキュラム・マネジメントや授業改善に関する取組、「リーダー会議（学年主任会）」、生徒も参画しての「チーム学校」など、大学院生はそれぞれの課題を見つけ、研究内容に生かしている。その後の1年次後学期から2年次前後学期にかけての実習科目では、現職教員は現任校、学部卒学生は附属学校園または連携協力校をフィールドとして研究実践を行い、教育実践研究報告書の作成につなげている。

●【名称非公開】

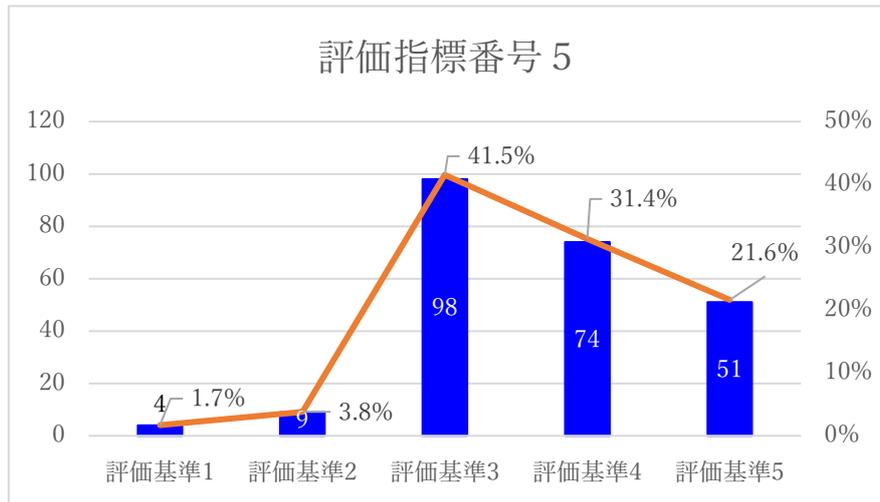
- ① 教職大学院での学生実習において、日常的に附属学校に実習生を派遣し、実習に取り組んでいる。その他、院生の研究授業を公開し、その実践能力を高めたり、院生の研究のための実験授業なども連携して行い、相互に研究を深めている。
- ② 教職大学院の授業の一部を附属特別支援学校で実施し、教職大学院と附属学校が連携して授業を行っている。具体的には、校長をはじめ主事等が、実際の授業参観を含めて具体的事例に基づいた授業を行っている。

## 評価大項目：拠点校・地域のモデル校としての取組

### 評価小項目：拠点校

評価指標番号5：附属学校園は、学習指導要領改訂に資するよう、次世代を見据えた先進性・独自性の高い教育研究を行い、先導的・実験的拠点校としての役割を果たしている。

(想定される回答者：附属学校園)



#### 【評価基準】

- 1：附属学校園では、学習指導要領改訂に資するよう、次世代を見据えた拠点校として機能するため、どのような研究を行うか検討している。
- 2：附属学校園では、学習指導要領改訂に資するよう、次世代を見据えた先進性・独自性の高い教育研究を行っている。
- 3：附属学校園では、学習指導要領改訂に資するよう、次世代を見据えた先進性・独自性の高い教育研究を行うとともに、その成果を発信している。
- 4：附属学校園では、学習指導要領改訂に資するよう、次世代を見据えた先進性・独自性の高い教育研究を行うとともに、その成果を発信し、それに対する学外者の意見等を集約している。
- 5：附属学校園では、学習指導要領改訂に資するよう、次世代を見据えた先進性・独自性の高い教育研究を行うとともに、その成果を発信し、さらに成果が学外（国、教育委員会、各学校等）において活用されている。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学附属函館幼稚園】

国公幼や全附属等の研究大会等で、幼稚園教育要領に基づいた保育実践や実践研究の発表・報告を行い、高い評価を受けている。

●【北海道教育大学附属旭川小学校】

「探究的な学びの実現」を研究主題に設定し、その成果を発信するとともに、公立学校の教員等の意見を集約して研究の検証・改善をするとともに、旭川市教育委員会、北海道教育委員会の指導主事から毎年交互に指導助言を受け、公立学校の視点から本校の研究について検証している。

●【北海道教育大学附属函館中学校】

今年度から「『一人一台端末環境における指導と評価の一体化』～CBTを活用した学習評価の在り方～」を研究課題に設定し、CBTによる評価を推進している。全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループによる最終まとめには、令和6年度全国学力・学習状況調査から順次CBTの導入がなされることが明記されており、この導入に先駆け、本校ではICT環境を有効に活用して、CBTの可能性を深めるための調査・研究を進めている。

●【北海道教育大学附属旭川中学校】

教育実践研究について、教育委員会と連携して実施し、成果及び課題や改善点を把握している。

●【北海道教育大学附属釧路義務教育学校（前期課程）】

義務教育学校として個別最適化と協働的な学びの一体化の充実を図る研究に取り組み、成果を授業力向上セミナー、HPなどを通して発信している。教育研究の取組については、セミナー等参加者、学校評議員会や保護者アンケートなどにより意見をもらい、研究活動の今後の発展や改善に活かしている。

●【弘前大学教育学部附属特別支援学校】

新学習指導要領を踏まえた教育課程編成のあり方を提示するため、学部教員や近隣の特別支援学校教員と共に、「知的障害教育の各教科等の目標を踏まえた特別支援学校の指導計画作成システムの構築」に関する研究に取り組んだ。各教科（知的障害）等の目標に関する検討を容易にし、学習の積み重ねが可視化できる学習指導要領評価表の活用について、多くの学校の教員で共有することができている。

●【岩手大学教育学部附属特別支援学校】

教育指導要領の改訂に即した研究を推進するとともに、学校外の教員等が参加できる学校公開研究会を実施している。参加者にはアンケートを配付し、研究内容等に関する意見を集約し、今後の取組の参考としている。

●【宮城教育大学附属小学校】

コンピュータの科学的な理解や情報活用能力の発達段階に応じた育成をねらい、コンピュータサイエンス科を教科として立ち上げた（令和3年度）。令和4年度は、全学年年間20時間を捻出し、授業実践を通してカリキュラム研究を実施している。また、11月18日にコンピュータサイエンス科に限定した公開研究会を開催し、広く発信することになっている。

●【宮城教育大学附属特別支援学校】

学習指導要領改訂の基本方針に関する「個別最適な学びの実現を目指した授業づくり」を主題として、教職員、研究協力者の大学教員、教職大学院等と連携し、宮城県や仙台市教育委員会関係諸機関との意見交換や指導助言を重ねながら、公開研究会を開催し、コロナ禍における県内外の特別支援教育に関わる人たちへの理解・啓発及び知識・技能の向上に向け発信している。

●【秋田大学教育文化学部附属幼稚園】

本附属学校園では、公開研究協議会やオープン研修会等を合わせて各学校園で2回実施することを目標とし、会の参加者へのアンケート結果を分析して、内容・方法等の改善を進めている。附属幼稚園では、6月公開保育・オンライン講演会のハイブリッド型の保育研究会を実施、11月にはさらに参加者を広げてオンラインでの保育研究会を予定している。

●【秋田大学教育文化学部附属小学校】

問題解決の過程や結果における学習方略上の手応えを「学びのものさし」と命名し、次の学びに生かされるよう明示化している。この取組の成果を、公開研究協議会の実施により、広く県内外に発信している。

●【秋田大学教育文化学部附属中学校】

秋田の探究型授業におけるICTの活用と多様な対話の意図的な活用について授業実践を行っている。また、授業における批判的・実践的リフレクションにより生徒の深い学びにつながる研究に取り組んでいる。これらの実践を県内外の中学校に発信している。

●【秋田大学教育文化学部附属特別支援学校】

生涯にわたって能動的に学び続ける児童生徒の育成を目指し、生涯学習の視点から教育課程の編成や授業づくりに取り組んでいる。研究成果について公開研やホームページ等で発信するとともに、県内外の研修会や書籍においても発信し、ご意見や助言をいただいている。

●【山形大学附属幼稚園】

SDGsと食育を絡め、「食の保育デザイン」を作成し、大学の研究室と連携しながら食育に力を入れている。

●【山形大学附属中学校】

研究協力者を公立学校から募り、ともに授業づくりを行っている。これを自校に持ち帰り、実際に授業を実践してもらい成果等を検討している。

●【山形大学附属特別支援学校】

「指導と評価の一体化」をめざす目的として、教務部と研究部が連携し、各単元期間中に学習指導要領の学習内容等を確実に把握できるように学校独自に「単元シート」を開発し、各担当が作成するようにしている。学習指導研究協議会等において、研究概要の発表場面等で外部に発信している。

●【茨城大学教育学部附属小学校】

外部向けの公開研究会を実施し、外部の方から意見をいただき、教育に反映させている。また、近隣の学校に出前授業を実施したり、研究会の講師として実践例を広く地域に発信している。

●【筑波大学附属高等学校】

「総合的な探究の時間」において、基礎的、具体的な知識・技能を養う「共通基礎講座」、教員のガイドのある探究活動を行う「予備研究」、これらを発展させた「本研究」の3つの段階を経て、専門的で探究的な学びを繋げている。対象は1、2学年全生徒、全教員が担当する。卒業生をチューターとし、専門家による研究協力を仰ぐ等、研究の質の向上に努めている。優秀研究発表会において、大学教員等の専門家に、研究の成果を示すと共に、活動全体への意見を頂戴している。成果の発信は、報告書作成や研究発表を通して行っている。

●【筑波大学附属聴覚特別支援学校】

全日本聾教育研究大会や「聴覚障害」（季刊誌）で教育実践を発信している。

●【群馬大学共同教育学部附属小学校】

公開研究会では、「非認知的能力」に着目し、非認知的能力を高めるための学びのデザインについて、研究発表及び公開授業を行った。また、ICT活用事例として、実践記録をホームページで公開した。今後も、引き続きICTを活用した実践を積み重ね、実践記録を公開していく予定である。

●【群馬大学共同教育学部附属中学校】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に焦点を当てた公開研究会や ICT 活用に関わる研修会の実施、カリキュラム・マネジメントの視点からの総合的な学習の時間の改革に取り組んでいる。また、ICT 活用事例集の作成・配布を行い、研究成果の発信を行っている。

●【群馬大学共同教育学部附属特別支援学校】

「学びを生かし、自分らしく社会とかかわる児童生徒の育成」を基幹研究に掲げ、3年間の成果を纏めたりリーフレットを関係機関へ配付及びHPに掲載している。また、県の初任者研修で講義として成果発信・意見交換を行っている。新たな研究テーマとして「特別支援学校における個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実」について取り組んでいる。

●【埼玉大学教育学部附属中学校】

教育研究協議会や校内授業研究会等で得られた知見を生かして、国研の指定校事業・協力校事業に参加（国語科、社会科、音楽科）したり、県の教育課程編成要領、指導・評価資料、実践事例作成協力委員に参画したりしている。また、教員の実践について、各種雑誌や書籍、Web 記事等で紹介されているものがある。

●【千葉大学教育学部附属幼稚園】

令和 2 年度国立教育政策研究所の「教育課程研究指定事業」の研究指定を受けて研究を行うなど、先進性の高い研究を行うようにテーマを設定している。研究については公開研究会での発表や 유튜브 配信を行い、紀要を WEB からダウンロードできるようにしている。また、県の行う研修会等に講師として派遣され、そこでの発信をしている。コロナ禍で今はできないているが、保護者向けの研究発表も実施している。

●【東京学芸大学附属幼稚園（竹早園舎）】

竹早小・中及び大学・企業・行政と連携して「未来の学校プロジェクト」に取り組み、ICT の活用や職場環境の改善などに取り組んでいる。

●【東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）】

令和 2 年度文部科学省委託研究事業「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」において、幼稚園教育内容評価の一方策を示した。令和 3 年度は、普及の為、文部科学省担当者会議や関連雑誌への掲載、指導主事等を対象とした研修等で、発信・活用が図られている。

●【東京学芸大学附属世田谷小学校】

文部科学省の研究開発学校の指定を受け、「未来社会を創造的に生きる『学びを自分でデザインする子』の育成」を目指して、教育課程及び学習環境デザインの研究開発に取り組んでいる。研究を進めるにあたっては、学外者の運営指導委員の有識者の先生方からも指導・助言を受けている。

●【東京学芸大学附属小金井小学校】

校内研究が意欲的に取り組まれ、学校内で教員同士の研鑽がなされるとともに、外部において公開授業や出版物の作成を行っている。また、近隣学校へ講師として 招聘され、自らの研究成果をふまえつつ研修協力を行っている。

●【東京学芸大学附属大泉小学校】

本校では、昨年度まで 5 年間、文部科学省の研究開発学校指定を受けていた。本年度は、国際バカロレア（IB）の小学校学齢のプログラムである PYP（Primarily Years Programme）の認定校を取得する見込みである。IB ワールドスクール PYP 認定校となれば、全国の国立附属小学校の中ではおそらく初となる。

●【東京学芸大学附属竹早小学校】

未来の学校プロジェクトにおいて、コレクティブインパクトをテーマに、附属、大学、行政、企業が連携しながら 10 年後の教育のありたい姿を目指して、研究・実践を行っている。

●【東京学芸大学附属竹早中学校】

「未来の学校 みんなで創ろう。」プロジェクトにおいて、大学、企業、教育委員会と共同研究を行っている。

●【東京学芸大学附属高等学校】

本学の先端教育人材育成推進機構の高校探究プロジェクトなどに連携することで高校教育の改革に資する取組に関与している。また、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して可能性を引き出すために、個別最適な学びと、協働的な学びの両立をめざし、高校教育における ICT 活用の実践的研究にとりくんでいる。授業実践研究会や交換研究会で研究成果を発信するとともに、それらの研究会や先進校視察の受け入れなどを通して、次の研究推進の方向について外部意見を取り入れている。

●【東京学芸大学附属国際中等教育学校】

IB の教育システムを活かした探究学習を進め、教員は研究グループを組みテーマごとの研究を進めている。研究成果は公開研究会、紀要等で発信している。学校および IB の取組については、複数の県教委の相談に応じ、資料を提供している。教科により国立教育政策研究所との連携が行われている。

●【お茶の水女子大学附属小学校】

文部科学省研究開発学校の指定（2015～2018 年度）を受け、自明と思われる価値や概念を問い直し追究する新教科「てつがく」を創設し、教科化された道徳教育の在り方に一石を投じた。本研究に対する教育関係者の関心は高く、全国から多数の参観者が訪れ、様々な学会や研究会でも取り上げられ、本校の取組を参考に哲学対話の授業に取り組み始めた学校や教室も多い。

●【横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校】

すべての教科に県教委の指導主事と大学教員が共同研究者となり、組織的な研究を行っている。

●【横浜国立大学教育学部附属横浜小学校】

学習指導要領の内容も踏まえ、これからを生きる子どもたちに必要な資質や能力の育成に向けて、研究テーマの見直しを行った。

●【山梨大学教育学部附属幼稚園】

新型コロナウイルス感染対応については、文部科学省の好事例集に実践が掲載された。昨年度より、大学、附属幼稚園、小学校の教員が共同で、幼小接続カリキュラムを作成し、地域の幼児教育施設、小学校へ配布した。また、園長、副園長が幼児教育センターの保幼小連携・接続研究会委員として参加し、地域の幼小接続の推進に貢献している。

●【山梨大学教育学部附属小学校】

毎年度、校内研究の公開研究会を行っている。今年度は、3 年次計画の 1 年目であったが、非認知能力にスポットをあて、県内教員向けには参集型で実際に授業における子どもたちの姿を見ていただき、県外教員向けにはオンライン型で多くの先生方の参加を得ながら分科会も行い研究を深めている。事後アンケートも集約して校内の教員で共有し、研究のまとめと次年度の方向性に活かしている。

●【新潟大学附属新潟小学校】

当校は、教育研究の成果を年 2 回の研究会で発信している。1 回目は 10 月に、県内の学校関係者・学生限定での対面での研究会、2 回目は 2 月に、全国の学校関係者・学生を対象としたオンラインでの研究会である。毎年 1,500 名以上の参加があり、授業づくりについて共に考える機会となっている。さらには、新潟大学との共同研究を複数回行い、研究成果などを広く発信している。

●【新潟大学附属長岡小学校】

令和4年1月と2月に、研究開発学校として文科省での発表会、校園独自の研究発表会を実施し、成果を発信した。

●【新潟大学附属新潟中学校】

学習指導要領改訂に資するとともに、令和3年度より、国際的な経済協力開発機構 OECD における社会の共通のゴールであるウェルビーイングの具現化を目指し、「子どもが主語の学校づくり」をテーマとし、教育課程にかかわる研究を進めてきた。この分野の第一人者による継続的指導や講演等により、県内外に広くアピールし、多くの教員に対し研修の機会を提供した。

●【新潟大学附属長岡中学校】

令和4年度では、中学校1年生において年間を通して「新潟大学 smart デザイン i」の大学指導者や学生と連携し、身の回りの地域に目を向け、課題の発見から始め、デザイン思考の考え方を取り入れて学生や仲間と協力しながら課題解決に向かう学びを展開するなど、実生活や実社会における事象を対象としながら、課題の解決に際して各教科等で学んだことを統合的に働かせ、探究的なプロセスを展開するという STEAM 教育がねらいとするところと合致した探究的な学びを推進し、研究協議会等で外部に発信している。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園】

全附属幼稚園部会では、持ち回りで文部科学省の委託研究を毎年受けている。その際、全国の附属幼稚園が連携して勉強会を実施することはもちろんのこと、全ての園が事例を提供し、研究をまとめていく。テーマは、その時代に必要なテーマとし、全国のモデル的なものである。自園の教育成果や取組は、県内外の研究会や HP 等を利用して発信している。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校】

教育の実践・研究校として、教育理論に関する実践・実証研究を行い、情報発信している。(教育研究発表会、研究紀要、Web を通して発信。)教育が抱える諸問題にも積極的に取り組み情報提供を行っている。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校】

令和3年度より4年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、「個々の持つ強みを協働させて『新たな価値を創造する資質・能力』を育成する新設教科『創造デザイン科』の在り方に関する研究開発一個別最適化学習と STEAM 教育を柱として」に取り組んでいる。その結果を研究発表会を行い、地域の教員や全国の教育関係者に発信している。

●【福井大学教育学部附属幼稚園】

毎年開催している、「遊びのストーリー」を読み解く教育研究集会は、県の組織「幼児教育支援センター」と強い連携をとって開催されている。すなわち、市町幼児教育アドバイザー養成研修、園内リーダー研修を兼ねており、附属幼稚園の研究結果が各市町に持ち込まれ、徐々に公開保育や実践記録の執筆等が実施されるようになってきた。拠点校としての位置づけが明確になっている。

●【福井大学教育学部附属特別支援学校】

附属学校としての特色を生かしながら、学習指導要領改訂に資するよう資質・能力を育成する教育課程の在り方を探究している。年1回の公開研究会と研究紀要でその研究成果を県内外に公表している。また、附属学園内では年2回の合同研究会を開催して、附属学園の教員の実践事例を発表し合う機会としている。互いの実践を通して子どもへの向き合い方や指導観、探究学習について学び合っている。

●【信州大学教育学部附属学校園】

研究開発学校として幼小中一貫教育のためのカリキュラムの作成、提案を行っている。公開研究会や評価委員会等でいただいた意見を集約し、次に反映させてきている。その学齢期での子供の学び方に着目し、子供の姿からそれを捉えようとする取組の継続は、「子供発の研究」として評価をいただいている。

●【信州大学教育学部附属長野小学校】

生活科及び総合的な学習の時間を中核とした教科等横断的なカリキュラムを子どもとともに計画・改善していく「子どもとつくるカリキュラム」を編成している。また、そのカリキュラムに基づいた実践の様子を具体的な子どもの姿で年 3 回ホームページに掲載している。また、この成果を初等教育研究会等で発表し、参会者に意見を求め、それを集約し、カリキュラム等の改善に努めている。また、本校の成果を聞いた他校の職員が、本校での 1 日研修を希望し、それを自校に帰って授業実践に生かしている。

●【信州大学教育学部附属長野中学校】

国立教育政策所の教科調査官の指導や学部の先生方の指導を受けながら、学習指導要領、その解説の具現に向けた研究を進めており、その研究の成果を春と秋の公開研究会で広く公開している。

●【信州大学教育学部附属松本中学校】

文部科学省研究開発学校の指定を受け、平成 28～令和元年度、令和 3～5 年度に、附属松本三校園において、幼小中一貫教育の教育課程の効果的な実践の要件抽出と評価の開発について取り組んでいる。毎年、外部教育関係者の委員を交えた運営指導委員会を行い、途中経過の報告と指導助言を得ている。

●【信州大学教育学部附属特別支援学校】

県教育委員会が進める特別支援学校学びの改革（生活（作業）単元学習における教科等の取り扱い方）を教育研究において明確化し、授業研究や公開研究発表において発信している。

●【静岡大学教育学部附属静岡小学校】

毎年、研究協実施するとともに、各教科部の研究授業にも、各地から協力委員の教員に来ていただき、本校の研究について意見を聞いている。

●【静岡大学教育学部附属静岡中学校】

大学の先生に教科指導等において指導・助言をいただきながら研究を進めている。

●【静岡大学教育学部附属浜松中学校】

浜松市教育センターと連携し、本校で 6 年目研修を実施している。10 年ほど続いている。教科の専門に詳しい大学の教員にも助言者として入ってもらっている。

●【愛知教育大学附属幼稚園】

幼保小連携の一步となるような研究テーマで取り組んだ研究成果を紀要や概要としてまとめ、教育委員会や地域の学校及び幼児教育関係者に周知配布したり、アドバイザーとしての園長が園内外での各種研修会で活用したりして意見を集約している。

●【愛知教育大学附属名古屋小学校】

大学と附属小学校が協力し、実践研究発表会を開催している。オンライン配信機器を新たに 11 機設置し、春と秋の発表会で対面での開催・オンライン・オンデマンド配信を行っている。写真を多用した親しみやすい実践資料集を作成し、県内の各学校に配付している。

●【愛知教育大学附属岡崎小学校】

大正時代から受け継がれた生活教育を具現するため、問題解決学習を展開している。子どもたちが生活のなかから問題を見つけ、追究方法を考えて調べ学習をし、自分なりの考えをもつ。学習を進めるうえで、非認知的能力と教科・領域特有の資質能力を育めるように研究している。

●【愛知教育大学附属名古屋中学校】

毎年、研究発表会を開催し、地域へ研究成果を発表するとともに、それ以外の機会にも授業公開を行っている。県や市の主催する研修に本校での授業参観を組み入れてもらい、互いに意見交換する機会を設けている。2年前からオンラインでの授業配信を行い、来校せずとも授業を見られたり、研究協議ができたりするようにしている。

●【愛知教育大学附属岡崎中学校】

本校では開校以来、生活教育を基盤とした問題解決的学習過程を軸に研究を積み重ねてきた。子どもの問題意識を見取り、探求型、対話型の主体的な学びを生み出すことを大切にしたい研究は、今の指導要領の要諦に通じるものである。本年度は、これからの未来を切り拓く生徒に必要な力を「確固たる信念を生み出すための、自他を見つめる資質・能力」と捉え、共同研究者である大学教授、研究協力者である地域の教員とともに研究を進めている。

●【愛知教育大学附属特別支援学校】

研究協議会で、知的の特別支援学校での3観点の評価を示した授業を行っている。また、知的の特別支援教育の自立活動の授業を示すとともに、自立活動の視点についてまとめた表を作成して配付した。これらの取組について、市町の特別支援学級の先生から好評を得ている。

●【滋賀大学教育学部附属小学校】

夏には「これからの学びを語る会」として授業動画を公開し協議会を開催し、秋には「教育研究発表協議会」として、教科領域ごとに大学より共同研究者、滋賀県教育委員会より指導助言者を招き、参加者とともに協議している。その成果は、研究紀要、HPなどを通して発信している。

●【滋賀大学教育学部附属中学校】

学習指導要領の深い学びを実現するため、思考ツールやICTを活用し、問いを基軸に教科等と総合をつなぐ実践を深めており、県教育研究会と総合教育センター研修や研究大会・公開授業研究会などでその成果を発信することで学校等において活用されている。

●【京都教育大学附属幼稚園】

文部科学省の「令和4年度幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業（幼児教育施設における指導の在り方に関する調査研究）」に採択され、「幼児の遊びや生活を豊かにするICT活用に関する研究」というテーマで、調査研究に取り組んでいる。

●【京都教育大学附属桃山小学校】

昨年度取り組んだ先端技術導入実証研究事業においては全国で5つの自治体と国立大学単独で本学が参加した。その中で、高い評価を得ることができ、その報告書において全国に発信することができた。また、学習環境においても文部科学省の未来の教室づくりとして、本校の学習環境を取り上げていただき、こちらも全国に発信することができ、今年度は九州からの視察を受け、結果として表出した。

●【京都教育大学附属京都小中学校】

次期学習指導要領改訂や近未来の日本の教育を見据え、義務教育9年間で、より効果的に資質・能力を育成するために、各教科における義務教育9か年の縦（学年間）のつながりや、横（教科間・領域間）のつながりを意識して9か年の教育課程を再構築し、義務教育学校や小中一貫教育のモデルとして地域や全国に提案している。

●【大阪教育大学附属天王寺小学校】

令和2年度3年度においては国立教育政策研究所教育課程研究指定校として「教科横断的な学習としてのSTEAM教育の実現をめざしたカリキュラム開発」の研究を進めた。また、令和3年度、4年度において、文部科学省委託事業として「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の研究を進めている。その成果を年度末の研究発表会において発信している。

●【大阪教育大学附属平野小学校】

平成 28 年度～31 年度には研究開発指定校として、令和元年度より教育課程特例校として「子どもが未来を『そうぞう』する」を主題に研究に取り組み、2 月の研究発表会でその成果を発信している。

●【大阪教育大学附属池田小学校】

安全教育・危機管理において、先進的な研究を続けており、セーフティプロモーションスクールの推進に力を入れている。本校の先進事例を文部科学省の研修をはじめ、多くの教育委員会の研修において発信している。

●【大阪教育大学附属天王寺中学校】

組織的な探究学習プログラムとして、「自由研究」の学習指導を昭和 22 年の開校以来実施しており、当該のプログラムが藤井寺市の探究学習プログラムに取り入れられつつある。

●【大阪教育大学附属池田中学校】

国際バカロレア (IB) MYP 認定校として、IB 教育と学習指導要領の融合を図る研究を推進している。また、教育委員会や学校からの視察を受け入れ、IB 校としての本校の取組を発信している。また、学校安全に関しても、視察を受け入れ、学校安全に関する発信、情報交流を行っている。

●【大阪教育大学附属高等学校（天王寺校舎）】

教育課程内に学校設定科目「科学のもり」を置き、課題研究や探究学習についての方法や実践を研究しながら取り組んでいる。また、各教科全般において、中高連携や教科横断の視点を取り入れ授業開発を行っている。

●【大阪教育大学附属高等学校（平野校舎）】

課題研究や探究的な学習の指導方法・実践事例・教材を書籍として発刊するとともに、HP でデジタル書籍として公開している。また、書籍に掲載した教材のデータは、各学校が自由に変更して利用できるよう、ホームページからダウンロードできるようにしており、学校関係者に活用されている。

●【大阪教育大学附属高等学校（池田校舎）】

WWL 事業に取り組み、運営指導委員・事業検証委員などからご意見をいただき、次年度の取組の改善に生かしている。

●【兵庫教育大学附属学校園】

附属学校園と大学が一体となった STEAM 教育の研究に取り組んでいるところ。幼稚園においては遊びの充実を目指す保育の再解釈と新たな実践として「ティンカリング」の研究、小学校においては未来を築く力を育む STEAM 教育「未来デザインの時間」の研究、中学校においてはクロスカリキュラムで実現する STEAM 教育として「未来の学校プロジェクト」の研究に取り組んでいる。

●【神戸大学附属幼稚園】

近年では、平成 22～24 年度、平成 25～28 年度、平成 29～31 年度の 10 年間研究開発学校として研究に取り組み現行及び次期幼稚園教育要領の改定に向けて提案をおこなった。また、これらの研究成果を踏まえて副園長が中央教育審議会専門委員（初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育部会委員）及び学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者として、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示）の改訂に係る審議及び幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月発行）の執筆協力に従事した。これらの研究成果は、学会発表すると共に、学界におけるシンポジストや話題提供者の依頼を受け、学術的な場においても発信している。さらに、兵庫県教育委員会の事業や各市町の教育委員会や幼児教育担当部局等の事業の研究会や研修会で活用され、年間で 50 件以上の講師派遣や研修の受入をおこなったり、短期研修の受入をおこなったりし、兵庫県内外の幼児教育の実践研究にも寄与している。

●【神戸大学附属小学校】

研究大学の附属として、大学教員とのプロジェクト研究を実施したり、公立小学校の講師を務め、地域貢献をしている。

●【神戸大学附属中等教育学校】

令和4年度から高等学校で必修科目になった地理総合・歴史総合に関する研究開発を9年にわたり実施した。

●【奈良女子大学附属幼稚園】

外部の有識者との対話の元、科学的思考の土台となるコンピテンシーを育成する教育課程及び「子どもスタートの教育」における記録や評価システムについて検討した。その内容をもとに公開保育研修会、オンライン研修会を、市・県の教育委員会、大学の教育システム研究開発センターと連携し、奈良県の公開講座として実施した。さらに、「幼児教育におけるカリキュラム・マネジメントー学び続ける専門家コミュニティを構築するー」をテーマとしたオンデマンド研究報告は、全国の教育委員会及び幼児教育施設の研修動画として活用していただいた。

●【奈良女子大学附属中等教育学校】

5年・6年生を対象として、大学教員と附属中等教員が協働して開発したカリキュラムに基づき、剥落しない学力を育成する2年間の高大接続コース（PICASO）を開発している。あわせて、このコースを選択した女子生徒のなかから奈良女子大学を志す生徒を、本プログラム独自の入試により選考するシステムを大学と協働して開発している。さらにこのコースを地元の公立高校へと開放し、公立学校も含めた次世代型の人材育成の枠組み作りを進めている。

●【島根大学教育学部附属幼稚園】

義務教育学校における各教科における見方・考え方や獲得すべき資質・能力を明確にした授業実践や、本学園の独自設定科目である未来創造科を通して、地域に根ざしたテーマのカリキュラム開発、そして、山陰の新しいモデルとなるような研究の発信に努め、毎年、保育研究発表会を行っている。また、研修会参加者からの共通アンケートを実施し、その集計結果を教職員で共有することで、今後の保育実践に反映したり、地域のニーズに応えるための授業づくりにつなげたりしている。

●【島根大学教育学部附属義務教育学校】

各教科における見方・考え方や、獲得すべき資質・能力を明確にした授業実践や、本校の独自設定科目である未来創造科を通して、地域に根ざしたテーマのカリキュラム開発、そして、山陰の新しいモデルとなるような研究の発信に努め、年間を通して30の授業研修会を行っている。また、研修会参加者からの共通アンケートを実施し、その集計結果を教職員で共有することで、今後の授業実践に反映したり、地域のニーズに応えるための授業づくりにつなげたりしている。

●【広島大学附属中学校】

附属高等学校で4期20年にわたってスーパーサイエンスハイスクールとして、科学教育カリキュラムを開発してきた。スーパーサイエンスハイスクール研究開発の中で実施してきた「課題研究」は、中学校においても探究的な学習の一つのモデルとなっている。

●【広島大学附属福山中学校】

現在、併設の高等学校がWWLコンソーシアム構築支援事業研究開発学校指定（令和2年～3年間）に採択されている。これを踏まえ、6ヶ年一貫の教育実践になるように研究開発を行っている。教育研究成果はHP、公開研究会、紀要等で広く発信している。

●【**広島大学附属高等学校**】

スーパーサイエンスハイスクール研究開発を4期20年にわたって推進し、科学教育カリキュラムを開発してきた。研究開発の初期から実施している「課題研究」は、探究的な学習の一つのモデルとなり、高等学校学習指導要領において「理数探究」等の科目になった。また、数学科で統計的内容を充実させる学校設定科目「統計科学」などを開発してきたが、その内容は新しい「数学B」に反映されるなどの成果があったと考えている。

●【**広島大学附属福山高等学校**】

現在、ワールドワイドラーニング（WWL）コンソーシアム構築支援事業（令和2年～3年間）に採択され、高校生へ高度な学びを提供する仕組み「アドバンスト・ラーニング・ネットワーク」を形成し、WWLコンソーシアムへとつなげる研究開発を実施し、ホームページ・教育研究会・研究紀要などを通じて、広く発信している。

●【**山口大学教育学部附属山口小学校**】

今後の予測不可能な社会を生き抜く力の育成をめざし、汎用的な力を身に付けることができるように、新教科「創る科」の価値と各教科等の見方・考え方を融合する研究を進めている。その際、他大学教員等の学外者で構成された運営指導委員会から指導を受けている。また、研究発表会等においてその成果を発信している。

●【**山口大学教育学部附属特別支援学校**】

研究成果を公開授業づくり研修会への参加やオンデマンド配信、ホームページ等で発信している。また、研究成果をまとめたパンフレットを県内の学校や教育委員会に配付した。研究成果を生かし、県教育委員会主催の特別支援教育研修会で講義を行った。

●【**鳴門教育大学附属幼稚園**】

これまでに研究を進めてきた、遊誘財研究、科学的思考や非認知能力に関する研究をいかしつつ、今年度は、ICT活用が進む中それらも補完的に活用しながら、実体験の重要性に着目し、幼児期に必要な原体験の充実と遊誘財、ウエルビーイングとの関連について研究を進めている。

●【**鳴門教育大学附属小学校**】

研究発表会だけでなく、授業実践研修会を開催したり、大学のシンポジウムや研究事業に共同で取り組んだりしている。

●【**香川大学教育学部附属幼稚園**】

働き方改革や保育の質が、これまで以上に求められるようになってきている。全教職員で業務の大変さを洗い出しながら業務改善を行い、子どもと向き合う時間や体制の充実、やりがいに変えていく。また、そのことが保育の質の向上にどうつながっていくのかについて提案する。

●【**香川大学教育学部附属高松小学校**】

前回研究開発学校として、開発した創造活動・個人追究の時間は、多くの学校で実践、活用する際のヒントになっていると自覚している。また、今年度より新たに研究開発学校の指定を受け、経験と学問を合わせた学びの開発を行っている。

●【**香川大学教育学部附属坂出小学校**】

非認知能力に視点を当てて、研究を進めている。成果をSNSやホームページを通して、発信するとともに、全ての研究授業を学外に公開している。

●【**香川大学教育学部附属高松中学校**】

知性に必要なその教科の資質や能力、態度を学び、育む「教科する 教科学習」と、教科で育んだ知性を発揮し伸ばすとともに、省察性を高める「人間道徳」を設置し、実践している。

●【香川大学教育学部附属坂出中学校】

令和4年度の研究発表会(6月)は、コロナ感染予防のため、オンライン(オンデマンド)開催とした。オンラインのアクセス数は、1,000を超え(8月現在)、意見なども寄せられている。共創型探究学習の総合学習は、文部科学省研究開発の4年目に入り、学外の指導もいただきながら成果を発信予定である。

●【香川大学教育学部附属特別支援学校】

研究に関する講演会を校外にも公開し、実施後にはアンケートも実施している。

●【愛媛大学教育学部附属学校園】

附属学校園全体で、次世代の教育を見据えた先進的、独創的な研究を推進している。毎年開催する研究大会では、「主体的、対話的で深い学び」を目指した先進的な授業を学外・全国に公開・発信した。また中学校ではOECDのEducation2030に示されたラーニングコンパスの中心概念に沿った研究を進めている。さらに高校では、SDGs12・14等に係わる研究を生徒たちの課題研究として推進し、環境省・国連大学共催のシンポジウムにパネリストとして発表し、高評価を得た。

●【高知大学教育学部附属中学校】

3年単位で研究テーマを設定し、研究発表会をおこない広く参加を呼び掛けている。令和4年度から「多様性を認め合える教育の創造～ひとりの生徒もとり残さない学校をめざして～」をテーマとし、多様性を認め合える集団作り、特別支援の視点からの見取りや支援に取り組んでいる。

●【高知大学教育学部附属特別支援学校】

今回の研究発表は、新学習指導要領に鑑み、生活単元学習等合わせた指導と各教科の関連について、田中グラフによる児童生徒の発達段階を明確にする。それらの根拠をもとに、児童生徒に補償する教科の内容、狙い等を明らかにし、個別の指導計画Excel版マクロ化書式から各教科の既習・未習事項を集計、視覚化、分析し、本校教育課程の再評価を行い、各教科等の資質・能力を明確にした「各教科等を合わせた指導」の単元年間指導計画及び評価計画の作成と、「各教科等を合わせた指導」の3観点別単元評価の在り方を提案する。

●【福岡教育大学附属福岡小学校】

本校では、平成27年度から文部科学省研究開発学校指定を受け、次期学習指導要領改訂に資する研究を推進している。推進にあたっては、校内での実証授業研究会はもとより、大学教員、本校教員OBを招いての共同研究会、カリキュラム研究を専門とする講師を招いての運営指導委員会をそれぞれ年間3回実施している。その成果は、文部科学省に定期的に報告を行っている。また、国立教育政策研究所等の研究機関、東京都日野市教育委員会等の行政機関から資料請求を受け、学外においても活用されていることがうかがえる。

●【福岡教育大学附属小倉小学校】

令和元年度に研究主題「学びに没頭する子どもを育てる授業」を掲げ、各教科等の本質に向かう問題を見出し、【ひと・もの・こと】にかかわりながら、その解決にのめり込む子どもの姿を目指して3年間取り組んできた。慶應義塾大学藤本和久教授の指導を受けながら、没頭の鍵となる感性と論理の働きに着目し、感性と論理が働く学習材の開発、及び、感性と論理が協働的に響き合う教師のしかけづくりを中心に研究を進めてきた。

●【福岡教育大学附属久留米小学校】

第4期教育振興基本計画でも重視されているウェルビーイングに向かう力を育む教育の研究「次代を切り拓く子供を育てる学習指導」に取り組み、研究成果を全国に向けて発信した。また、研究発表や公開授業についてはアンケートをとり、研究をブラッシュアップすることに生かしている。

●【福岡教育大学附属小倉中学校】

令和3年度より2年間文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」において、研究主題を「自ら創造的に学ぶ力の育成～各教科固有と横断の両側面を意識したカリキュラム・マネジメントを通して～」とし、研究を進めている。文部科学省の実施する連絡協議会で指導を受け、京都大学の松下佳代氏や大阪教育大学の田村知子氏を招聘して、令和5年2月24日に成果報告会を地域に公開して実施する。

●【佐賀大学教育学部附属特別支援学校】

改訂時の提言に沿い、令和2年度から令和3年度にかけ「児童生徒の学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立を目指して」をテーマに研究を進め、全国に向け発表を行った。

●【長崎大学教育学部附属幼稚園】

子どもの主体性や好奇心、探求心、挑戦意欲等を育む環境構成と教師の援助のあり方について研究を深め、幼児教育研究協議会で、地域に発信している。協議会の中で学外参加者のご意見をいただくとともに、アンケートにより意見を集約している。今年度はコロナ感染症対策として、県内限定かつ人数制限ありの公開保育を実施し、研究発表や講演についてはオンラインも活用し発信する予定。

●【熊本大学教育学部附属中学校】

特にカリマネについては、田村知子氏（大阪教育大学教授）村川氏（甲南女子大学教授）より大変好評をいただき、助言・ご指導いただきながら研究を進めている。

●【熊本大学教育学部附属特別支援学校】

本校では知的障がいのある児童生徒の情報活用能力の育成について研究テーマを設定して取り組んでいる。今年度は3年計画の3年目となり、本研究のまとめの年となっている。各教科における情報活用能力について日々の授業をとおして研究を進めているところである。

●【大分大学教育学部附属幼稚園】

園長を始め教頭・教諭においても初任研や中堅研の保育者に対して講話を行い、幼児教育の重要性や質の高い環境の構成や援助の在り方を発信できた。

●【大分大学教育学部附属中学校】

日常の実践や研究への取組について、ホームページに掲載し、広く情報発信をしている。また、「GIGAスクール構想」については、附属中学校版GIGAスクール「附中ギガ」と銘打って、これまで蓄積してきた教育実践の成果を土台として、教師と生徒が共に創る「GIGAスクール構想」を推進してきた。各教科における実践や取組内容等を事例集として県や市教育委員会に配布するとともに、ホームページで参照できるようにしている。

●【宮崎大学教育学部附属小学校】

「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現するための1単位時間の授業の流れを各教科・領域ごとに作成した。たくましく生きていくために必要な資質・能力を意図的・計画的に育成するための手立て「学習プラン」を学年ごとに作成した。学校の教育目標に迫る手立てとしてSWPBSの手法を活用した「ささの葉マトリックス」を児童が参加する形で作成した。

●【鹿児島大学教育学部附属特別支援学校】

新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、特に実体の捉えにくい知的障害のある児童生徒の「深い学び」に焦点を当てた研究に取り組み、その成果を公開研究会を通して発信するとともに、学校のホームページに研究の成果物を掲載し広く活用していただけるようにしている。研究成果の発信をきっかけに、他校から本校教員に対して職員研修の講師依頼があり派遣（オンライン参加）を行った。

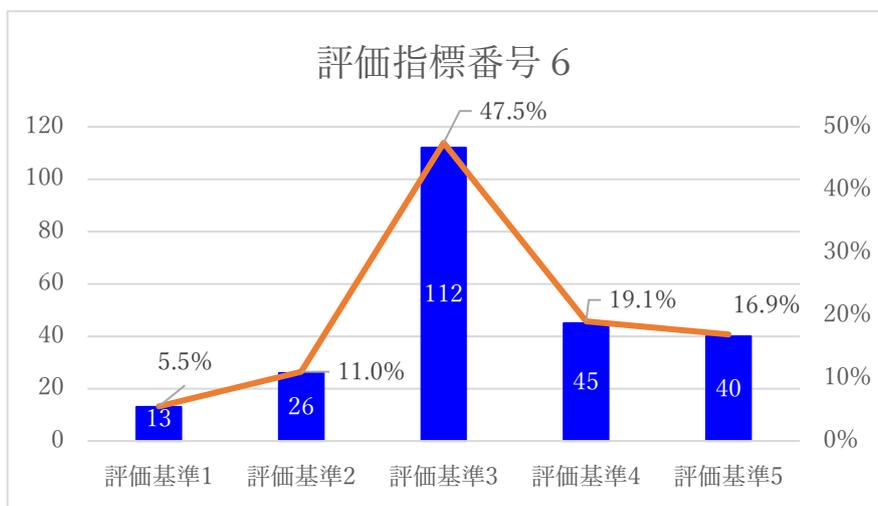
●【名称非公開】

- ① 本校では、4、5年前から1学年分のタブレット端末を整備し、各教科の授業をはじめとする教育活動で積極的に活用してきた。GIGA スクール構想初年度の昨年度、タブレット端末をはじめとする ICT を活用した授業を公開した。授業参加者に、本校実践の活用度合い、活用した内容等の追跡アンケートを実施し、状況を確認している。

評価小項目：地域のモデル校

評価指標番号6：附属学校園は、地域の教育課題の解決につながる教育研究に取り組んでいる。

(想定される回答者：附属学校園)



【評価基準】

- 1：附属学校園は、教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行っている。
- 2：附属学校園は、教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行った上で、課題解決につながる教育研究に取り組んでいる。
- 3：附属学校園は、教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行った上で、課題解決につながる教育研究に取り組み、その成果を発信している。
- 4：附属学校園は、教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行った上で、課題解決につながる教育研究に取り組み、その成果を発信している。さらに、成果について教育委員会等の評価を受けている。
- 5：附属学校園は、教育委員会もしくは学校と連携し、地域の教育課題の把握や分析を行った上で、課題解決につながる教育研究に取り組み、その成果を発信している。さらに、その成果が地域の教育委員会や学校において活用されている。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学附属函館幼稚園】

共働き家庭の増加等の地域課題を検証し、子育て支援の一環として預かり保育を行うなどの実践を行い、成果を地域に発信し教育委員会等からも評価を得ている。

●【北海道教育大学附属旭川幼稚園】

質の高い保育実践を追求し、研修のあり方等について園長が道幼児センターを通して広域な北海道全域の幼児施設に向けた指導助言を行っている。

●【北海道教育大学附属札幌中学校】

教育研究大会での発信を軸に、附属学校の研究に教育委員会からの指導・助言を受けるとともに、公立学校の研修的要素、教員の資質・能力の育成の観点から、教育委員会と附属学校との連携を図っている。

●【北海道教育大学附属函館中学校】

今年度は、檜山管内の小規模中学校との連携を生かした探究活動の取組を行っている。本校ではこれまで、総合的な学習の時間を通して、生徒一人一人が探究的な学習を進める中で、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な取組の一環として、卒業論文の作成に取り組んできた。この実践の成果と令和元年度学校 ICT 環境整備推進実証研究事業で得られたスキルを有効活用して遠隔教育システムを推進している。

●【北海道教育大学附属旭川中学校】

【北海道の特徴「広域分散型」に対応した教員研修のあり方】GIGA スクール構想以前の 2019 年から遠隔で学校間をむすび、遠隔同時授業、遠隔研修を進めている。

●【北海道教育大学附属釧路義務教育学校（前期課程）】

全教員が釧路市の教育研究会に所属し、各教科部会において、中心的な役割を担っている。北海道教育委員会の要請により各種研修会に授業実践の講師を派遣し、師範授業や指導助言を行っている。また、義務教育学校の取組について、地教委の要請により発信し、活用いただいている。

●【北海道教育大学附属釧路義務教育学校（後期課程）】

羅臼町立知床未来中学校とは、授業力向上に関する研修支援を継続しており、今年度羅臼町教育委員会の教育行政執行方針に本校と連携して教員研修を実施することが明文化された。

●【秋田大学教育文化学部附属中学校】

公開研究会の際には、秋田県教育庁と連携し、研究に関する指導・助言をいただいている。また、公開研究会におけるパネルディスカッションでは、「魅力ある教師像」というテーマで、教師という職業を生徒・保護者・地域・企業との関わり合いの楽しさや、やりがいの観点から見つめる取組を行っている。

●【筑波大学附属高等学校】

市の教育委員会（生涯学習スポーツ課）が主催している土曜講座サイエンスクラブに講師として参加し、地域の小学生の科学への意欲の向上や、知識理解の向上に努めている。実験講座は、毎年、6月から11月の間で10回程度実施されている。その成果を受講者がサイエンスフェスタで発表することで地域に還元している。さらに紙面等で、クラブやフェスタの報告も行っている。クラブで行った実験の知識や技術を各教員が勤務校に持って帰り、勤務校のクラブ活動や授業に活用している。

●【筑波大学附属聴覚特別支援学校】

専門性担保のため、関東地区聾学校の新任者研修会を開催している。

●【宇都宮大学共同教育学部附属学校園】

コロナでの学校休業にあたり、自作学習動画を教育委員会と連携し、広く一般校に提供するとともに、HPに掲載し現在まで自由に活用できるようにしている。初任者研修では本校授業動画が活用されるとともに、要請を受け、本校教員が校内研修の講師や出前授業を行っている。また、大学教員と連携して、若手教員の授業力向上に資するセミナーの開催やオンラインでの教育情報発信に努めている。

●【宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園】

県の研修として「栃木県新規幼稚園教諭等研修」、「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」、「幼小接続推進者研修」、「幼児教育及び生活科担当指導主事研修会」における講話・保育提供を行っており、県内の幼稚園教諭等の研修の重要な役割を果たしている。また、公開研究会は、栃木県幼稚園連合会（県内私立公立全ての幼稚園、認定こども園が加盟）と共催で行っている。

●【群馬大学共同教育学部附属学校園】

県教委が主催する ICT 活用に関するワーキング・グループへの参加協力を行った。コロナ禍での一斉休業期間中に県教委が行った「オンラインサポート授業動画」の配信において、授業動画の提供や撮影協力を行った。

●【群馬大学共同教育学部附属特別支援学校】

公開研究会等における参加者アンケートや意見交換等により課題の把握及び分析を行い、それを次年度の研究内容に取り入れ課題解決に向けた取組を行っている。また研究に基づき作成した「実態調査票」を関係機関やHPに発信し、関係機関等から評価を頂いている。

●【千葉大学教育学部附属中学校】

一人一台情報端末環境のあり方について実践的な研究を推進し、公開の研究会を実施している。特に、デジタル・シティズンシップ育成に関する研究を進め、千葉市教育センターの研究等に知見を提供している。いじめ等の問題に実効的に対応できるよう「教育相談部会システム」を確立し、取手市教育委員会等に知見を提供しているほか、教職大学院学生の見学を継続的に受け入れている。

●【東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）】

令和2年度に受託した、文部科学省委託研究事業「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」における研究成果として幼稚園教育内容評価の一方策を示し、その成果が、令和3年度同事業「明日の保育につなげるⅡ—動画を活用した研修の提案—」国立大学法人三重大学において、研修方策として活用されている。

●【東京学芸大学附属竹早小学校】

所在地の文京区において、毎月実施されている区小学校教育研究会に職員は全員所属し、教科研究においてリーダーシップをとるべく努力している。また区3年次教員研修の授業研に各教科部会から講師を派遣し、指導を行っている。

●【東京学芸大学附属高等学校】

本学の高校探究プロジェクトに連携することで、総合的な探究の時間の実践事例が求められている高校教育の改革の一端として、教科指導における探究活動の開発と充実に取り組んでいる。その成果は、公開研究会や教育委員会などの視察受け入れなどを通して情報交換を行うことを通して（その）地域の高校教育の改善に資することが期待される。社会的な変革や大学共通テストに採用されるなどその位置付けが急速に変化している教科情報においては東京都教育委員会の現職教員研修に講師を派遣した。

●【横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校】

すべての教科に、県教委の指導主事と大学教員が共同研究者となり、組織的な研究を行っている。

●【山梨大学教育学部附属幼稚園】

R2年10月、山梨県教育委員会が山梨大学内に幼児教育センターを設置した。設置の段階から、副園長が検討委員として関わってきている。幼児教育センター設置後、園における新採用実施研修の実施、また、研究主任が研修の講師、副園長が幼児教育アドバイザー、など様々な形で地域の教育課題の解決に貢献してきている。

●【山梨大学教育学部附属小学校】

公開研究会においては、全教科とも、県教育委員会の指導主事に指導助言者として研究に関わっていただくとともに、事前研究会や分科会、事後研究会にも参加していただき、研究についての指導助言をいただくなど、具体的に評価してもらっている。

●【新潟大学附属幼稚園】

様々な幼児教育施設や職員構成がある現状での保育の質の向上、保幼小中連携を推進する上での幼保小接続をはじめとした取組等の課題を近隣市と共有し、その解決に向けた研修会や実践の公開を行っている。子ども理解と保育の質の向上につながる研修の手法やスタートカリキュラムをはじめとした幼小接続の実践は、教育委員会から高い評価を受けている。

●【新潟大学附属新潟小学校】

当校は、前述した年2回の研究会の他に、毎月複数回、「GATAKEN」というミニ研修会を開催している。県内や全国の学校関係者と学生向けの研修会である。教育実習や地域の学校などの情報をもとに、今年度は特に「教職の魅力の発信」や「教育技術の向上」などをテーマに設定し力を入れている。若手教員や学生を主に対象として行い、多くの参加者から肯定的な評価や声をいただいている。

●【新潟大学附属長岡小学校】

近隣市町村のすべての教育長を訪問し、オンライン研修会の充実を図り、勤務時間内外において、若手教職員の学ぶ場を増加させた。今年度も、千人を超える申し込み者を得ている。

●【新潟大学附属新潟中学校】

毎年研究発表会を実施しており、公立校の教員に協力者を、大学の教授と教育委員会指導主事に指導者を依頼し、年間を通じ研究について批正をいただいている。ここ数年は対面での実施がかなわず、単元の学習活動や生徒のパフォーマンスが分かるようビデオを編集し、YouTubeで実践を配信するなどした。この様子を事前に視聴した参会者に対し Zoom で研究発表会を行う中で、成果と課題について指導者から批正をいただいた。

●【新潟大学附属長岡中学校】

幼小中12年間の連携を円滑に行うことにより子供の資質・能力を一体的に育むことについてコンテンツベースではなくコンピテンシーベースで子供の学びを捉え、幼稚園から小学校、小学校から中学校への接続の在り方を模索し、令和4年度は幼稚園と小学校の接続カリキュラムの実践を公開し、長岡市教育委員会及び近隣市町村教育委員会からの評価を受けている。

●【富山大学教育学部附属小学校】

全教員が富山県小学校教育研究会に所属し、各教科部会において、中心的な役割を担っている。

●【福井大学教育学部附属特別支援学校】

本校研究の協力者、助言者として県内の学校の教員に依頼し、地域の教育課程の把握や分析を行うとともに、知的障害児におけるカリキュラムマネジメントを追究している。その成果は公開研究会や研究紀要で公表・発信しており、教育委員会等からも評価を受けている。

●【信州大学教育学部附属学校園】

研究開発学校として幼小中一貫教育のためのカリキュラムの作成、提案を行っている。公開研究会や評価委員会等でいただいた意見を集約し、次に反映させてきている。遊びに打ち込む幼児に見られる探究の姿を損なうことなく、対象との関わり方の変化からその学齢期にあった学びのあり方を検討する取組は、子供の姿から捉えた「学び方」を示していることに、他校での活用につながる可能性があるという評価をいただいている。

●【信州大学教育学部附属長野小学校】

「一人一台端末を活用した授業やコロナ禍におけるオンライン授業をどのように進めていけばよいか」という地域の教育課題に対して、地域の学校に授業を公開し、授業を参観して頂いたり、情報交換する場を設けたりして、他校での一人一台端末を活用した授業実践に役立てていただくことができた。

●【信州大学教育学部附属松本中学校】

附属松本三校園が取り組む幼小中一貫教育のためのカリキュラム編成やその評価のあり方についての提案は、公開研究発表会や運営指導委員会において提案され、外部からの意見を受け、更なる実践につなげている。園児から児童、生徒について、その学び方の連続的な実践研究は、それぞれの時期に我々教師が子どもの学びをどのように捉えるかという、子ども理解に関する地域への提案にも結びついている。

●【岐阜大学教育学部附属小中学校】

県教育委員会主催の、授業を見て学ぶ講座を本校が受け持ち、小中学校の若手教員への実践を通して指導を行っている。

●【静岡大学教育学部附属浜松中学校】

浜松市教育センターと共催している 6 年目研修では、若手教員のもつ課題を集約しそれに基づいた分科会を企画している。

●【愛知教育大学附属幼稚園】

本園の研究が、今まさに課題とされている学びの連続性といった幼保小連携につながるテーマで取り組んでおり、その研究成果を地域の学校や幼児教育関係施設を始め教育委員会等に発信し、各種研修会や園内研修に活用されている。

●【愛知教育大学附属名古屋小学校】

実践研究発表会・オンライン・オンデマンド配信による授業の提案を行っている。写真を多用した実践資料集を各学校に配付し授業の提案をしている。令和 4 年 1 月～3 月のコロナ禍で行ったオンライン授業と対面授業のハイブリッド授業についてアンケート調査を行った。

●【愛知教育大学附属岡崎小学校】

毎年実施している研究会には、三河全域の教育委員会の指導主事や公立学校の教員が参観してもらえるように、年間を通じて情宣活動を行っている。また、三河地区の教員ほぼ全員が所属する三河教育研究会の事務局を担当し、三河の教育の推進に携わっている。

●【愛知教育大学附属岡崎中学校】

本校のある愛知県三河地区では、生活教育を基盤とした問題解決的学習過程による子どもありきの授業を三河の教育の基盤とすることを共通の理解としている。本校で毎年開催される生活教育研究協議会へは、三河地区各市町村より一般の教員のみならず、市町村教育委員会教育長、指導主事、また、校長をはじめとする役職者も多く参加し、活発に議論を行っている。

●【愛知教育大学附属特別支援学校】

研究について方向性を考えるうえで、市町の特別支援学級を担当している先生方の意見を参考にしている。そこから、知的の特別支援教育における自立活動について取り組み、発信をしている。研究の成果については、前述の通り。

●【三重大学教育学部附属幼稚園】

令和3年度、文部科学省委託研究事業を受託し、全国の国立大学附属幼稚園の研究協力の下、教員の資質向上を目的とした研修動画の提案を行った。成果物であるDVD（5枚組）と活用ガイドを全国の都道府県及び中核市等の教育委員会等に配付し、幼児教育関係の研修に活用されている。

●【滋賀大学教育学部附属小学校】

各教科部会において、中心的な役割を担っている。研修の講師も務めている。

●【滋賀大学教育学部附属中学校】

県教育委員会や県教育研究会を介して市町の教員とともに学力向上の教育研究に取り組み、その成果を発信している。その成果は各学校の授業力向上に資している。

●【京都教育大学附属幼稚園】

本園の研究協議会を全国幼児教育研究会京都支部の研修として、毎年提供している。また、本園で作成した指導計画の形式を公立幼稚園に提供している。また、本園の作成した「教育課程・全体の計画」が、地域の教員養成短大の教科書として使用されている。

●【京都教育大学附属桃山小学校】

伝統文化教育に関しては、京都府教育委員会と連携したワークショップを開催することができた。ICT活用に関しては、京都府市から視察依頼、また研修依頼を受け、本校の実践を参考にして適宜ご活用いただくことができた。

●【大阪教育大学附属池田小学校】

ベテラン教員が退職し、経験の浅い教員が多くなってきていることが地域の課題の一つである。初任者および経験の浅い教員が授業を参観し討議できる場を附属学校として提供している。毎年100名程度の初任者に2回授業公開を行い、授業づくり等について指導を行っており、初任者が一堂に会して授業について討議で聞き、その経験を職場で活かすことができ、教育委員会から高い評価を得ている。

●【大阪教育大学附属池田中学校】

授業実践や授業研究の在り方について、地域の教育委員会と連携し、初任者や10年経験者を対象に、授業参観や授業研究、情報交流等の研修に貢献している。また、教育委員からは高い評価をいただくとともに、参加した教員からの評価（アンケートや振り返り）もいただいている。

●【大阪教育大学附属高等学校（平野校舎）】

附属平野五校園では、生涯発達の視点に基づいた校種間連携型一貫教育をテーマに、五校園の全教員が、本学大学教員の指導助言を得ながら校園種を超えた共同研究に取り組んでいる。年間3回の共同研究集会では全教員が集まり、研究進捗等を共有し、その成果を毎年、研究発表会及び冊子発刊等により発信している。

●【神戸大学附属幼稚園】

各市町の課題に応じた教育研究課題に応じて、本園が視察や研修を受け入れたり、何年も継続した派遣依頼を様々な地域から受けたりし、依頼を受けた各市町の教育研究にかかわっている。本園のこれまでの教育研究成果が有効に働く部分を各市町の必要に応じて取り入れられており、兵庫県の教育委員会や各市町の教育委員会、幼児教育関係部署の研究や研修で活用され、さまざまな事業報告や研究紀要、パンフレット等で神戸大学附属幼稚園の研究成果が活用されていることが明記され発行されている。

●【奈良教育大学附属中学校】

本校で行う「ICT 公開研修会」と「総合的な学習公開研修会」が、県主催の「教職員のための公開講座」の一部として組み込まれ、県教員の資質向上に資することとなっている。また、公開研修会などには、教育委員会から指導助言者を招聘し、本校の取組を理解してもらい助言も頂戴しながら、地域の状況や現場からの要請を知る機会となっている。

●【奈良女子大学附属幼稚園】

教育システム研究開発センターと連携し、現役の保育者、幼児教育研究者、小学校教師などを対象とした、オンライン型研修を年 3 回実施し、他者との対話により自身の実践を言語化し見直しにつなげると共に、幼小接続や資質・能力の育成や評価の在り方など、教育現場が抱える課題等について協議した。また、この研修及び公開保育研修会、研究報告会を奈良県の公開講座として実施、その振り返りで高評価をいただいている。

●【鳥取大学附属小学校】

鳥取県教育委員会の幼小接続推進リーダー育成事業を通じて、組織、人、教育のつながりの研究実践を県内外に紹介している。

●【島根大学教育学部附属学校園】

平成 30 年度より主に保育・各教科主催で開催する授業研修会へと研究会の枠組を替え、保育・各教科主催の研修会を年 20 回以上計画・実施している。松江市教育研究会の各教科の授業研修会とのタイアップ、島根県教育センターの公開講座での授業提供、島根大学教職大学院による授業研究での連携等、毎年複数回実施し、本学園の研究成果の発信や授業を提供することで、各種研修会で活用していただいている。

●【広島大学附属学校園】

スーパーサイエンスハイスクール研究開発において、課題研究の指導・評価を「広大メソッド」として体系化して公開、普及に努めている。探究的な学習の指導の手引きとして、地域の学校にも提供しており、広大メソッドに関する合同研修会の開催を通して認知され、評価を受けている。

●【山口大学教育学部附属幼稚園】

県内の公立幼稚園と共に研究テーマを掲げ、公開保育や研究協議会を実施し、課題解決に努めるとともに、市の教育研究会に全教員が属し、共通テーマをもとに公開保育及び研究協議会を行い、県教委や市教委の指導・評価を受けている。また、これらの成果は年報や会報で発信している。

●【山口大学教育学部附属特別支援学校】

教育学部、附属学校、県教育委員会が出席して、附属学校園と県教育委員会義務教育課との連携強化会議を定期的に行っている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて「ICT 活用事例集」を作成し県内の学校へ配付したり、附属学校教員が授業アドバイザーとして公立学校を訪問している。

●【鳴門教育大学附属幼稚園】

園長は徳島県保育・幼児教育アドバイザーを委嘱しており、県が実施する法定研修等の計画、実施に携わっている。また、ICT 活用や幼小接続、科学的思考、非認知能力、STEAM 教育、に関する研修、また実地研修の依頼も学外からは多くあり、園環境や遊誘財研究を活用しながら研修内容を企画・実施している。

●【香川大学教育学部附属坂出小学校】

地域の学力学習状況調査の結果を分析し、研究理論に組み込んでいる。研究授業の公開はもちろん、授業づくりワークショップを行い、各教科の授業づくりのアイデアを地域の教員に伝える場としている。また、市教育委員会と連携して、若年研修を行っている。

●【香川大学教育学部附属高松中学校】

県の中堅研修の1講座を担当しており、教育課題についても含め、指導案検討や模擬授業を指導している。

●【香川大学教育学部附属坂出中学校】

研究発表の研究紀要は県内全学校、委員会等、全国附属、申込者に無償で送付し、オンライン開催の授業動画は、多くアクセスされ、公立中学校の研修でも用いられている。

●【愛媛大学教育学部附属学校園】

本学附属学校では、地域の教育課題の解決に向けて、以下のような意欲的な教育研究に取り組み、教育委員会等から高い評価を得ている。

【小学校】NIE研究・実践、地域の地場産業の教材化。

【中学校】ジグソー法、言語技術教育等を用いた教育実践研究成果の地域への普及を行い、教育委員会から高い評価を得ている。

【特別支援学校】キャリア教育を通じた一連の教育内容が学校評価委員会等で高評価を得ている。

【高等学校】生徒の当該分野における研究活動が、文部科学大臣賞など諸団体から高く評価されている。

●【高知大学教育学部附属中学校】

研究テーマを設定する際に、各教科においても高知県教育振興基本計画をもとに地域の課題を考慮している。また、高知県教育委員会と連絡協議会を設置し、本校の研究テーマ、各教科の研究テーマを共有している。

●【高知大学教育学部附属特別支援学校】

附属特別支援学校は、開校以来『個々の実態に即応した教育課程の研究と実践』を共通テーマに、時代や児童生徒の実態に応じて研究会を開き、研究の成果や課題を発表してきた。今回は、学習指導要領の主旨にそって「知的障害教育における育てたい資質・能力を踏まえた授業づくり～学習評価の充実と12年間の系統性を実現する教育活動の改善～」について研究を進め、その研究成果のご報告の機会として、令和4年度教育研究会を開催する。

●【福岡教育大学附属学校園】

地域の公立小学校からの長期派遣研修員を受け入れ、各地域の教育課題を踏まえた研究主題を各自設定し、1年間の実践的研究に取り組んでいる。公開授業を伴う報告会を年2回開催することで研究の成果を直接的に発信している。長期派遣研修員の研究報告書は、県教育委員会のHPに掲載し、県内公立中学校において校内研究等に活用されている。

●【福岡教育大学附属幼稚園】

本園園長が福岡県国公立幼稚園・こども園協会の会長として、福岡県幼児教育・保育推進協議会からの委嘱を受け、委員を務めている。その中で、本園の先進的な保育実践の取組を情報提供し、ワーキンググループの協議に役立てている。また、宗像市教育委員会の要請を受け、幼児教育審議会委員としても、地域の幼児教育や幼小接続に関する課題をもとに、第4期宗像市幼児教育振興プログラムの見直しに向けて尽力している。

●【福岡教育大学附属福岡小学校】

本校では、地域のニーズをもとにテーマを設定した公開研究会「授業づくりセミナー」を毎年6月に実施している。

- ・令和2年度 参会者 573名（オンライン開催3日間の延べ参会者）
- ・令和3年度 参会者 960名（オンライン開催3日間の延べ参会者）
- ・令和4年度 参会者 294名（直接参加型開催2日間、上限数を設定）

本研究会では、福岡県教育庁福岡教育事務所主催「臨時的任用教職員対象授業力アップ研修会」（令和4年度：89名）を受け入れるとともに、一般参会者と併せて事後アンケートを実施し、評価を受けている。

●【福岡教育大学附属久留米小学校】

GIGAスクール構想の推進により、学習者用端末の活用や、若年教員の能力向上が地域の教育委員会や学校の喫緊の課題となっていることを受け、ICTの活用や基礎・基本を重視した問題解決的な学習活動に特化した授業研究会を公開した。授業を録画した動画資料は県の教育センターにアップされ、県下に配信されている。

●【福岡教育大学附属小倉中学校】

福岡県教育委員会義務教育課主催の「授業構想力・評価力を高める授業実践講座」に国語・数学・社会科の教員を指導者として派遣している。また、北九州教育事務所主催の「教科リーダー育成講座」に国語・数学・社会・理科・音楽科の教員がモデル授業を実施し、受講者と共に授業の協議会を行った。また、北九州・筑豊・京築教育事務所管内の中学校、北九州市内の中学校に本校職員を派遣し、授業づくりやICT機器の活用、校内研修の進め方等の指導助言を行っている。

●【福岡教育大学附属久留米中学校】

現在周辺市町村教育委員会において喫緊の課題であるICT機器の活用について、本校にて実践を重ねた成果をまとめた実践事例集を配布した。いくつかの市町村からは当実践事例集を基にした研修が行われており、その講師として本校職員を派遣している。

●【熊本大学教育学部附属特別支援学校】

研究部を中心に県内の特別支援学校の視察を行い、各校のニーズを把握して、研究成果の発表にも生かしている。また、依頼に応じて県内外の各学校に出向いたり、オンラインを活用したりして、研修会の講師として本校の取組を発信している。出版社の依頼により、書籍に起稿して取組を発信することも多い。

●【大分大学教育学部附属幼稚園】

大分県教育庁幼児教育センターの幼児教育スーパーバイザーからの助言をいただきながら、共同でエピソードの事例シートを作成していった。幼児期までに育ててほしい10の姿として、附属幼稚園の事例を県のホームページにて紹介している。

●【大分大学教育学部附属中学校】

生徒の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に加え、「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」の育成を目指した「新大分スタンダード」について、大分県教育委員会と連携してその内容や、そこに含まれていない内容（例：ICTの効果的な活用等）について、附属中学校の実践を通して協議を進めている。

●【大分大学教育学部附属特別支援学校】

令和3年度大分県教育委員会特別支援教育課発出の学習指導案作成の手引きを取り入れ、公開研究会の学習指導案を記述し、より詳細な留意点、記述要領を作成し、発信している。また、現職の教員の研修（1週間）を実施し、学習指導案を伴う授業実践・反省会により研修を実施している。

- **【宮崎大学教育学部附属小学校】**

市教委や県教委が把握している課題を解決する場として、授業の提供と授業研究会における助言等を行っている。また、要請に応じて、プログラミング学習の授業動画を配信し、アンケート集約なども行った。

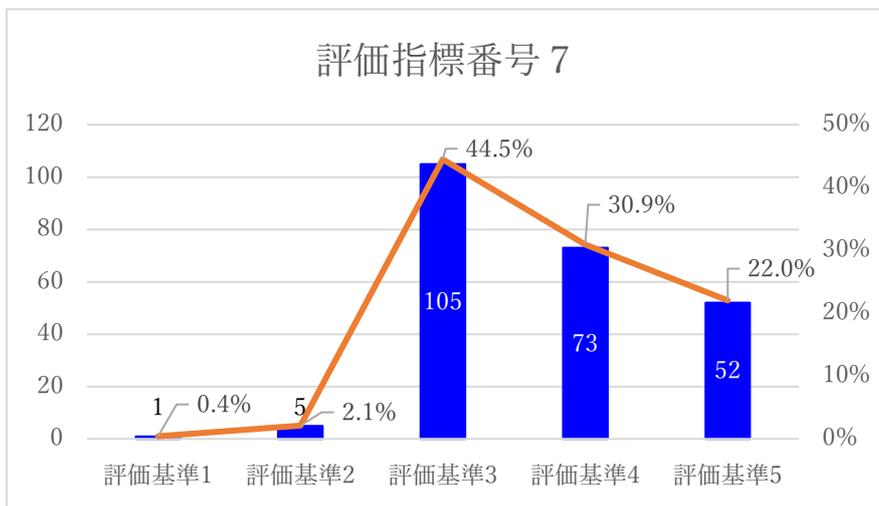
- **【琉球大学教育学部附属中学校】**

学教評議員として、教育委員会から評価してもらい、取組に生かしている。

評価小項目：特色ある教育

評価指標番号7：附属学校園は、特色ある教育活動の実践や研究を行い、継続的にその成果を検証し、学校外において活用されている。【例：ICT教育、国際教育】

(想定される回答者：附属学校園)



【評価基準】

- 1：附属学校園は、特色ある教育活動の実践・研究について検討している。
- 2：附属学校園は、特色ある教育活動の実践・研究を行っている。
- 3：附属学校園は、特色ある教育活動の実践・研究を行い、その成果を発信している。
- 4：附属学校園は、特色ある教育活動の実践・研究を行い、その成果を発信し、それに対する学外者の意見等を集約・反映している。
- 5：附属学校園は、特色ある教育活動の実践・研究を行い、その成果を発信し、それに対する学外者の意見等を集約・反映している。さらに、その成果が、学外（国、教育委員会、各学校等）において活用されている。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学附属函館幼稚園】

国公幼や全附属等の研究大会や集会の中で幼児のICT（プログラミング的活動等）や子育て支援（預かり保育等）についての実践の発表報告を行い、高い評価を受けている。

●【北海道教育大学附属札幌小学校】

本校の特色ある教育活動について、今年度、札幌市小学校教頭会で発表し参加者から意見をいただくとともに、毎年、学校評議員からも意見をいただき、教育活動の改善に生かしている。

●【北海道教育大学附属旭川小学校】

公立学校からの要望を集約し、ニーズに応じた内容で「GIGA スクール研修会」を実施し、情報活用能力の育成と評価の方法、発達の段階を踏まえた活用方法等について情報発信し、公立学校の授業改善等に活用されている。

●【北海道教育大学附属函館中学校】

BYOD/BYAD による一人一台端末を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に積極的に生かしている。ICT を積極的に活用することで、今までできなかった学習活動の実施や家庭など学校外での学びを充実させることができている。学習面のみならず学校生活全般に ICT の活用が積極的になされている。生徒会活動や芸術鑑賞などでは、コロナの感染予防対策を踏まえながら遠隔による活用が行われている。

●【北海道教育大学附属旭川中学校】

他地区の学校と連携した遠隔研修を実施しており、参加の公立学校からの新たなニーズを聞き取っている。

●【北海道教育大学附属釧路義務教育学校（前期課程）】

義務教育学校の取組について、地教委の要請による各種研修会等での講師派遣や書籍の発行等により適宜発信し、活用いただいている。道内外から義務教育学校化を検討している地教委や学校等の視察を受入れている。

●【弘前大学教育学部附属特別支援学校】

附属特別支援学校では、コロナ禍に対応したオンラインによる交流及び共同学習や外部専門家の授業、VR ゴーグルを使ったスポーツ疑似体験、iPad を使った附属小中学校との合同授業、iPad のスクールワークシステムを活用した学習管理など、ICT の機能と学習目標の関連を明確化しながら実践に取り組んでいる。また、フライングディスク交流大会で導入した遠隔地とのオンラインによる競技方法は、青森県の特別支援学校オンラインスポーツ大会において援用された。

●【岩手大学教育学部附属中学校】

県および県立大学と連携し「いわての学び改革事業」に着手し、附属学校においては、整備されたタブレット端末の活用を通して「ICT を活用した主体的・対話的で深い学び」の研究発表を行うなど、GIGA スクール構想の一端を主導的に実践し、外部機関からも高く評価されている。さらに、大学や各業界団体・企業とも連携を深め、授業におけるデータ収集ソフトの開発に携わりながら形成的評価の実践に取り組み、その成果を地域に発信している。

●【宮城教育大学附属小学校】

夏には授業づくりについての研修会、冬には全教科授業提案型の公開研究会を開催し、参会者からのアンケートを分析し、次に役立てている。また、県内の学校に出向いて授業を行う「出前授業」を実施しており、直前と数か月後にアンケートをとり、事後に生かされているかを検証している。

●【宮城教育大学附属特別支援学校】

文部科学省の委託事業である「知的障害に対する通級による指導について」の実践研究では、対象児童生徒への個別指導を通して、学級及び学校適応の向上が図れた事例及び効果的な連携方法等について学外でもその成果を発信し、反映しているところである。

●【秋田大学教育文化学部附属幼稚園】

教育活動への実践・研究は、学校評価アンケート、学校関係者評価委員会、紀要、公開研究会等で発信、意見を集約している。

●【秋田大学教育文化学部附属中学校】

ICT教育において、「コラボノート」や「Monoxer」のソフトを活用し、授業や家庭において、個別に学習を進めることができるようにしている。そのために、生徒は毎日タブレットを持ち帰り、自宅でも活用できるようにしている。これらのICTの活用について、秋田県内の学校に活用実践事例を提示している。

●【山形大学附属中学校】

学校評議員会で出た意見を集約し、教育課程編成等に活かしている。

●【茨城大学教育学部附属小学校】

地域の研修会等において、県教委指導主事等が、本校の研究内容を指導の中で用いることがある。

●【筑波大学附属学校園】

SSHの認定を受け、全教科中高全学年で実践・研究に取り組んでいる。特に、SSH数学科教員研修会「教材開発ワークショップ」を開催し、参加教員と互いの研究活動を共有している。また、本校数学科教員が遠方の学校を訪問して開発教材による研究授業・協議会を実践し、学外へ普及する活動を継続的に行っている。

●【筑波大学附属聴覚特別支援学校】

フランス、韓国、台湾との国際交流。地方の聾学校とのオンライン合同授業や授業研究会実施。乳幼児教育相談。文部科学省委託事業実施。科研費等の外部資金獲得。

●【群馬大学共同教育学部附属小学校】

タブレット端末の導入・活用に関する情報交換会を実施したり、ICT活用実践事例集を作成し、県内の市町村教育委員会に配付したりするとともに、県内各小学校への周知を行い、多くの学校で活用された。

●【群馬大学共同教育学部附属中学校】

ICT活用に関わる様々な研修会を行い、そこから得られた成果や課題を基にICT活用実践事例集を作成し、県内へ配布した。現在、多くの学校で活用されている。

●【埼玉大学教育学部附属小学校】

働き方改革においてコンサルタント契約を結び、研修等を用いて教職員の意識改革及びその成果を発信している。また、多くの方に視察に来ていただき御意見をもらいながら更なる改善に努めている。

●【千葉大学教育学部附属幼稚園】

年2回の公開研究会、年2回の保育を語る会などで学外者にご意見をいただいたり、多くの大学教員の研究に幼稚園を使っていただいたりしている。また、本園の保育の特徴の一つである「挑戦的遊具」は保育学会等で発信し、様々な方から考え方に賛同をいただいている。

●【千葉大学教育学部附属小学校】

生徒指導に関するいじめ認知システムを作成、いじめの早期発見と対応に資する研究および実践に取り組んでいる。また、ICT活用に関しては『オンライン学習のできることで、できないこと新しい学習様式への挑戦』（明治図書2020）を公刊して成果を発信している。

●【千葉大学教育学部附属中学校】

一人一台情報端末環境のあり方について実践的な研究を推進し、公開の研究会を実施している。特に、デジタル・シティズンシップ育成に関する研究を進め、千葉市教育センターの研究等に知見を提供している。いじめ等の問題に実効的に対応できるよう「教育相談部会システム」を確立し、取手市教育委員会等に知見を提供しているほか、教職大学院学生の見学を継続的に受け入れている。

●【東京学芸大学附属幼稚園（竹早園舎）】

未来の学校プロジェクトにおける成果を公開研究会などを通じて発信している。

●【東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）】

原則として、学生や研究者等の参観・研究協力・研修等を随時すべて受け入れている。質の高い幼稚園教育実践を示し、現場での学びを発信している。開かれた質の高い幼児教育実践事例として、各種雑誌等に取り上げられたり、本学・他大学講義等でも活用されている。

●【東京学芸大学附属世田谷小学校】

文部科学省の研究開発学校の指定を受け、「未来社会を創造的に生きる『学びを自分でデザインする子』の育成」を目指して、教育課程及び学習環境デザインの研究開発に取り組んでいる。研究を進めるにあたっては、学外者の運営指導委員の有識者の先生方からも指導・助言を受けている。

●【東京学芸大学附属小金井小学校】

本校では、とくに ICT に注力しており、授業のみならず、教員間業務、保護者との連絡等についても、ペーパーレス化も含め有効的に活用している。本校は、2022年3月にマイクロソフト本社より「Microsoft Showcase School 2021-2022」として認定された。

●【東京学芸大学附属大泉小学校】

文部科学省の研究開発学校の指定で、小学校における探究学習の重要性を提言した。現在、探究の研究が広まってきている。また IB の PYP 認定校を秋に取得見込みであるが、すでに全国の学校から PYP についての問い合わせや見学などがきており、広める活動をしている。

●【東京学芸大学附属竹早小学校】

教育課程特例校として教科横断的学習「自己実現活動」を実施し、主体性を育むための研究を進めている。また未来の学校プロジェクトにおいても ICT を活用した様々な実践を行っている。

●【東京学芸大学附属竹早中学校】

研究成果を書籍にまとめ上梓した。

●【東京学芸大学附属高等学校】

高校教育における ICT（一人一台環境における教育実践）の活用やその整備について、学外者の意見や財政支援（後援会）などからの意見や専門的助言を生かして次期計画や契約の締結などに生かされてる。

●【東京学芸大学附属国際中等教育学校】

教育活動への実践・研究は、学校評価アンケート、学校関係者評価委員会、ニュースレター、ウェブサイト、紀要、公開研究会等で発信、意見を集約している。また、SSH の成果は別に特設サイトを置き実施報告書や数学のオリジナルテキスト、理科の実験デザイン集等を発信している。成果は特に他の IB 校との連携において共有・活用されている。

●【東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校】

平成 28 年度から令和 2 年度まで、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けて、外国語教育や国際交流の活性化に努めており、欧州での演奏研修旅行等を実施した。コロナ禍により海外との交流は若干の停滞が見られるが、現在も継続している。

●【お茶の水女子大学附属中学校】

毎年秋、公開研究会を開催。10、20年先を見据えた研究テーマを設定した上で、特色ある授業づくりや授業実践を発表し、全国各地から参加する教員や教育関係者からの様々な意見・助言を集約し、更なる研究推進に反映している。各教員の研究成果を配信するため、管理機関（本学）が設置する「附属学校・論文データベース」を整備している。

●【お茶の水女子大学附属高等学校】

SSH（女子理数教育）の成果をHP上で発信。運営指導委員、学校関係者評価委員の意見・助言を集約し、改善に反映。英国大使館科学技術部や非SSH高校の視察受入のほか、東京都SSH指定校教員研修会で教員発表等を実施。管理機関（本学）が設置する「附属学校園教材・論文データベース」に成果を掲載し、19,000回の視聴があった。

●【横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校】

発達の段階に応じた宿泊学習や子どもたちが企画する行事や活動を意図的に設定している。

●【横浜国立大学教育学部附属横浜小学校】

1、2年生では、生活科ではなく「生活総合」、3～6年生では、「総合単元学習」を研究の軸の一つとして長年にわたり取り組んでいる。

●【山梨大学教育学部附属幼稚園】

本園の教員が地域の幼児教育施設からの要請に応じて、園を訪問し園内研修の講師等を務める「派遣事業」や本園の教員が企画による大学教員の研修「スキルアップ講座」を行ってきている。コロナ禍においても動画配信等を用いて継続してきた中で、R3の「スキルアップ講座」の参加は400名を超え、多くの園で園内研修に活用された。

●【新潟大学附属新潟小学校】

当校は、感染状況禍においても開催方法などを工夫することにより、各種行事をはじめ教育活動を力強く推進している。また、学校運営協議会やPTAの会などを定期的で開催し、情報交換や熟議を重ねている。そして、学校公式HPや学校公式Facebook、学校公式Twitterなどを活用し、取組の様子などを広く発信している。今年度はすでに県内外の複数の学校から視察依頼があり、当校の取組状況を活用いただいている。

●【新潟大学附属長岡小学校】

成果を発信する場を増やし、学外者の意見を多く得ている。それを教育活動に反映させている。

●【新潟大学附属新潟中学校】

以前は各地域において活発に行われてきた生徒会交流が、コロナ禍においては実施が難しくなった。当校では、全国の附属学校、市内の公立中学校の生徒会を対象として、Zoomによる生徒会交流を複数回実施した。そこでは、「子どもが主語の学校づくり」について実践紹介を行ったり、各校の取組を共有する話し合いを行ったりし、各校の参加生徒や生徒会担当職員から感謝の声が多数届いた。当校に倣い、他校発の交流会も企画され始めている。

●【新潟大学附属長岡中学校】

ICT教育について令和2年度末に子供一人に一台の情報端末を確保したことを受け、各教科等においてICT機器の利用及びその研究を進めている。令和3年度においては小中学校にてICT機器の利活用に関わる研究会を実施し、公立小・中・高校からの多くの参加者を得た。また公立校からの要請を受け、校内研修等に講師として職員を派遣している。

●【富山大学教育学部附属小学校】

6月に行っている教育研究発表会では、研究計画に基づいた授業提案を行い、文部科学省の教科調査官等の中央講師の方にご指導いただいている。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校】

学校研究の実践事例を発信している実践プラットフォーム「#WeCREATE」の数年前のアンケートで、1人1台端末を利用した授業実践に関する情報を知りたいというリクエストが多くあり、本校における端末を活用した実践例を多数発信している。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校】

平成24年より令和2年まで国立教育政策研究所教育課程研究指定校の指定を受け「社会科、理科、英語科、ESD、伝統文化教育、国語科、音楽科」の研究に取り組んだ。令和3年度からは4年間文科省の研究開発学校に指定され、特色ある教育活動の実践や研究を継続的に行っている。

●【福井大学教育学部附属義務教育学校】

文部科学省研究開発学校として、探究的な学習「社会創生プロジェクト」の時間を創設して継続実践研究を行っている。生活科、総合的な学習の時間、国語科の一部の時間（「話すこと・聞くこと」「書くこと」）を主に用いて、第1学年から第9学年まで学年に応じて、テーマ設定からテーマ解明、省察までの協働探究の在り方を発信している。

●【福井大学教育学部附属特別支援学校】

子どもの発意を大切にされた探究的な学習実践研究に取り組み、教師の子どもを見取る力や教師の力量形成を重視している。その成果を県内外に発信し、それに対する意見等を集約しながらよりよい実践につなげている。

●【信州大学教育学部附属幼稚園】

園創設以来一貫して、「遊びに打ち込む子どもを支える」保育に取り組んできている。遊びに見られる主体的な探究の姿と、それを捉え援助する教師の有り様は、研究開発校として学外者の意見も反映しながら進めている幼小中一貫教育カリキュラム開発とも相まって、幼稚園のみならず、地域の小中学校においても注目されるものとなっている。

●【信州大学教育学部附属長野小学校】

ICT教育では、「長野小GIGAスクール構想」による取組をホームページやおたよりで発信し、その取組に対するアンケート調査を保護者にも行った。その結果を集約し、保護者にフィードバックするとともに、次世代型学び研究開発センターの「GIGA好事例紹介」にも掲載をさせていただき、その成果を教育委員会、各学校に広く活用してもらっている。また、これまでの取組が認められ、日本教育工学協会の学校情報化優良校にも指定されている。

●【信州大学教育学部附属松本小学校】

GIGAスクール構想に基づく実践を、継続実施、発信してきている。特に、「ICT弱者」とも言うべきICT関連機器の扱いに抵抗感を持つ人を取り残さない、且つ実効的な推進に気を配り、信州大学教員との共同研究も推し進めてきている。県内外の先進的に取り組む教師との交流も行い、広く情報発信するとともに、地域校の取組の参考にもしていただいている。

●【信州大学教育学部附属長野中学校】

総合的な学習の時間のまとめ取りをし（4日間）、地元の企業の協力をえながら社会体験活動、SDGsを切り口にした探究活動等自己の探究課題を追究するヒューマン・ウィークを設けている。また、その成果を保護者・企業に公開している。

●【信州大学教育学部附属松本中学校】

本校の特色である学級で行う総合的な学習の時間（学級総合）の実践では、信州大学の留学生との交流を中心とした国際理解教育や、環境問題や地域活性化につながるESDに関する取組などが、メディアや書籍等で広く情報共有され、他校や他地域での実践につながる可能性があるとの声をいただいている。

●【信州大学教育学部附属特別支援学校】

本校で取り組む、生活単元学習・作業単元学習のよさを発信してきた。長野県内の知的障害特別支援学校の各教科等を合わせた指導の参考とされている。

●【静岡大学教育学部附属幼稚園】

年3回の研究保育を地域の教育委員会や教育関係者（現場の職員も含む）に来てもらい、保育について語り合うとともに、講師の講話を聴き、幼児教育の質の向上に努めている。

●【静岡大学教育学部附属静岡中学校】

子どもの主体性や学ぶ意欲の育成に重点をおいた研究を行っている。

●【静岡大学教育学部附属浜松中学校】

研究発表会を実施し、発信とともにそこでいただいたご意見を集約し、次の研究へと生かしている。

●【愛知教育大学附属名古屋小学校】

春と秋の実践研究発表会での様子をオンデマンド配信し、写真を多用した実践資料集を各学校に配付するとともに、メールによるアンケートを実施している。

●【愛知教育大学附属名古屋中学校】

3年間を通してSDGsを軸にした課題追究活動を行い、その成果発表を外部に公開したり、冊子を作成し紹介したりしている。

●【愛知教育大学附属岡崎中学校】

各学年で生徒主体の宿泊行事を実施している。目的や活動、場所などを、生徒たちが話し合いを重ねながら、目的に応じたプレ活動や講師を招いた学習活動を計画・実行するなど、半年から1年以上かけて創りあげている。その成果は、ホームページや保護者会等で発信している。また、学校評議員会や保護者アンケートで、ご意見をいただいている。

●【滋賀大学教育学部附属小学校】

夏と秋に行っている協議会において、学外者のご意見をいただくとともに、日常の校内研究会にも外部講師をお招きし、指導助言をいただいている。いただいたご意見を日々の研究にフィードバックし、その成果を年2回の協議会の場で発信している。

●【滋賀大学教育学部附属中学校】

今年で39年目になる総合学習「BIWAKO TIME」は、地域と世界をつなぐグループ単位の探究活動として県内外に公開し協議会で改善をはかってきた。この「BIWAKO TIME」は総合的な学習の時間の手本として各校に活用されている。

●【京都教育大学附属幼稚園】

家庭連携、業務軽減、保育への活用と、幼稚園でのICT機器の活用に取り組み、本園の研究協議会及び日本保育学会で発表している。

●【京都教育大学附属桃山小学校】

ICT教育に関して、全国各地から視察依頼、また研修依頼を受け、本校の実践を参考にして適宜ご活用いただいている。また、毎年、研究発表会を開催し、参加いただいた全国の実践者をはじめ、その分野での専門性を有する大学教員から指導助言をいただき、教育活動の向上に資する様、教育実践に反映している。

●【京都教育大学附属桃山中学校】

帰国生徒学級を有し、3年時での混成学級編成を見据えて教育活動に取り組んでいる。日本文化体験・日本語教室・帰国生徒スピーチなどの特色ある活動をおこなっている。

●【大阪教育大学附属幼稚園】

研究活動には公私立幼稚園や大学関係者に協力員として参加していただき、研究内容、教育活動に意見をもらっている。それを集約・反映しながら研究活動を続けている。

●【大阪教育大学附属天王寺小学校】

平成 30 年度における「業務改善」に関わる文部科学省委託事業の成果に基づき、令和 2 年度より、STEAM 教育のカリキュラム開発を業務改善の知見をふまえて進めており、カリキュラム・マネジメントの在り方の例として、研究を進めている。その成果を年度末の研究発表会において発信し、学外者の評価をアンケートを用いて整理集約している。

●【大阪教育大学附属平野小学校】

学内外から、指導助言や研究協力員としてご指導を頂きながら、新教科「未来そうぞう科」のカリキュラム開発や評価について研究を進めている。また、その成果を年度末の研究発表会において発信し、学外者の評価をアンケートを用いて整理集約し、次年度の研究に生かしている。

●【大阪教育大学附属池田小学校】

教育課程特例校として、安全科の教科を設けており、年間を通して計画的に授業を行うことで児童の安全に対する意識の向上と事故や災害等から身を守るスキルを高めている。これらの成果を、研究発表会や教育委員会の視察等で数多く発信しており、参会者や視察に訪れた教育関係者、行政関係者からたくさんの意見等を頂いて、カリキュラムや授業実践に反映させている。

●【大阪教育大学附属天王寺中学校】

組織的な探究学習プログラムとして、「自由研究」の学習指導を昭和 22 年の開校以来実施しており、当該のプログラムが藤井寺市の探究学習プログラムに取り入れられつつある。

●【大阪教育大学附属池田中学校】

IB プログラムを取り入れ、「探究」「行動」「振り返り」による探究的な学習を、Unit Planner（単元設計）に基づいて日々実践している。また、これらの取組は、集大成としての奉仕活動「コミュニティ・プロジェクト」につながっている。日々の学習や一連の取組の視察を、教育委員会をはじめ様々な学校が訪れ、情報交換を行いながら、互いの取組に活用している。

●【大阪教育大学附属高等学校（天王寺校舎）】

STEAM 教育を軸として、授業研究を実施し、その成果を教育研究会などで地域に発信している。

●【大阪教育大学附属高等学校（平野校舎）】

WWL 事業の一環として、国内外の複数の高校と連携して、SDGs をテーマとする高校生国際会議をオンラインで開催し社会課題の解決に向けたさまざまな議論を展開した。また、同様に国内外の連携校と教員国際会議をオンラインで開催し、探究的な学習に関わる取組の事例を互いに共有している。

●【大阪教育大学附属高等学校（池田校舎）】

ASPnet 校（ユネスコスクール）として、「グローバル探究」の授業を中心に ESD の考え方に基づいて教育を実践し、その成果を大阪・関西 ASPnet が主催し、約 20 校（小・中・高・大含む）と企業が参加する学びの交流会で発表している。また、ACCU（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター）主催の研修会でも実践活動を発表し、全国に影響を与えている。

●【兵庫教育大学附属学校園】

令和 3 年度は、幼稚園では研究発表会を 1 回、小学校では授業実践交流会を 2 回と研究発表会を 1 回、中学校では研究協議会を 1 回開催した。特に小学校、中学校では Zoom を活用したオンラインでの公開授業において、GIGA スクール端末を活用した授業を実施するなど、ICT を活用した授業実践を発表した。また、各校園の研究発表に附属内の他校園の教員や公立学校の異校種の教員等が参加することにより、附属校園間の ICT 教育や教科単位の研究の状況を共有する機会としている。また、参加者からの意見を集約し次年度の改善にいかしている。

●【神戸大学附属幼稚園】

子どもの事実を根拠としたボトムアップの研究開発の取組を通じて、幼児教育の可視化を推進する取組（カリキュラムや実践の可視化）を推進している。平成 22 年度当初は幼児教育の可視化について実現ができないとか意味がない等の否定的な声も少なくなかったが、今や可視化しなければわかってもらえないため可視化は当然進めなければならないことと受け止められている。本園では、幼児教育の可視化を推進するためのシステムも構築、整理しており、そのシステムのどこを取り入れることが、その園や地域の課題を解決することにつながるかを共に考え、必要を感じる部分を取り入れてもらっている。幼児教育の可視化に向けたノウハウの蓄積があるため、各園、各地域の直面する困難さを乗り越えるための方策は必ず見出せており、広く多くの地域で汎用性高く研究成果が活用されている。

●【神戸大学附属小学校】

大学教員と連携したプロジェクト研究を実施し、公立小学校にて講師としてその成果を還元している。

●【奈良女子大学附属幼稚園】

幼小一貫教育における異年齢探究活動の実施はコロナ禍で難しかったが、過去の異年齢探究活動「なかよしひろば」実践と、令和 3 年度に行った当事者としての子供自身が幼小接続期をどう意味付けているのかについてのインタビューを元に、研究発表や論文の投稿をした。また、前述の公開保育研修会、オンライン研修会、オンデマンド研究報告等では、参加者や有識者による意見を頂きその成果を HP 等で発信するとともに、教育委員会や園での研修に活用していただいている。

●【奈良女子大学附属中等教育学校】

SSH 指定校として、大学や各研究機関、産業界とも連携して、先進的な理数教育の開発に中高 6 年間を通して取り組んでいる。特に現在は、これまで輩出した卒業生調査の結果をもとに、未来志向型人材の資質を「飛躍知」と定義し、それを意図的に育成するカリキュラムづくりに取り組んでいる。あわせて、HP での成果発信に力を入れている。生徒の探究活動の作品や学習指導案のアーカイブ化、また研究発表動画の公開などを HP を通じて実施したことによりアクセス数が増加し、開発した指導と評価のノウハウが他校で参照されている。

●【鳥取大学附属特別支援学校】

学校評議員会を年 2 回開催し、各評議員から学校運営についてご意見をいただいている。障がい者スポーツの施設活用についても紹介をいただき、今年度、各学部において体育の学習や親子活動のイベントにおいて活用をしている。地域資源については、湖山西公民館、福祉人材センターにおいて労働体験で活用している。

●【島根大学教育学部附属義務教育学校】

本校では、前期課程 1・2 年生の生活科と、前期課程 3～6 年生・後期課程の総合的な学習の時間を、「未来創造科」という学校独自科目として設定し、9 年間を通して探究的な活動を行っている。後期課程ではすべての学年で保護者・関係機関を招いた発表会を実施し、その後のアンケート等の結果を踏まえて、次年度の活動内容の企画・立案に生かすようにしている。

●【広島大学附属小学校】

教科担任制による授業研究の成果をオンライン公開研究会、月刊誌「学校教育」の刊行を通して発信し集約している。

●【広島大学附属三原小学校】

研究開発学校の指定を受け、総合的な学習の時間・特別な教科道徳・学活の時間を包摂した新領域「光輝（かがやき）」を設定し、各教科の時間を最大 1/4 程関連付けた単元開発・実践を行い、その効果を検証し外部に発信している。

●【**広島大学附属中学校**】

附属高等学校のスーパーサイエンスハイスクール研究開発で、大学や研究機関等の協力も得て教科融合・横断的な科学教育プログラムを実施しているが、一部のプログラムには中学生も一緒に参加している。課題研究発表会では高校生、大学生、大学教員等を交えた質疑に参加するなどによって、互いのモチベーションを高めている。

●【**広島大学附属福山中学校**】

現在、併設の高等学校がWWL コンソーシアム構築支援事業研究開発学校指定（令和2年～3年間）に採択されている。これを踏まえ、6ヶ年一貫の教育実践になるように研究開発を行っている。年間2回運営指導委員会を開催し、学外の有識者よりご意見をいただき、研究にフィードバックしている。教育研究成果はHP、公開研究会、紀要等で広く発信している。

●【**広島大学附属高等学校**】

スーパーサイエンスハイスクール研究開発の中で、課題研究を含む学校設定教科「SAGAs」を開発し、大学や研究機関等の協力も得て、教科融合・横断的な科学教育プログラムを実施している。その中で高大接続プログラムも実施しており、プログラムの対象が附属学校から公立学校等へも広げられようとしている。

●【**広島大学附属福山高等学校**】

現在、ワールドワイドラーニング（WWL）コンソーシアム構築支援事業（令和2年～3年間）に採択され、高校生へ高度な学びを提供する仕組み「アドバンスト・ラーニング・ネットワーク」を形成し、WWL コンソーシアムへとつなげる研究開発を実施している。年間に2回運営指導委員会を開催し、学外の有識者よりご意見をいただき、研究にフィードバックしている。その成果をホームページ・教育研究会・研究紀要などを通じて、広く発信している。

●【**山口大学教育学部附属山口小学校**】

ICTの活用について、山口県教育委員会と協働で活用事例集を作成した。

●【**山口大学教育学部附属特別支援学校**】

特別支援教育に関する夏期公開研修会や授業づくり研修会を実施し、参加者への事後アンケートで御意見をいただいている。また、校内研修に外部講師をお招きし、研究への御意見をいただいている。いただいた御意見を日々の研究に生かし、研究成果を他校の研修会でも発表している。

●【**鳴門教育大学附属幼稚園**】

毎年、幼児教育研究会を実施している。今年度は、コロナ禍であることやICTの有効活用に対応し、10月15日に現地開催とオンライン開催のハイブリッド形式で実施する。また、公益社団法人全国幼児教育研究協議会徳島支部の支部長及び事務局を本園に置き、会員や幼児教育関係者のニーズを反映し研修会等を企画・実施している。研修等実施後には、アンケートを行っており、筆記やQRコードを活用するなど、より多くの意見を集めることができるようにしている。県市の園長会や県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会の運営協議会にも参加しており、現状や地域のニーズの把握を行い、研究や研修内容に活かすようにしている。

●【**香川大学教育学部附属高松小学校**】

創造活動・個人追究の時間を通して、総合的な活動の時間の在り方や、外部人材の活用、教材の発掘に努めている。そのことで、地域の学校の教材開発の一助を担っている。

●【**香川大学教育学部附属坂出小学校**】

公開授業や研究会の討議、アンケート等で意見を集約し、研究の成果は、SNSやホームページ（週1回以上更新）、研究だより、研究紀要等で発信している。

●【**香川大学教育学部附属高松中学校**】

パナソニック教育財団の支援や指導をうけながら、ICTを活用した個別学習に取り組んでいる。

●【香川大学教育学部附属特別支援学校】

研究に関する外部指導者による指導を公開し、参加者の感想等は参考にしている。

●【愛媛大学教育学部附属学校園】

本学附属学校では、下記の様な特色ある教育活動の実践や研究を行い、そのうちのいくつかは地域から高い評価を得ている。

【小 学 校】オーストラリアの St Andrews Lutheran College 小学部と 10 年以上に渡って児童間の交流活動を行っている。

【中 学 校】財団からの助成金を得て、GIGA スクール環境による 1 人 1 台端末を活用し、生徒のメンタルヘルス状況を把握する取組を行っている。

【特別支援学校】公立学校等における特別支援教育や合理的配慮、キャリア教育の視点において高評価を得ている。

【高等学校】WWL 事業及び研究開発学校事業を通じてその成果の普及に取り組み、高い評価を得ている。

●【高知大学教育学部附属中学校】

年間を通じて、主に総合的な学習の時間を使って SDGs を柱において取り組んでいる。また、国際教育についてはモンゴルからの留学生を受け入れている(新型コロナウイルスの感染拡大により中断している)。

●【高知大学教育学部附属特別支援学校】

本校の教育課程は、県立学校が取り組んでいる「教科化」というよりは、これまでの各教科、合わせた指導をうまく関連させながら、児童生徒の障害特性に応じた指導の在り方を研究している。教科の狙いを、児童生徒個々の発達段階を明らかにし、学習する段階や目標を学習指導要領とリンクさせ、根拠に基づいた学習内容を保障する。また、三観点に応じた評価の仕方も本校より提案し、発信している。

●【福岡教育大学附属幼稚園】

平成 31 年度から「幼児期における環境教育を探る」という研究主題のもと、福岡教育大学幼児教育研究部会と連携して、SDGs を見据えた先進的な実践研究に取り組んでいる。毎年秋の公開研究会では、大学教授から講評を受け、次年度に向けた研究内容の改善に資することができている。その研究の成果の一端を宗像市教育委員会主催の研修会でも発信し、公立私立を問わず、市内外各園の日々の実践に活かされ、貢献している。

●【福岡教育大学附属福岡小学校】

本校では、一人一台端末を活用した教育活動を実践し、授業での活用はもとより、感染症や災害に対応する臨時休業時にも積極的に活用している。また、研究では、6 月の公開研究会、2 月の教育研究発表会において、一人一台端末を活用した授業実践をはじめ、公開授業のオンライン配信等を実施し、その成果を発信している。研究会開催後には、参会者にアンケートを行い、評価を受けている。国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～Vol.3 (令和 2 年 12 月)には、本校が臨時休業中に各家庭に実施した「Zoom を利用したオンライン朝の会」の取組が掲載されている。

●【福岡教育大学附属小倉小学校】

一人一台のタブレット端末を活用したオンライン授業を積極的に取り入れている。このことで、コロナ感染者が急増した際でも臨時休校することなくオンライン授業に切り替えることで子どもの学びを停滞させることなく教育活動を進めることができている。また、公開研究会においてオンライン授業を公開することで、公立小学校におけるオンライン授業の促進に貢献している。

●【福岡教育大学附属久留米小学校】

本校は、学習者用端末の活用を保存化と共有化の観点から具体化し、問題解決の過程に位置付けた授業動画を配信したり、授業のダイジェスト版を掲載したパンフレットを配付したりして、地域の教育委員会や学校における実践の充実・発展に貢献している。

●【福岡教育大学附属福岡中学校】

令和3年度は、授業における様々な場面におけるICT機器の活用の具体例について実践を行い、研究発表会（オンライン配信）を開催して、情報発信を行った。令和4年度は、話し合い活動が活性化するICT機器の活用を焦点化した授業提案を研究発表会で予定している。なお、この発表会は、県教委の公開授業講座と兼ねており、各教科の実践が各学校等で活用され则认为している。

●【福岡教育大学附属小倉中学校】

小倉地区では「小中連携（生徒会と児童会）SDGsの取組の推進」を行っている。本校は、環境都市北九州市にあり、持続可能な社会を目指す一市民として何ができるのかを考えることが大切である。中学校では、中庭でグリーンカーテンをつくったり、Tシャツプロジェクトと題し、中庭にTシャツを干したりして、気温を下げる取組をしている。

●【福岡教育大学附属久留米中学校】

毎年発表会の形で研究の成果を地域の教育関係者に披露しているが、そこでいただいた意見等を集約し、今後の研究に生かしている。特に、指導案等の事前検討の段階で本校の教職員のOB会組織に参加してもらい、多くの建設的な意見をいただくことで、特色ある教育活動の質を向上させている。

●【長崎大学教育学部附属幼稚園】

子どもの主体性や好奇心、探求心、挑戦意欲等を育む環境構成と教師の援助のあり方について研究を深め、幼児教育研究協議会で、学外の方に本園の研究を発信している。協議会の中で学外参加者のご意見をいただくとともに、アンケートにより意見を集約し、本園の研究に生かしている。

●【熊本大学教育学部附属幼稚園】

幼稚園での保育経験者が浅い保育者が多い事や幼小連携で幼稚園からの説明責任を果たす必要性があることなどから、幼児理解の育ちを捉える指標のようなものを作成し実用化できるような研究を進め、様々な研究会で発表している。

●【熊本大学教育学部附属小学校】

いくつかの市町村教育委員会と提携し、それぞれの教育委員会所轄の学校の研究に寄与している。

●【熊本大学教育学部附属特別支援学校】

昨年度から一人一台端末が実現し、研究テーマも「情報活用能力の育成」の焦点を当てていることや各学部において「情報」に関連する教科や授業を特設したこともあり、ICT機器の活用が急速に進んだ。アプリケーションソフト「ロイロノート・スクール」を効果的に授業で活用することが多い。研究の成果は、2月の研究発表会で公開しており、アンケートにおいても概ね好評をいただくことができた。

●【大分大学教育学部附属幼稚園】

九附連の熊本大会では、大分大学附属幼稚園の研究を発表し、数量・図形への関心・意欲につながる環境の構成や援助の在り方の協議が行われた。身の回りには算数に関わる環境や思考がたくさんあることに気づかされた参加者が多く、この研究をさらに深めていく意義を感じた。

- **【大分大学教育学部附属小学校】**

平成 28 年度から外国語活動に取り組み、外国語の視学官を毎年招聘して指導・助言を継続的にいただいている。また、県の課題の改善に向けて、全教科等の授業を公開し、県教育委員会指導主事からも指導・助言を受け、その内容をホームページ等で発信している。

- **【大分大学教育学部附属中学校】**

年 3 回実施する学校評議員会において、委員の方々から意見を伺い学校経営等に活かしている。また、学校通信「大鴻（おおとり）」に、その成果等を掲載し発信している。また、県外の中学校とオンラインで「総合的な学習の時間」で生徒が作成した作品等について意見交流を実施し、生徒相互のみならず教職員も有意義な時間となった。

- **【宮崎大学教育学部附属小学校】**

子どもが「学びをつなぐ」ための積極的・肯定的な行動支援が可能になるように SWPBS の視点を主題研究に位置づけ、児童が参加して学校教育目標に沿った行動目標を構築する取組（第一層支援）を行っている。また、集団に加わるのが苦手など第二層支援を可能にする多様で柔軟な学びの場の整備（特別支援教室の運用）を実践・研究し、次回公開研究会にて発信する計画である。

- **【琉球大学教育学部附属中学校】**

学校評議員として、教育委員会から助言をもらい、それを取組に反映している。

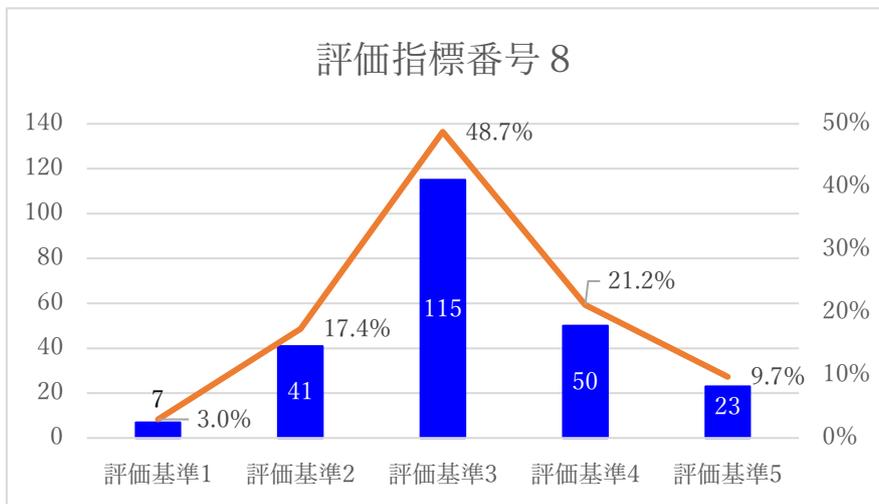
- **【名称非公開】**

- ① 複式授業研究会や教育研究発表会、ICT 活用授業研究会の年間 3 回の研究発表会でのアンケートを通して、学外者の方から多くのご意見をいただき、その後の研究推進に活かしている。

評価小項目：特色ある学校運営

評価指標番号8：附属学校園は、特色ある学校運営を継続的に行い、その成果を検証し、学校外において活用されている。【例：働き方改革、地域貢献、国際貢献】

(想定される回答者：附属学校園)



【評価基準】

- 1：附属学校園は、特色ある学校運営の実践・研究について検討している。
- 2：附属学校園は、特色ある学校運営の実践・研究を行っている。
- 3：附属学校園は、特色ある学校運営の実践・研究を行い、その成果を発信している。
- 4：附属学校園は、特色ある学校運営の実践・研究を行い、その成果を発信し、それに対する学外者の意見等を集約・反映している。
- 5：附属学校園は、特色ある学校運営の実践・研究を行い、その成果を発信し、それに対する学外者の意見等を集約・反映している。さらに、その成果が、学外（国、教育委員会、各学校等）において活用されている。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学附属函館幼稚園】

外国人や帰国子女などを積極的に受け入れるとともに、それにとまなう課題を明らかにし地域貢献を行っている。

●【北海道教育大学附属旭川小学校】

保護者への情報発信のデジタル化、教育実習に係る記録簿等のデジタル化、学生との情報共有など、これまで紙面配付や手書き等で実施してきた業務を ICT を用いて効率化するとともに、そのノウハウを公立学校に発信したり、問合せを受けてレクチャーしたりしている。

●【北海道教育大学附属函館中学校】

ICT 活用の効果を保護者に説明し、BYAD による一人一台体制を実現している。この先進的な取組によって、教科指導はもとより、学年・学級の活動にも ICT の活用が積極的に行われるほか、校務の効率化に向けた取組にもつながっている。これらの特色ある学校運営の実践を継続して行い、積極的に外部発信する中で、他の地区町村の教育委員会と連携をし、本校が実践してきた ICT のノウハウを活用していただいている。

●【北海道教育大学附属釧路義務教育学校（前期課程）】

校務のデジタル化、時間割の工夫、行事の精選や規模の縮小、PTA 活動の見直し等により業務の削減を進めている。また、このような取組は、地域の学校からも問い合わせがある。また、生み出した時間において、ワークショップ型の短時間の研修を行うなど、教員のキャリアステージに応じて資質向上や学校運営の参画意識の向上に向けた取組を進め、成果を挙げている。

●【弘前大学教育学部附属特別支援学校】

附属特別支援学校では、スポーツ庁の事業を 7 年連続で受託し、地域における障害者スポーツやインクルーシブスポーツの拠点として、大学や行政、総合型スポーツクラブ等との連携の下、スポーツ教室や幼児の身体運動に関する相談会、フライングディスク交流大会等を開催している。幼児期から学校卒業後までの連続したスポーツの取組は「弘前大学モデル」として文部科学省が公表した「グッドプラクティス事例」で紹介された。

●【岩手大学教育学部附属特別支援学校】

現在はコロナ禍により、活動をすべて行うことは難しいが、地域との交流（老人の方々との交流、果樹園の除草作業、公民館等の環境整備、作業製品の販売など）を積極的に行っている。このような教育活動について、地域の住民や施設関係者等から構成される学校評議員に紹介し、意見をいただいている。

●【宮城教育大学附属幼稚園】

附属四校園連携テーマ「かかわり合う力を育む」を掲げ、研究を推進するとともに、学校評議員会を開催し成果や課題について検証を行い、改善に向けて取り組んでいる。学校評議員は地域住民や近隣の教育関係者で構成することで、多くの視点で検証できるようにしている。

●【秋田大学教育文化学部附属幼稚園】

附属幼稚園では、学部関係者と園職員の主催で園内保育研修会を行っている。外部の保育関係者も参加し、保育の質を高めるためのテーマについて議論し、有効な実践を共有している。また、変形労働制、オンライン会議・オンライン研究会などの実践が地域に広まっていると考えられる。

●【秋田大学教育文化学部附属中学校】

校務のデジタル化を推進している。保護者連絡システム「C-ラーニング」を活用し、保護者への文書の送付、生徒及びその家族の毎朝の健康観察、欠席連絡、保護者と教員との双方向の連絡などを行っている。この取組により、ペーパーレスと教員の電話対応業務を大幅に削減した。また、生徒と教員の連絡には、「スクールライフノート」を活用し、一日 2 回の心の状態チェックや生徒のつぶやきを拾い、生徒理解を深めている。

●【筑波大学附属聴覚特別支援学校】

国立特別支援教育総合研究所、大学、特別支援学校（聴覚障害）等の研究会、研修会への講師派遣、JICA 研修受入、都道府県の研修生受入、「聴覚障害」（季刊誌）の企画編集。

●【群馬大学共同教育学部附属小学校】

ICT を活用した学校運営等について、県教育委員の視察を受け入れるとともに、ホームページ上でも事例を公開している。

●【埼玉大学教育学部附属小学校】

働き方改革においてコンサルタント契約を結び、研修等を用いて教職員の意識改革及びその成果を発信している。また、多くの方に視察に来ていただき御意見をもらいながら更なる改善に努めている。

●【東京学芸大学附属幼稚園（竹早園舎）】

未来の学校プロジェクトにおける成果を公開研究会などで発信している。

●【東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）】

保護者への連絡や保護者からの欠席連絡などを web 上で行えるようにしたことで、教員の対応業務の軽減がはかれている。教員打合せをリモートで行うことで在宅勤務を可能にしたり、大学教員等との会議をリモートで行うことで日時調整がしやすく頻繁な確認や打ち合わせが可能となっている。HP 内容の改善を随時行い、反映させている。

●【東京学芸大学附属大泉小学校】

手学校において、附属学校の特色を残しつつ、学習指導要領と PYP とを共存・両立させることは、容易ではない。組織や時間割、会議のあり方や公務分掌などで、様々な学校運営上の工夫をしてきている。

●【東京学芸大学附属竹早小学校】

変形労働制を基本に、教職員の負担軽減を行いながら、メンタルヘルスを良好に保つべく対話を重視した学校運営を行っている。

●【東京学芸大学附属竹早中学校】

学校評議員会や町内会の代表会議等でご意見をいただき、学校運営に反映させるよう努めている。

●【東京学芸大学附属高等学校】

①東京都教育委員会の現職研修（教科情報）に講師を派遣する②SSH にかかる生徒の取組を世田谷区教育委員会および企業と連携して、地域の小学生のための理科実験教室を行うなどを実施している。これらの取組は、SSH の取組であったり、授業実践研究会や SSH の先進校視察などを通して本校の SSH 運営指導委員会や学校関係者（学校評議員）評価などの評価や意見を反映させ実施されるものであり、地域の教育委員会の事業をとおして広く教育界で活用される。

●【東京学芸大学附属国際中等教育学校】

学校経営計画に示されている IB の教育システムを中心とした特色ある学校運営は、公開研究会、ウェブサイト等で発信され、研究協議会、学校評価アンケート、学校関係者評価委員会等で外部からの意見を集約している。視察のために来校した教育委員会や学校で本校の取組が活用されている。

●【新潟大学附属新潟小学校】

当校は、学校運営協議会や PTA の会などを定期的に行い、保護者や地域の代表、学識者の方などと情報交換や熟議を重ねている。その際、学校の実情や課題、学校運営方針などを校長が中心となって説明しており、これらの情報交換や熟議を通しながら、各種成果などを学校だよりや学校 HP などで発信している。

●【新潟大学附属長岡中学校】

部活動補助として保護者を中心としたクラブ活動の運営や部活動指導員による大会引率など職員の部活動指導軽減の取組について、保護者会、学校評価アンケート、学校運営協議会等で外部からの意見を集約し、改善に努めている。

●【富山大学教育学部附属小学校】

変形労働時間制、教科担任制、オンライン授業、超過勤務手当の支給等について先進的に取り組んでいる。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校】

オンライン授業・オンライン会議・オンライン研究会や、学校園連携を柱とした金沢モデルアクションプラン、主に社会イノベーション創造プログラムの実践が地域に広がっていると認識している。

●【福井大学教育学部附属特別支援学校】

本校では、子どもたちが生活の中で生活内容を実体験しながら学ぶ生活教育を実践し、教科、領域等を合わせた指導の中での探究活動を研究している。この実践研究の成果は、毎年1回公開研究会で県内外に公表し、それに対する意見等を集約し研究に反映させている。

●【信州大学教育学部附属学校園】

校内業務のDX化を積極的に推し進め、クラウドの活用やペーパーレス化等により、実際に業務時間の短縮や負担の縮小に成果を上げてきている。それらの取組について、県内外の教育関係者、保護者の考えも集約し、反映させながら取り組んでいる。

●【信州大学教育学部附属長野小学校】

国際貢献として、総合的な学習の時間に5年生がイギリスのKing's Ely（キングスイーリースクール）の子どもたちと竹とんぼを通じたZoomでの交流活動を2年間続けた。この成果は、ホームページ等でも発信し、保護者や地域の方からの意見をその後の活動に生かした。また、地域貢献として、総合的な学習の時間に3年生が地域の神社からの要望をきっかけに、百葉箱を作成し、神社に寄贈する活動を行った。この取組は新聞にも取り上げられ、その反響をその後の活動に生かした。

●【信州大学教育学部附属松本中学校】

個々の職員の勤務時間について、その可視化を強く進めると共に、校務の効率化につながる、クラウドの積極的な利用や会議、連絡のペーパーレス化、部活動の効率的な指導等の取組を行い、その様子を保護者や地域に発信し、取組に対する意見も受け付け、学校への理解を深める機会としている。

●【静岡大学教育学部附属静岡中学校】

毎年実施している研究協議会や教科研究会等において、外部からの意見を今後の研究活動にかかしている。

●【静岡大学教育学部附属浜松中学校】

地域の教育委員会を回り、教育長との懇談を通して地域のニーズを聞き取るとともに、本校の研究について説明を行っている。

●【愛知教育大学附属名古屋小学校】

若手を中心とした働き方改革プロジェクトチームをつくり、仕事の効率化と研究校としての役割の両立について検討をしている。オンライン会議にて附属幼小中連携した小グループによる話し合いの場を設けて検討を行った。

●【愛知教育大学附属名古屋中学校】

働き方改革に伴い、業務の見直しや変形労働制を導入するなど、無理なく充実した教育が展開できるよう工夫をしている。

●【滋賀大学教育学部附属中学校】

大学が法人化されると同時に労働組合を立ち上げており労働協約によって細やかに勤務条件を管理している。超過勤務等に関する働き方改革についても労使の信頼関係をもとに両方からすすめている。

●【京都教育大学附属幼稚園】

ICT 機器を活用し、保護者との連携ツールを取り入れ、登園前の健康観察、保護者用おたよりの配信を行い、紙媒体での配布から切り替えたことで、印刷、配布等の教職員の業務の軽減に取り組んだ。その活用について、本園の研究協議会にて発信した。

●【京都教育大学附属桃山小学校】

働き方改革に関連し、教育データのクラウド化については、全国でも先進的に活用し、文部科学省の先導する教育の情報化の優れた事例として取り上げられ、全国に発信することができた。また、各家庭保護者、及び本学の有する他校の附属学校園との連携においてもクラウド化を進め、働き方改革を推進している。

●【大阪教育大学附属天王寺小学校】

[働き方改革]「カリキュラム・マネジメント」の成果については、年度末の研究発表において発信している。

●【大阪教育大学附属天王寺中学校】

学校運営の実態について、学校評議員による外部評価を受けている。

●【大阪教育大学附属高等学校（天王寺校舎）】

教員の働き方について、多くの課題に直面しているが、現場でできることに関しては、従来にない方法で改善を進めている。

●【大阪教育大学附属高等学校（平野校舎）】

学校の働き方改革に資するため、学校内にスクール・コミュニティクラブ「ひらの倶楽部」を設立し、地域を巻き込んだスポーツ活動を実施するとともに、部活動の地域移行への対応に備えている。学校の中に部活動の受け皿組織をつくる取組は、経済産業省や地元の自治体（大阪市・大阪府）から評価されている。

●【大阪教育大学附属高等学校（池田校舎）】

長年蓄積してきた学校評価のデータを活用して、生徒、保護者、教員の学校評価の観点を分析するとともに、生徒に対して「授業・学習指導に関する調査」、「学校・学級生活に関する調査」を追加して行い、それらを分析した結果を関係者に提供し、学校経営の改善に活用する。また、学校評議員には、これらの分析結果とともに学校経営改善の計画を示し、助言をいただく予定である。

●【神戸大学附属幼稚園】

本園の参観依頼や本園を活用した研修依頼を受け、希望される時期の保育を日常的に公開している。また、環太平洋乳幼児教育学会の日本支部事務局を神戸大学の教授が担っていることもあり、海外からの視察や研修をコロナ禍以前は毎年のように受け入れてきた。また、県内外の教育委員会からの依頼を受けて、数日から一週間程度の短期の内地留学も受け入れ、各地の次代を担う教員の研修の場としても機能している。

●【神戸大学附属小学校】

学年担任制、教科担任制など先進的な取組をしている。その成果を発表し、NITS 準大賞を受賞するとともに、全国の教育委員会対象の講習会でその成果を発信した。

●【奈良女子大学附属幼稚園】

働き方改革も見据え、「幼児教育におけるカリキュラム・マネジメントー学び続ける専門家コミュニティを構築するー」を研究テーマに、園内外の人とつながりコミュニティを構築することで、保育実践、研修、運営、会議など様々な幼児教育における営みをマネジメントし、保育者および保育の質の豊かさへつなげていくことを目指している。研究報告では「保育を開く」こと「保育を語る」ことで保育者および保育者の質向上につながることを示し、アンケートにより学外者からの意見を集約している。

●【鳥取大学附属特別支援学校】

研究として段階別教育内容表を作成している。他校からも活用されている。今年度も問い合わせがあった。本校の授業実践の書籍も多数あり、今年度末にも発行予定である。

●【島根大学教育学部附属義務教育学校】

本校では、令和3年度から変形勤務シフト制を導入している。管理職が用意した複数の勤務シフトから、各教員が自分の働き方にあったシフトを選択して勤務することで、時間外勤務の削減を図っている。この取組は学校評議員会で取り上げ、県や市の関係者にも紹介し、いただいた意見を参考に、次年度の勤務シフトの作成にあたっている。

●【広島大学附属小学校】

教科担任制による授業研究の成果をオンライン公開研究会、月刊誌「学校教育」の刊行を通して発信し集約している。

●【山口大学教育学部附属山口小学校】

管理職によるマネジメント会議や幼小中合同会議を行い、幼小中一貫教育の学校運営を継続的に行い、研究発表会等で周知を図っている。また、学校運営協議会についても幼小中合同で設置している。

●【山口大学教育学部附属特別支援学校】

本校には地域の特別支援教育のセンター的機能の一つとして、「幼児発達支援室」があり、就学前の園児の発達支援や保護者の相談、情報提供等を行っている。地域の幼稚園、保育園でのスクリーニングや園内会議への出席、教育委員会と合同での発達相談会への出席など、地域の園児の発達支援や進学支援に貢献している。

●【鳴門教育大学附属幼稚園】

学校運営面では、コロナ禍に対応し ICT を活用し、保育内容動画の作成や配信、行事のリポート実施、保護者への手紙を配信としペーパーレス化を行っている。毎年教育講演会・ペアレントセミナーを行い、園の保護者はもちろんのこと地域で子育てをする方も参加できるようになっている。また、附属学校4校園の共同研究である STEAM-IC 教育と連携・接続を進めている。

●【香川大学教育学部附属高松小学校】

カリキュラムの見直し（午前に3時間・午後に3時間）下校時刻を早める取組を県下でもいち早く取り組んだ。6時間授業、15時30分下校等。また ICT を活用した欠席連絡の取組や、ホームページを活用した手紙の配信、教員間の連絡等は地域の学校のモデルとなっている。

●【香川大学教育学部附属坂出小学校】

保護者の学校評価での意見を集約し、結果・成果についても公表している。また、学校評議員会を年2回開催し、学校運営について学校外関係者からの意見を集約・反映している。

●【愛媛大学教育学部附属学校園】

本学附属学校園では、働き方改革を推進している。ワーク・ライフ・バランスやワーク・エンゲイジメントについて研修を行い、業務改善に対する教職員の意識改革を促した。また、ICT活用により、会議や業務時間の短縮を図るとともに、業務量の平準化等についても配慮している。具体的には、学生補助員・部活動指導員の採用、会議の短縮化、完全下校時刻の徹底など、の取組により、教員の残業時間の短縮を図ることができた。

●【高知大学教育学部附属特別支援学校】

高等部作業学習の一つに、ホッコスイーツがあり、焼き菓子等の製造・販売、喫茶を行い、実際の接客や製造過程を実習として日常的に生の就業体験ができる、キャリア教育のモデルとなっている。また、研究校である強みを生かし、県内外の幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校から要請があれば積極的に講師を派遣し、指導助言を行い、センター的機能を発揮している。

●【福岡教育大学附属幼稚園】

豊かな自然環境と大学との連携を強みにして、「3つの種(あいさつの種・なかよしの種・がんばりの種)」というわかりやすいキーワードでめざす幼児像を具現化し、園運営に邁進している。また、年2回学校評議員会を開催し、学外者の意見を日々の園運営・保育実践に活かしている。地域連絡協議会では、本園の取組(夕涼み会におけるパラリンピックメダリストとの出会い)が掲載された新聞記事を紹介し、注目を集めた。

●【福岡教育大学附属福岡小学校】

本校では、HPやチラシ等を活用して、本校の研究内容にかかわる視察の受け入れや研究内容等の情報提供を以下のように実施している。

- ・視察受け入れ：令和2年度5件、令和3年度6件実施、令和4年度6件(予定含)
- ・情報提供：令和2年度3件、令和3年度5件実施、令和4年度5件(予定含)

依頼元としては、市町村の教育センター、校長研修会、全国の附属学校等、多岐にわたっている。

国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～Vol.3(令和2年12月)には、附属福岡小中学校から福岡市「つながるクラウド」に動画提供を行ったことが掲載されている。

●【福岡教育大学附属久留米中学校】

4学期制(呼称は4期制)を導入し、それに準じて全ての教育活動を見直し、各学期を約3か月間として、時間的に均等にした教育カリキュラムを設計して運用した。4学期制を導入したことで、これまでに得られた主な教育的効果と働き方改革に寄与する適正な労務管理について、日本教育大学協会研究集会にて報告した。

●【長崎大学教育学部附属中学校】

働き方改革としてまとめた本校の取組を冊子とし、それを県内の小中学校に配付し、参考になっている。

●【熊本大学教育学部附属特別支援学校】

コロナ禍においてこの2～3年実施できていないが、各学部において地域と密着した授業を展開してきた。小学部では、地域の高齢者施設で音楽会を開催したり、中学部では地域の方をゲストティーチャーに伝承遊びに取り組んだりした。高等部では、地域の方と一緒に、花苗植えや清掃活動を行ったり、職業の授業の一環でカフェに招いたり地域の方々にも協力を依頼しながら、様々な活動に取り組んできた。

●【大分大学教育学部附属幼稚園】

長時間労働を抑制するための働き方を検証し、週案の中に研究面も織り込み今まで複数枚あった紙面を一枚にまとめた。職員の負担を軽減しながらより実行力のある週案ができた。超勤手当支給に伴って、超勤と自己研鑽の仕事に質の違いを再認識することができた。

●【宮崎大学教育学部附属小学校】

勤務時間の管理について、勤怠管理システムを導入し職員の勤務時間の管理を行い、超過勤務時間が重ならないような意識づけを図っている。業間の時間の多くを費やしていた家庭学習の評価を発達の段階に応じて家庭に任せ、自律的な学びを促進する「附属ホームワークプラン」を構想・周知し、実践している。生み出した時間を質の高い授業準備や、個別指導が必要な児童への指導時間に充てるようにしている。

- **【鹿児島大学教育学部附属特別支援学校】**

地域の特別支援教育のセンター的機能を担う機関として、近隣の幼保園や小中学校の要請に応じて職員を派遣しコンサルテーションや研修などを行っている。職員を派遣した学校園には年度末にアンケートを依頼し、要請のあった内容に対する満足度等の評価を受け、翌年度の取組に生かすようにしている。

- **【琉球大学教育学部附属中学校】**

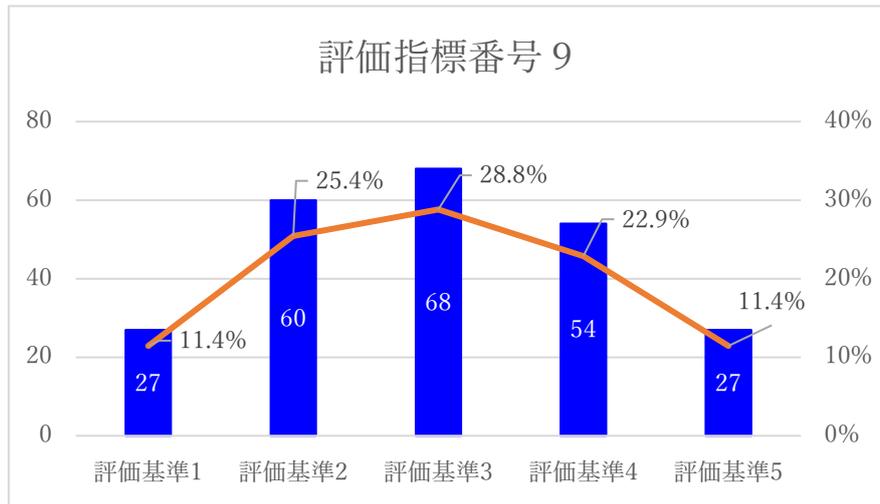
学校評議員として、教育委員会から助言をもらい、それを取組に生かしている。

## 評価大項目：現職教員の研修

### 評価小項目：現職教員の研修

評価指標番号9：地域の教育委員会（教育センターを含む）及び学校園における研修や授業研究会等に対して附属学校園による指導・助言体制が整備・機能している。

（想定される回答者：附属学校園）



#### 【評価基準】

- 1：附属学校園は、地域の教育委員会（教育センターを含む）及び学校園における研修や授業研究会等に対して、依頼を受けて講師派遣をしている。
- 2：附属学校園は、地域の教育委員会（教育センターを含む）及び学校園における研修や授業研究会等に対して、依頼を受けて講師派遣や研修内容について指導・助言をしている。
- 3：附属学校園は、地域の教育委員会（教育センターを含む）及び学校園における研修や授業研究会等に対して、依頼を受けて講師派遣をするとともに、恒常的な指導・助言する体制を構築している。
- 4：附属学校園は、地域の教育委員会（教育センターを含む）及び学校園における研修や授業研究会等に対して、依頼を受けて講師派遣をするとともに、教育委員会等と連携し、研修や研究会の企画運営を行っている。
- 5：附属学校園は、地域の教育委員会（教育センターを含む）及び学校園における研修や授業研究会等に対して、依頼を受けて講師派遣をするとともに、教育委員会等と連携し、研修や研究会の企画運営を行い、その成果検証を実施している。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学附属函館幼稚園】

地域の小中学校に教員を派遣し、幼小一貫教育や幼稚園教員や幼児教育の深化について講話を行っている。

●【北海道教育大学附属旭川小学校】

ICTを活用した授業改善や業務改善について、教育局（教育事務所）と連携して研修講座の内容を検討し、管内（行政区内）の全小中学校及び教育委員会職員を対象として研修を実施した。

●【北海道教育大学附属札幌中学校】

大学と教育委員会との連携協定に基づき、教師の経験に応じた研修に附属学校が積極的に関与するとともに、附属学校の授業見学や研修講座の講師招聘等に、教育委員会に附属学校を活用してもらう取組をしている。

●【北海道教育大学附属函館中学校】

渡島教育局主管で行われた公立高校学校運営研究会に、研究主任が講師として参加した。授業改善を進めるための手法として校内研修に焦点を当て、PDCA サイクルをもとに計画した本校の校内研究の説明を行った。また、情報化主任は、空知教育センター主催の「GIGA スクール対応講座」、苫小牧市教育研究所主催の「GIGA スクール ICT 活用」の2講座の講師として、本校での取組を生かしたICTの効率的な活用について説明を行った。

●【北海道教育大学附属釧路義務教育学校（後期課程）】

釧路教育局とは、積極的に要請に応えながら長年にわたり教員研修を支援している。ICTの活用の事例提供や初任者研修および中堅教員研修の授業研修実施校として貢献を続けている。

●【山形大学附属幼稚園】

県教育委員会（教育事務所）主催の研修会開催に向けて、幼児教育と小学校生活科・総合的な学習の時間のつながりについて研修することができるよう、指導主事と連携しながら、研修者のニーズにあった研修を行えるよう実施にむけた検討を行っている。

●【茨城大学教育学部附属小学校】

県教委教科部員会の事務局員として教科研修会の企画・運営に携わっている。また、県実施の学力診断テストの問題作成に関わり、県の学力向上に寄与している。

●【筑波大学附属視覚特別支援学校】

全国の視覚特別支援学校に対する点字指導、教科指導等の講師の派遣。盲ろう教育の実践発表と研修会を本学附属学校教育局と連携して企画。

●【筑波大学附属聴覚特別支援学校】

千葉県特別支援学校初任者研修、学校参観、模範授業提供。国立特別支援教育総合研究所、大学、特別支援学校（聴覚障害）等の研究会、研修会への講師派遣。

●【宇都宮大学共同教育学部附属小学校】

県教育委員会と連携して、学力向上推進リーダー研修を附属小学校を会場として実施している。研修では、附属小教員による授業を参観し、授業者を交えての授業研究会を行い、推進リーダーの資質向上を目指す取組を行っている。

●【群馬大学共同教育学部附属特別支援学校】

県教育委員会と連携し、県の初任者研修及び授業研究会での指導助言並びに中堅教諭研修での授業公開及び授業研究会の企画運営を行っている。その他、教育センターへ研修講師として本校教員の派遣も行っている。

●【埼玉大学教育学部附属幼稚園】

埼玉県教育委員会からの委嘱により、本園園長が埼玉県幼稚園等教育研究協議会運営委員を務めるとともに、副園長が指導者として、担任教員が研究発表者として、県内の幼稚園教諭の研修機会の充実に貢献している。また、園長は埼玉県国公立幼稚園・こども園長会の副会長を、副園長は埼玉県国公立幼稚園・こども園教育研究会の副会長を務め、それぞれの立場から県内の幼児教育の発展に貢献している。

●【埼玉大学教育学部附属小学校】

各教科等の県の研究会において運営及び指導的な立場で関わっている。また、そこから各委員会や各校への指導依頼をいただき、直接指導する機会をいただいている。

●【千葉大学教育学部附属幼稚園】

県の総合教育センターの年間の研修に協力している。研修内容や方法について検討しながら、毎年より良い研修となるように工夫している。初任研では公開保育と共に本園の教員がクラスごとに講師となり、参加者協議を行っている。また、公開研究会は県国公立・こども園協会との共催として、現職教員の学びの場を提供している。

●【千葉大学教育学部附属小学校】

教育委員会主催の研修講師の派遣のみならず、教育委員会の企画に指導助言をしている。令和3～4年には「千葉っ子学びの未来デザインシート」の在り方並びにその作成・評価に関わっている。

●【東京学芸大学附属世田谷小学校】

現在はコロナ感染という状況のため、十分な活動はできていないが、それ以前は、地域の教育委員会と連携し、現職研修会として、授業研究会・実技研修会等の研修会を開催してきた。

●【東京学芸大学附属大泉小学校】

本校のある地域の教育研究会に、本校の全教員は所属している。本校の年間計画でも、地域の研究会の日程に、本校教員が全員参加できるように、調整をしている。

●【東京学芸大学附属竹早小学校】

前述した文京区の3年次研修への講師派遣に加え、区が主催する道徳等の研修講座を請け負い、計画・運営を行っている。

●【東京学芸大学附属竹早中学校】

文京区教育委員会、岩手県二戸市教育委員会等からの要請に継続的に応じている。

●【横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校】

校長をはじめ、多くの教員が県内各地の研修会等の講師を務めている。また、県教委等の研修にも招聘され、研修の充実を共同で行っている。

●【山梨大学教育学部附属幼稚園】

教育センターと連携し、異校種の教員研修の受入を行っている。副園長が幼児教育センターの検討委員を務め、研修等について企画の段階から関わり、本園における新採用研修の実施、研修の講師、あるいは、幼児教育アドバイザーとして、園全体で地域に貢献してきている。

●【新潟大学附属幼稚園】

職員は近隣市や県の研修会で幼児教育研修会等の講師を務めている。また、近隣市の教育委員会と大学との共催により、往還型の合同研修会「遊びのとびら」を年3回開催している。行政区、公立・私立、幼児教育施設種の3つの垣根を越えた仲間が集まり、質の高い保育を目指して研修を行い、学んだことを自園に持ち帰り実践している。教育委員会担当者と事前事後に成果と課題を検討し次回に活かしている。

●【新潟大学附属新潟小学校】

当校は、「With 附属新潟小学校」をテーマにして、県内の各学校の講師依頼や学校視察などを積極的に引き受けている。今年度も毎月複数校からの視察依頼や、毎月複数回の地域の各学校での校内研修講師などの依頼がある。これらの依頼に対応していく中で、当校の取組の発信だけでなく、地域の学校の悩みや困り感を引き出し、共に解決していこうとする姿勢を重視し取り組んでいる。

●【新潟大学附属長岡小学校】

年々多くの職員を、地域の教育委員会や他校の授業研究会、研修会の指導者として派遣している。

●【新潟大学附属新潟中学校】

当校の教員が、市、県教育委員会と連携を図りながら、各教科・領域に関する研修の講師を務めたり、実践提供を行ったりしている。その際、指導主事との打ち合わせで、市や県において、特に実践の乏しい単元、題材等に関わり、積極的に実践の提供を行った。その成果をパワーポイント等にまとめ、市、県の研修センター等の講座に活用してもらい、附属学校としての使命を果たしてきた。

●【新潟大学附属長岡中学校】

附属長岡校園が主催する各種の研修会の企画運営だけでなく、県教育委員会が主催する初任者に対する研修、各市町村教育委員会が主催する若手教員向けの研修会、ICT 関係などの各公立校が主催する校内研修等に講師としての要請を受けて職員を派遣している。研修の運営及び派遣は年次をまたいで継続的に実施されているものが多く、その成果検証も実施されている。

●【富山大学教育学部附属小学校】

県の中堅教諭等資質向上研修のうち、6 年次研修生を受け入れている。また、校内研修活性化研修会の一環として授業を公開し、研修会のもちかたをともに学んでいる。

●【富山大学教育学部附属中学校】

富山県中学校教育研究会のすべての教科について教員を派遣し、県の研究計画の立案や研究活動の企画運営などに積極的に携わっている。先生方のニーズに応じた研究活動を行う一助となっている。

●【福井大学教育学部附属特別支援学校】

県内の特別支援教育関係の研究大会で実践報告したり、特別支援教育センターの研修講座等に講師や助言者として教員を派遣したりしている。

●【信州大学教育学部附属長野小学校】

長野県動物愛護センター主催の生き物飼育についての研修会に、トカラヤギを 1 年生の秋から飼育している担任が講師を務めた。出席者には現在生き物を飼育している先生方、これから飼おうかと考えている先生方が参加しており、新型コロナの影響でオンライン開催となったが、画面を通してアドバイスをしたり、現在飼育するトカラヤギと子ども達のかかわりを画像を通じて伝えることができた。

●【岐阜大学教育学部附属小中学校】

県の教育委員会主催の、授業をいて学ぶ講座を本校が受け持ち、小中学校の若手教員への実践を通して指導を行っている。

●【静岡大学教育学部附属浜松中学校】

浜松市教育センターと 6 年目研修を共催し、その内容については毎回協議している。

●【静岡大学教育学部附属島田中学校】

本校が在る島田市においては、教育学部との相互連携に関する協定書を締結しており、島田市の教員の研修会、島田市教育研究会、4・5 年次教員研修会において、指導助言だけでなく、企画立案においても参画している。

●【愛知教育大学附属幼稚園】

名古屋市教育委員会から園長が幼児教育アドバイザーとして委嘱され、教育課程や地域の幼保合同研修会で本園研究成果を生かし幼児教育の質の向上を目指している。また本園にて教育委員会主催の幼稚園教職経験者研修会を開催し、本園教員による保育参観・協議・講義を行い、その成果を検証している。

●【愛知教育大学附属名古屋小学校】

地域の学校等からの依頼を受けて、本校職員を学習会の講師として派遣している。地域学校づくり推進室の開催する研修会にも参加し、意見交流を行っている。地域の教育センターの異校種研修の受け入れを行い研修協力をしている。

●【愛知教育大学附属岡崎小学校】

本校の教員は、三河各地区から交流人事で編成されている。各地区の学校で行われる研究大会や現職研修の指導・助言を積極的に受け、附属学校で学んだり研究したりしたことを生かしている。

●【愛知教育大学附属名古屋中学校】

地域の教科研究会や大学において講師の依頼を受けており、研究の概要や成果の紹介、地域の教員との情報交換を行っている。

●【愛知教育大学附属岡崎中学校】

各教科の事務局を附属職員が務め、地域の先生方と連携を取りながら、三河の教員の研修の場の確保や研究会の運営を行っている。教科によっては、大学の教授を助言者として招き、教員の力量向上に努めている。また、各市町の研究会や学校の現職教育などの講師として、多くの教員が派遣されている。

●【三重大学教育学部附属幼稚園】

県教育委員会の依頼を受け、新規採用者教員の研修、中堅教員研修の講師として協力している。研修内容について前年度の受講者の感想、意見を活かし担当者と打ち合わせを行いながら改善を図っている。幼児教育関係の新規採用者だけでなく、他校種の新規採用者研修者も受け入れ、講師として幼児教育や幼小接続等について講義を行うとともに幼稚園の参観、グループワークの助言者として協力している。

●【三重大学教育学部附属小学校】

県教育委員会が実施する初任者研修では、本校を会場とし、授業を参観し、協議する機会を提供している。また、県教育委員会が実施している理科・体育・外国語等の研修では、授業を公開したり、教員を講師として派遣したりするなどしている。年度末には、県教育委員会の担当者と懇談する機会を持ち、成果や今後の方向性を話し合うなど連携を深めている。加えて、地域の公立小学校と連携し、ICTを活用した授業実践の研修を実施している。

●【滋賀大学教育学部附属中学校】

県総合教育センター（県教育委員会）の講師として登録され研修派遣するとともに、教員の自己啓発研修のいくつかを内容を含めて委任されている。また、市教育委員会の若手教員研修の一端を任されている。

●【大阪教育大学附属学校園】

地域の教育委員会と連携して、初任者や経験の浅い教員の授業力向上の研修を行っている。また、地域の学校から依頼を受けて、授業研究会等での指導助言も行っている。

●【大阪教育大学附属池田小学校】

本校の特色である、安全教育・危機管理については多くの教育委員会および学校から講師派遣の依頼があり、本校の経験や実践事例を発信し、参加者のアンケート等をもとに成果を検証している。

●【大阪教育大学附属高等学校（平野校舎）】

大阪府（スポーツ振興課）及びその他の地方自治体と連携し、毎年、各地域のスポーツクラブの運営並びに総合型地域スポーツクラブの人材育成に関わるアドバイザー（講師）を派遣し、指導助言を行っている。

●【神戸大学附属幼稚園】

平成13年から参加型研修をはじめ、20年を超えている。幼児教育施設の小規模化や勤務の複雑化が進む中、園内での研修が困難になってきている中、本園の保育を提供し、研修の場を提供している。様々な地域、幼児教育施設の保育者が、共に子どもの事実を見取り、事実を解釈して学びを捉え、学びの要因から有効な環境の構成や教師の援助を見出すことを参加された先生方が協同的におこなう研修である。毎回様々な年代の保育者から定員を超える応募があり、好評を得ている。これらのノウハウを兵庫県が主催する新規採用教員研修にも応用し、継続して本園を会場として研修をコーディネートして実施している。また、各地の教育委員会、幼児教育関係団体等から年間50件程度の講師派遣依頼を受け、各地域の教育研究推進や研修の充実に向けて寄与している。

●【島根大学教育学部附属幼稚園】

本園では、島根県教育委員会との連携のもと、年に4回行われる県の新規採用幼稚園教諭研修教育センター研修においてそのうちの1回を、毎年、附属幼稚園での研修の場を提供し、本園の教員が保育を公開するとともに、研修講師として新規採用者の指導にあっている。島根県は、幼稚園の規模が年々縮小しており、実際の保育の様子を見て研修を深めることが難しくなっており、貴重な研修の場として、大きな役割を担っている。

●【島根大学教育学部附属義務教育学校】

令和4年度、島根県教育委員会の重点施策の一つとして、理数教育の充実が掲げられている。県教育委員会からの依頼を受け、県の新規事業である「中学校数学理科教員リーダー育成研修」において、後期課程数学科教員が、研修の講師を務めた。リーダー教員として指名された受講者を対象に数学科の授業を公開し、実際の授業を通して、探究的な学びを実現するための具体的な在り方について助言を行った。

●【岡山大学教育学部附属幼稚園】

岡山県主催の法定研修（新規採用教員研修講座）、岡山っ子育成局主催の法定研修（就学前2年目研修講座）の一部を本園で実施している。就学前2年目研修講座については本年度より保育園も対象となり、公開保育、協議を行っている。また、今年度初めて保育公開を伴う研修の機会を本園から提案し、岡山市と連携した取組として、岡山っ子育成局主催の自主研修（ティースプーンサテライト）において、本年度実施できた。保育公開し、保育後は担任と具体的な保育場面について語る会を設け、好評であった。

●【岡山大学教育学部附属小学校】

年に1回、本校で岡山市の初任者研修会の講座を開催し、プログラミング教育等の内容について企画運営を行っている。

●【岡山大学教育学部附属中学校】

岡山県総合教育センターが主催する専門研修において、センターと連携しながら研修会の企画・運営を行っている。本年度は、音楽科においてSTEAM教育に関する公開授業を本校で行い、外部講師を招いての体験型の研修を行った。また、理科においては、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの研修について指導主事と連携しながら、研修の企画・運営を行っている。

●【広島大学附属小学校】

教科担任制を全学年に導入し、質の高い授業を行うとともに、それを可能にするための学校運営を行っている。

●【山口大学教育学部附属山口小学校】

授業アドバイザー授業により、公立学校の研修に参加し、公立学校が求める授業づくりや研修体制の構築に貢献している。また、これからの社会で求められる教育や子どもに必要な力や本校独自の取組についても周知を図った。

●【山口大学教育学部附属特別支援学校】

県内の校内研修や県教育委員会主催の特別支援教育研修会の講師として派遣依頼を受け、特別支援学級における教育課程編成や自立活動の指導の在り方等の指導・助言を行っている。また、やまぐち総合教育支援センター主催の法定研修（教職経験 6 年次研修における異校種等体験研修）の受け入れを行っている。

●【鳴門教育大学附属幼稚園】

園長は徳島県保育・幼児教育アドバイザーを委嘱しており、県が実施する法定研修等の計画、実施に携わっている。また、ICT 活用や幼小接続、科学的思考、非認知能力、STEAM 教育、に関する研修、また実地研修の依頼も学外からは多くあり、園環境や遊誘財研究を活用しながら研修内容を企画・実施している。

●【鳴門教育大学附属小学校】

公立小学校での研究授業時の指導助言を行ったり、研究会の運営を担っている。

●【鳴門教育大学附属特別支援学校】

発達支援センター機能として、教育委員会の研修会講師を引き受けている。今年度は、総合教育センターからの依頼を受け、小学校・中学校の特別支援学級担任者研修の講師も務めた。研修後のアンケートから、研修の評価を行い、成果検証をしている。

●【香川大学教育学部附属坂出小学校】

県教育委員会と連携し、中堅研修の授業の個別指導を行ったり、市教育委員会と連携し、若年教員研修として各教科の授業づくりワークショップを行ったりしている。

●【香川大学教育学部附属高松中学校】

県教育委員会主催の中堅教職員研修の 1 講座の担当をしており、各教科で指導案や模擬授業を通して中堅教職員の指導を行っている。

●【香川大学教育学部附属坂出中学校】

全教員が中学校教育研究会の中心的役割を担っている。県教委の中堅教諭等資質向上研修の一部の指導も行っている。公立学校教員とともに、ほぼ半日授業について語り合い、受講者からも好評を得ている。

●【愛媛大学教育学部附属学校園】

愛媛県教育委員会（愛媛県総合教育センター含む）や松山市教育委員会（松山市教育研修センター含む）とは、良好な連携協力関係が築かれている。県教委や市教委が開催する各種研修会（初任者研修、キャリアアップ研修、課題別研修等）には附属学校園教員が講師として派遣されたり、附属学校園で開催される研究大会等には、県教委、市教委から指導・助言者を派遣してもらったりしており、相互的な指導助言体制が築かれている。

●【高知大学教育学部附属幼稚園】

県教育センター主催のミドル保育者研修を附属幼稚園で行い、各市町村のミドル保育者の育成に向けた取組を行っている。また、育成されたミドル保育者を附属幼稚園の研究発表会の学年別研究協議の進行役として起用するなど、研修後の活躍する姿を県内外に発信している。

●【高知大学教育学部附属特別支援学校】

教育相談担当は地域の小学校、保育園等から非常に信頼され、継続的に指導・助言を行っている。本校の教育研究会は、教育センター、県特別支援教育課と協賛し、講師には大学教員と共に県特別支援教育課指導主事を講師に迎え連携をして取り組んでいる。

●【福岡教育大学附属幼稚園】

大学の幼児教育選修課程講座において、本園主幹教諭（園内教頭）が指導助言を行い、受講学生から「具体的でわかりやすい」と好評を博している。また、宗像市教育委員会主催の教職員研修「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研修会」では、園長が企画運営について意見具申し、本園の保育公開のみならず、効果的な分科会運営においても貢献している。本年度から本園養護教諭を宗像市養護教諭部会研修会に参加させ、健康教育の視点から幼小接続の在り方を探る研修をリードしている。

●【福岡教育大学附属福岡小学校】

本校では、地域からの要請に応え、本校教員を教育行政機関や各学校に以下のように講師派遣を実施している。

- ・令和2年度 44件（行政機関2件、教育研究所等3件、学校39件）
- ・令和3年度 112件（行政機関13件、教育研究所等12件、学校87件）
- ・令和4年度 143件（行政機関5件、教育研究所等13件、学校125件）

実施にあたっては、依頼先のニーズを十分に聴き取ったうえで派遣するとともに、実施後には事後アンケートを依頼し、校内において評価・改善する場を位置付けている。

●【福岡教育大学附属小倉小学校】

北九州教育事務所主催の教科リーダー育成講座において、国語科、算数科、社会科、外国語科、道徳科のモデル授業を公開し、協議会では受講者の授業づくりなどに関する相談に応じた。また、北九州市立教育センター主催の市内の6年次を迎える先生方を対象とした中堅教諭資質向上研修において、本校教員は授業動画の提供と当日の講師を務めた。さらに、公立小学校、教科等サークルの求めに応じ、ニーズに応じた形の講師派遣を積極的に行っている。

●【福岡教育大学附属久留米小学校】

本県の中核都市である久留米市の若年教員研修に協力して、授業公開及び研究協議会を開催したり、地域の教科等研究会と連携した授業研究会を企画運営したりしている。また、地域の教育委員会や学校への講師派遣は年間100回以上に及び、授業についての指導助言をしたり、研究の進め方についての助言をしたりしている。

●【福岡教育大学附属小倉中学校】

福岡県教育委員会義務教育課主催の「授業構想力・評価力を高める授業実践講座」に国語・数学・社会科の教員を指導者として派遣している。また、北九州教育事務所主催の「教科リーダー育成講座」に国語・数学・社会・理科・音楽科の教員がモデル授業を実施し、受講者と共に授業の協議会を行った。また、北九州・筑豊・京築教育事務所管内の中学校、北九州市内の中学校に本校職員を派遣し、授業づくりやICT機器の活用、校内研修の進め方等の指導助言を行っている。

●【佐賀大学教育学部附属特別支援学校】

地域における特別支援教育のセンター的役割を担っており、特別支援コーディネータを訪問指導や職員研修講師として派遣している。

●【大分大学教育学部附属幼稚園】

園長が、幼児教育センター主催の大分県幼児教育推進協議会の役員となっており、小学校との架け橋プログラムを全県で進めていくことに主体的に関わっている。附属幼小間での取組を一層進め、地域の幼小の架け橋となるよう取組を重ねている。

●【大分大学教育学部附属中学校】

大分県教育委員会が情報発信している「大分県教育庁チャンネル」において、教師の方々の参考となるよう本校の授業実践（教科や教科道徳、総合的な学習の時間等）や授業者のコメント等を撮影し、情報提供している。

●【宮崎大学教育学部附属小学校】

市教委・県教委の主催する授業研究会に授業を提供し、事後の研究会等に助言者として加わり、参加者の課題解決に向けた取組に寄与している。公立学校の研究会へ招聘された場合は、授業実践の紹介やその校の研究推進に助言等を加えている。大学が企画した研修会に授業を提案し、参加者とともに課題解決を図る取組を続けている。

●【鹿児島大学教育学部附属幼稚園】

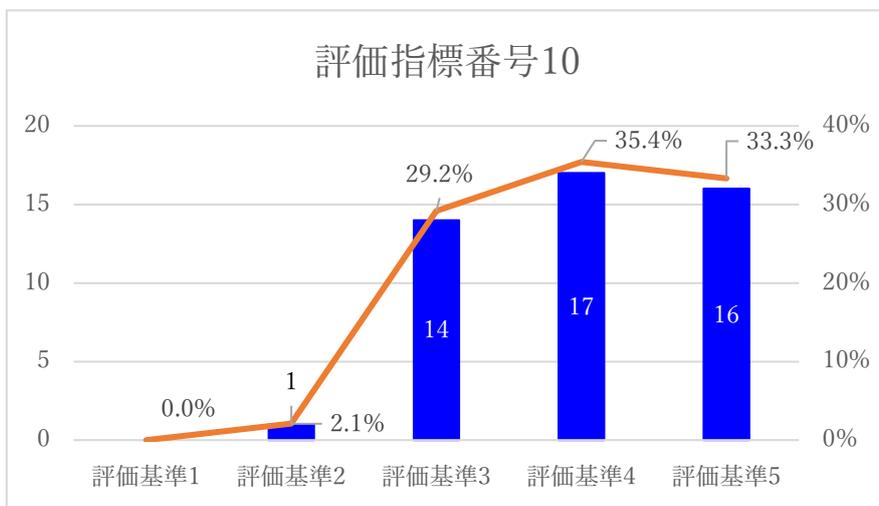
県教委が主催する短期研修等に講師を派遣している。また、幼稚園教諭の初任者研修において講師を務めたり、初任者研修を協同開催したりしている。

●【名称非公開】

- ① 毎年実施している教育研究発表会が県教育センターの初任者研修や中堅教諭等資質向上研修などに位置付けられている。県教育センターの研修講座の担当、県内の公立学校との共同研究や研修会への講師派遣など、県教育委員会や市町村教育委員会等と連携し、授業研究を進めている。
- ② 本校の教育研究発表会が県教育センターの初任者研修や中堅教諭等資質向上研修などに位置付けられている。

評価指標番号10：教育委員会等との人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を効果的に行い、現職教員の資質向上に貢献している。

（想定される回答者：大学・学部）



【評価基準】

- 1：大学・学部は、教育委員会等と人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を行っていない。
- 2：大学・学部は、教育委員会等と人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を当該年度の協議に基づき行っている。
- 3：大学・学部は、教育委員会等と協定等に基づき、人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を計画的に行っている。
- 4：大学・学部は、教育委員会等と協定等に基づき、多様な人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を計画的に行っており、受入教員に対して、指導的な役割を果たせる専門性や力量を身に付けさせるよう努めている。
- 5：大学・学部は、教育委員会等と協定等に基づき、多様な人事交流や派遣教員の受入（短期を含む）を計画的に行っており、受入教員に対して、指導的な役割を果たせる専門性や力量を身に付ける体制を整備している。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学】

教育委員会から交流人事により、本学の附属学校園に採用した教員の教育力向上を図るとともに、人事交流終了後における北海道の学校教育での活躍を期待する人材を育成するため、教員に、授業料等を免除した上で、本学大学院の授業を履修させる方法により行う研修（北海道教育大学附属学校教員大学院研修）制度を設けている。

●【秋田大学教育文化学部】

教職大学院では教育委員会等と協定等に基づき、積極的な人事交流を計画的に実施している。また教職実践専攻には「学校マネジメントコース」が設置されており、これからの学校運営や改革を力強く推進できる、組織マネジメント力を備えたスクールリーダーを養成するなど、指導的な役割を果たせる専門性や力量を身に付ける体制を整備している。

●【山形大学】

大学と県教育委員会との協定に基づいて附属学校園の教員、教職大学院の実務家教員の人事交流を円滑に行っている。平成21年度に附属学校運営部を設置してからは、附属学校園の校長も県教育委員会からの交流人事となっている。また、短期を含む派遣教員の受け入れを計画的に行っている。受入教員に対しては、大学教員から研究指導を行ったり大学教員と共同で研究を行ったりして、指導的な役割を果たせる専門性が修得できるように努めている。

●【茨城大学教育学部】

附属担当副学部長が附属学校の管理職とともに県との人事調整会議に出席し、交流人事について調整している。また受け入れ教員に対しては年度ごとに各附属学校で力量形成のために様々な役割を経験させている。

●【宇都宮大学共同教育学部】

毎年、県派遣の教員を10名程度受け入れ、県内の連携協力している小中学校において、計画的に実践を伴う教育及び研究を実施している。その結果をもとに、全体でリフレクションを行い、指導力向上に活かしている。

●【群馬大学共同教育学部】

県教育委員会学校人事課および各市町村教育委員会と連携を図りながら人事交流を進めている。さらに、県教育委員会の初任者研修や法定研修の受け入れなどを実施し連携を図っている。

●【埼玉大学教育学部】

埼玉県さいたま市との人事交流による大学教員採用が行われている。また、長期研修制度により現職教員を継続的に受け入れている。

●【千葉大学教育学部】

毎年、協定に基づき県及び市教育委員会より長期研修生を多数受け入れ、学部教員との共同研究を実施している。その成果は、広く公表されるとともに、地域の授業や教育問題等の改善に役立てられている。

●【横浜国立大学教育学部】

県内の全教育委員会代表者が参加する連携運営協議会や附属学校との連携協議会等、派遣元教育委員会と本学の附属学校担当者、附属学校長、副校長らが綿密に連携を取り、優秀な教員を附属に派遣していただき、数年後、エリアリーダーとして派遣元教育委員会に戻すというルートを確認しつつある。

●【新潟大学】

新潟市教育委員会及び新潟県教育委員会との人事交流の中で、校長以下のすべての教諭は公立学校園から附属学校園に着任している。そして地域のモデル校をミッションとする附属学校園が推進する高度で先進的な教育研究活動を通して、高い専門性と力量を形成した後、再び公立学校園に戻り、そこで指導的な役割を果たしている。

●【富山大学教育学部】

教育委員会との連携協定に従って、毎年、現職教員の内地留学を受け入れている。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類】

附属学校園において石川県教員から多くの交流教員を迎えている（割合は学校園によって変化する）。交流教員は附属学校園において最新の教育方法を身につけたり、新しい教育方法を試し、その知見を県や市に還元している。

●【福井大学教育学部】

本学教職大学院では、福井県教育委員会の他、長野県教育委員会等と「協定」を結び、優れた学校教員の派遣を受け、大学教員として短期的に雇用している。こうした優れた学校教員の大学教員としての素養を高めるために、教職大学院のカリキュラムにおいて、講義を「共同担当」とするのではなく「協働担当」とし、既に大学教員となっている「派遣教員」と協働しながら講義を行うこと等を通して、指導的な役割を担う力量形成を行っている。

●【信州大学教育学部】

附属学校園各校での研修や研究において、附属内のみならず、学部教員と連携した取組を行い、その成果を学部紀要や学会等で積極的に発表をしている。

●【愛知教育大学】

附属学校園について、大学は教育委員会との人事交流を、一部の校長を除き行っている。また、毎年、附属学校園で研究発表会を実施し、その成果を市町村に公開している。近年はオンラインでの公開も行っている。岡崎地区においては、三河教育研究会の事務局となって、附属学校の教員を各市町村の講師として派遣している。附属学校での教員経験者は、その後、管理職に就くステップとなっている。

●【三重大学教育学部】

近年通常学級に在籍する、特別な支援を必要とする子どもたちが増加しており、通常学級担任の専門性の向上や、通級指導教室担当者を養成することが喫緊の課題となっている。また不登校児童生徒も急増しており、その対応に苦慮しているのが現状である。このような状況を鑑み、三重大学と三重県教育委員会および津市教育委員会は共同で、「不登校支援および通級指導教室担当者養成講座」として、多様なテーマや内容を含むを12回シリーズの研修を設定した。受講者は、県教育委員会および各市町教育委員会の推薦を受けた教員と附属学校園に所属する教員である。令和4年度の受講者は50名を超え、最終回では5人グループに大学の専門家が入り、事例検討会を実施する。

●【滋賀大学教育学部】

県との交流人事で赴任している副校長を教職大学院の実務家にむかえ、研究・教育の一翼を担ってもらっている。附属学校園での実習や研究のための実践では、附属学校園の教諭とも連携して実施している。附属学校園の教員を内地研修として大学院に進学させている。ダブルメジャーに関わる今後のデータサイエンス教育・研究の広がりが期待される。

●【京都教育大学】

本学では、教員の資質・向上を図るための大学院研修制度を設けている。大学院研修制度は人事交流教員も対象としており、今までに多数の人事交流教員が制度を活用している。

＊大学院研修制度とは、勤務場所を離れてその職務と密接な関連のある分野について長期にわたる研修に専念させ、附属学校の教員の資質・向上を図ることを目的としている。附属学校教員は、現職のまま勤務場所を離れて、本学の大学院に入学し、1年間研修に専念することができる制度である。

●【大阪教育大学】

「大阪教育大学附属学校園内地研修実施細則」を定め、教育委員会等との協定に基づく人事交流により採用した教員を含む附属学校園教員の資質・能力向上を目的とした教職大学院への内地研修制度を設けている。

●【兵庫教育大学】

本学附属学校の教員は、人事交流協定に基づき、原則 3 年間の人事交流という形で自治体から派遣された教員が主となっている。毎年、派遣元の自治体と情報交換を行い、自治体の意向も踏まえ、将来の管理職や指導主事等の育成にも努めている。また、校園長の推薦、派遣元自治体の了承のもと、附属学校に勤務しながら、無料で本学大学院に進学することや、特別支援学校免許取得のための講習を無料で受講することも可能となっている。

●【奈良教育大学】

附属中学校では、県との人事交流協定に基づいて毎年複数の教科で県から教員を受け入れており、現在 7 名の交流教員が在籍している。また、交流教員には公開研究会などにおいて、積極的に公開授業を担当させ本校での研究成果を高めるよう指導するとともに、ESD ティーチャーの認証を取らせるための認証プログラムを積極的に受講させるようにしている。附属小学校では、県との人事交流協定に基づいて複数の教員を県から受け入れており、現在 4 名の交流教員が在籍している。交流教員は教育研究会において、本校の研究を踏まえて公開授業や研究授業を行い、本校の成果の発信に貢献するとともに、自己の指導力向上に努めている。また、本学が実施している ESD ティーチャープログラムを積極的に受講して、ESD ティーチャーの資格を取得できるよう努めている。

●【鳥取大学】

鳥取県教育委員会との協定に基づき交流人事を計画的に実施し、附属学校部在職期間中に研究面での力量を伸ばし、公立校に戻った際には、誰もが研究主任を担当できる力を身につけさせるように努めている。

●【岡山大学教育学部】

大学（教職大学院・教師教育開発センターを含む）・学部、NITS 岡山大学センター、地域の教育委員会（教育センターや教育事務所を含む）等との連携協力のもと、学校園における研修や授業研究会等に対して、依頼を受けて講師派遣や研修内容について指導・助言をしている。

●【山口大学教育学部】

山口県教育委員会との人事交流によって、学部・教職大学院担当として 3 名（原則 3 年間）を派遣頂いており、教育指導のみならず附属学部共同研究を含め実践研究も進めながら指導的な役割を果たせる専門性や力量形成の体制を整備している。また、1 年間・半年派遣の長期研修教員や教育研修所所属の長期研修教員に対して実践研究の指導・サポート体制を構築している。

●【香川大学教育学部】

附属学校の教員は、すべて県教委との人事交流であり、協定に基づいて実施している。県教委・市町教委・教育センターの指導主事の多くのシェアを、附属学校経験者が占めている。

●【愛媛大学教育学部】

愛媛大学教育学部・教育学研究科では、愛媛県教育委員会との交流人事で、2 名の教員が恒常的に派遣されている。さらに、県内の公立学校で顕著な教育実績をあげている教員を、特定教授として 5 名採用している。また、これらの教員には、積極的に論文の執筆や科学研究費補助金の申請をしてもらうなど、得意分野の専門性の向上を図っている。さらに派遣期間が終了し、教育現場に復帰する際には、大学での教育研究活動の経験を活かした管理職として活躍してもらっている。

●【福岡教育大学】

教育委員会との協定等に基づく人事交流に加えて、長期派遣研修員制度による受入を長年にわたって実施している。これにより、地域と大学が協働しながら、現職教員の専門性や力量をより高めるような体制が確立されており、地域からも高い評価を得ている。

●【長崎大学教育学部】

全ての附属学校園で、校園長を含め交流人事を行っている。各校園では、長崎県こども政策局、県教育委員会や教育センターと連携して短期の教員研修を受け入れている。また附属小学校を中心に県内の教育委員会や学校において、複式教育等の出前師範授業・指導等を行っている。さらに、教職大学院の管理職養成コースの学生を、附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校に各3日間受け入れ、学校経営の先進例を教授している。

●【大分大学教育学部】

大分県教育委員会と大分大学との人事交流に関する協定書が教育長と学長の間で締結されている。そして、この協定に基づいて覚書が交わされ、附属学校園教員の正規雇用の教員の人事交流に関して必要な事項が定められている。附属学校園では、附属学校園連携統括長、学部事務長、各附属校園長をメンバーとして、大分県教育委員会との「人事連絡協議会」を設置し、毎年2回（5月と11月）の協議会を開催している。協議会では、県教育委員会人事課による附属四校園の状況視察の後、人事異動についての状況説明および次年度の見通しについて協議を行うことにより、非常に円滑な人事交流がなされている。また、県教育委員会との「連携協力推進協議会」の附属学校部会において設定された「重点課題」に基づく研究を各附属校園が実施することにより、県のモデル校園としての役割を果たすとともに、県の施策の一步先を行く取組を行うことで、人材育成の目的も果たしている。人材育成により優れた中堅教員を育成することができているために、人事異動により、県や市の指導主事待遇で転出する教員が増加している。

●【名称非公開】

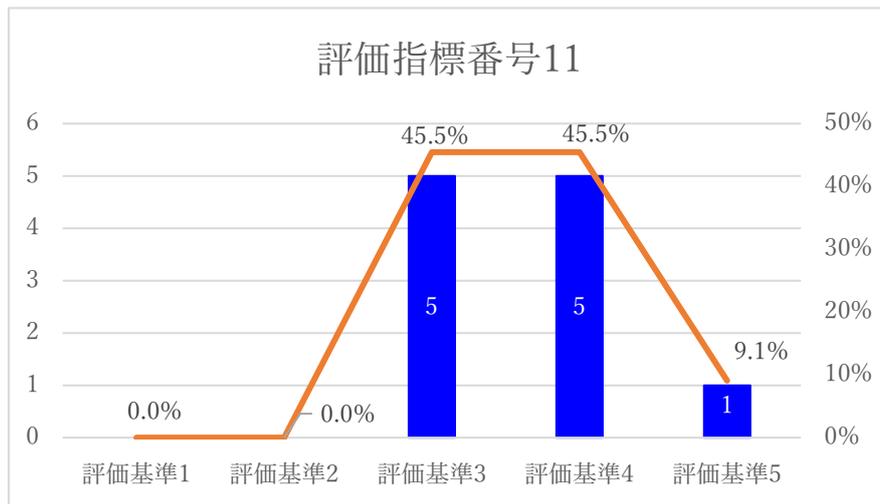
- ① 主に教職大学院が担当し、受け入れている現職教員に対して学校運営能力の向上を目指して指導を行っている。
- ② 県教育委員会から教職大学院への交流教員の派遣をいただき、実践的な院生指導を行うとともに、派遣教員自身の自己研鑽を行っている。

評価大項目：同一学校種複数校設置【同一学校種を複数校設置している大学のみ回答】

評価小項目：適正規模

評価指標番号11：大学・学部が、同一校種に複数の附属学校を設置している場合、その役割や課題にふさわしい規模で配置されている。

(想定される回答者：大学・学部) ※対象校数：13



【評価基準】

- 1：大学・学部は、各校園の適正規模についての検証は**未検討**である。
- 2：大学・学部は、各校園それぞれの役割、特色を踏まえ、**現状の規模**の検証・評価について**具体的に検討**している。
- 3：大学・学部は、各校園それぞれの役割、特色を踏まえ、**現状の規模**の検証・評価を行っている。
- 4：大学・学部は、各校園それぞれの役割、特色を踏まえ、**現状の規模**の検証・評価を行い、**将来的な計画を策定**している。
- 5：大学・学部は、各校園それぞれの役割、特色を踏まえ、**現状の規模**の検証・評価を行い、**将来的な計画を策定し、対外的に公表・説明**している。

具体的好事例の内容：

●【横浜国立大学教育学部】

第三者委員による附属学校部委員会を開催し、継続的に附属学校の規模等を検討していただいている。

●【新潟大学】

新潟大学は同一校種に複数の附属学校を設置し、幼・小・中一貫教育（長岡地区）とダイバーシティ教育（新潟地区）といったそれぞれ特色をもった学校教育を推進し、地域のモデル校を務めてきている。ここに、一学年190名の教育学部生の教育実習（3年次4週間連続）や観察参加実習（2年次）、及び教職大学院の実習校として、特色ある教育を学ぶ場としての役割も果たしている。また、総合大学として他学部との共同研究も推進している。受け入れる学生数や多様なニーズに応えるためにもこの規模の維持が必要である。

●【信州大学教育学部】

各校の特色として、松本地区は幼小中一貫教育に取り組み、文部科学省の研究開発校に採択され、研究を進めている。長野地区は小中特の3校でキャリア教育×STEAM教育に取り組み、文部科学省の研究開発校申請の準備をしている。これらの役割や取組を学長・理事ら経営層にも示している。

●【愛知教育大学】

学内の専門委員会において、5年以上先まで見通した計画を策定している。

●【山口大学教育学部】

附属山口地区では、施設分離型の幼小中一貫教育、附属光地区では施設一体型の小中一貫教育の役割・特色を持ち、中期的な計画を策定し遂行している。

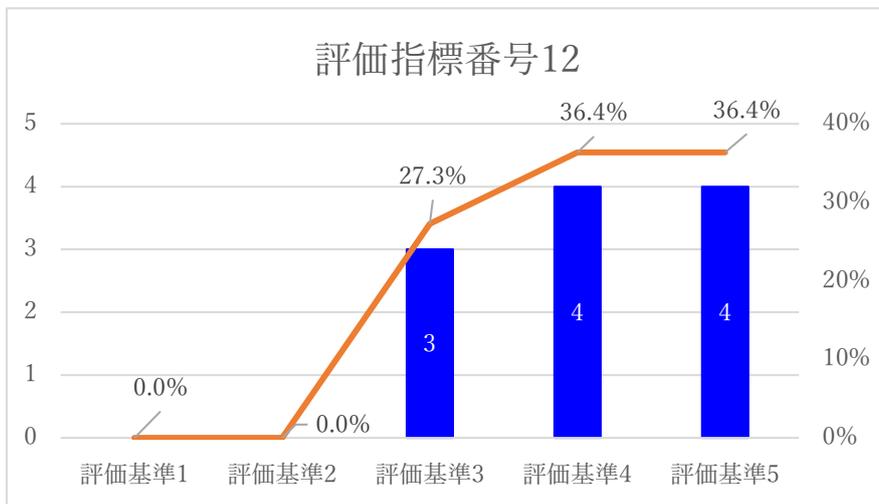
●【福岡教育大学】

第3期中期目標・中期計画では、福岡地区は小学校カリキュラム開発、インクルーシブ教育、グローバル化、小倉地区は小中連携教育、久留米地区はICT教育に研究の重点を置いて取り組み、一定の成果を地域に発信することができた。成果と課題を検証し、さらに地域貢献を目指した第4期の目標・計画を策定している。

評価小項目：有機的なつながり

評価指標番号12：大学・学部は各附属学校園の教育・研究が有機的なつながりを持つとともに、附属学校園全体の教育研究の質が向上するように努めている。

(想定される回答者：大学・学部) ※対象校数：13



【評価基準】

- 1：大学・学部において、各学校園の教育・研究の有機的なつながりを構築する取組みは行われていない。
- 2：大学・学部において、各学校園それぞれが、教育・研究に有機的なつながりを持たせる取組みを部分的に行っている。
- 3：大学・学部において、各地区毎に、学校園の教育・研究に有機的なつながりを持たせる取組みを行っている。
- 4：大学・学部において、全学校園の教育・研究に有機的なつながりを持たせる取組みを行っている。
- 5：大学・学部において、全学校園の教育・研究に有機的なつながりを持たせる取組みを行っており、成果を発信している。

具体的好事例の内容：

●【**横浜国立大学教育学部**】

教科教育学の研究者が各附属の実践研究の質向上に向けた取組を研究として発信するなど、大学教員と附属教員との互恵的な関係がある。

●【**新潟大学**】

附属学校部において附属学校園会議（6 校園長参加）を年 7 回開催し、全 6 校園の教育・研究情報を共有している。また、全校園を「校務支援システム」で結び、各校園の研究会・研修会開催情報の共有や重要連絡の共有を行っている。さらに、附属学校部主催の「校園情報管理研修会」「校園生徒指導研修会」等を開催し、各校園の情報共有及び合同研修を行っている。今後は、「学習 e ポータル」導入に関連させ、「学校教育情報化研修会」を開催する予定である。

●【**信州大学教育学部**】

GIGA スクール構想における ICT 活用として、教育実習における ICT 活用の授業を必修化すると共に、学部と全附属学校園とで教育実習におけるクラウドの活用をテーマに取り組み、その成果を一般書籍としてまとめ、R4 年度末刊行できるように執筆・編集を進めている。

●【**愛知教育大学**】

大学の教員が附属学校園の教員と共同研究を行い、その成果は、各種研究会で発表したり、出版物の刊行や学会誌などへの掲載をしたりしている。

●【**大阪教育大学**】

3 地区 5 校園種を持つ本学では、校種と地区の特色と連携を踏まえた縦横軸による「附属学校園スクールポリシー」を完成させ、ウェブページで公開している。3 つのポリシー（グラデュエーションポリシー（GP）、カリキュラムポリシー（CP）及びアドミッションポリシー（AP）は並列ではなく、AP→CP→GP と続く意味学校の品質保証のようなものであり、文部科学省、学内のみならず、すべてのステークホルダーに向けて発信するものとなっている。

●【**山口大学教育学部**】

全学校園の教育・研究に有機的なつながりをもたせるために、学部附属共同研究を同一学校種や複数の学校園のメンバーで実施したり、教科ごとの研究会等を実施している。

●【**香川大学教育学部**】

毎年年度末に、学部・附属学校園合同研究集会を開催しており、附属の成果を学部に取り込むとともに、附属間の教育・研究の有機的つながりを促している。

●【**福岡教育大学**】

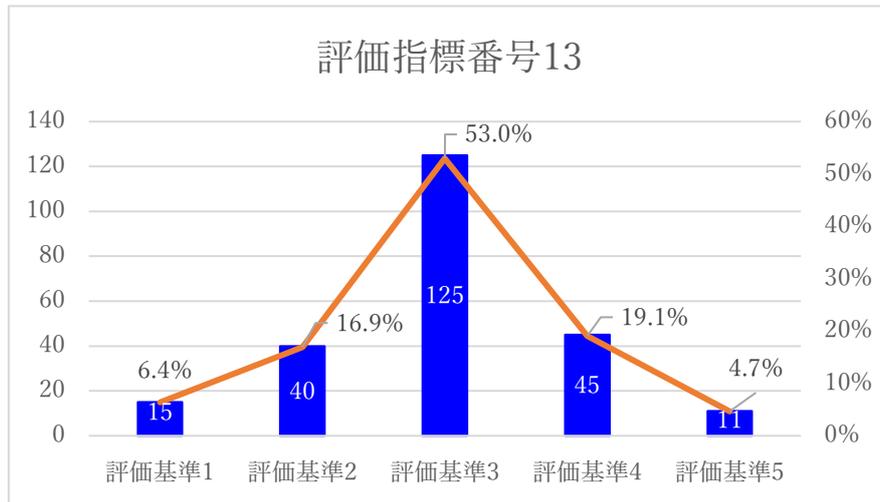
大学と附属学校園の共同研究を推進するため、大学教員と各校園教員で構成される幼児教育研究部会、初等教育研究部会、中等教育研究部会、特別支援教育研究部会、栄養教諭および養護教諭研究部会を組織的に設置している。その成果は、各附属学校園の教育研究発表会等で公開発表されている。

## 評価大項目：入学者選抜

### 評価小項目：入学者選抜

評価指標番号13：附属学校園は、地域の教育課題、社会的ニーズを踏まえた研究と連動した入学者選抜を行っている。

(想定される回答者：附属学校園)



#### 【評価基準】

- 1：附属学校園は、地域の教育課題や社会的ニーズを踏まえた選抜方法の評価や見直しは未検討である。
- 2：附属学校園は、地域の教育課題や社会的ニーズを踏まえた選抜方法の評価や見直しについて検討している。
- 3：附属学校園は、地域の教育課題や社会的ニーズを踏まえた選抜方法の評価や見直しを具体的に実施している。
- 4：附属学校園は、地域の教育課題や社会的ニーズを踏まえた附属学校園の選抜方法の評価や見直しを具体的に実施・検証している。
- 5：附属学校園は、地域の教育課題や社会的ニーズを踏まえた附属学校園の選抜方法の評価や見直しを具体的に実施・検証しており、教育研究成果につなげている。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学附属函館幼稚園】

共働き家庭の増加に伴い、子育て支援の一環として預かり保育やスマイル講座などを行い、成果を検証・改善し、次年度以降の入園者募集に繋げている。

●【北海道教育大学附属函館小学校】

特別な配慮が必要な児童に対する検査内容を作成している。これまで対面で実施していた合格発表等を HP 上にて公開することで、コロナ対応や働き方改革につながった。

●【北海道教育大学附属函館中学校】

中学校として通常の教育のほか、研究推進校として教育上の多様な試みを行うことや教員免許の取得を目指す学生が教育実習生として生徒の教育に参加するなど附属学校の特性を持っていることを踏まえた選抜を行っている。昨年度からは、選抜の「面接」にも重点を置いて取り組んでいる。面接を別日に設定し、児童が自ら PR する場面を設け、自分自身の良さをプレゼンテーションしてもらう形を取り入れている。

●【北海道教育大学附属旭川中学校】

面接として、中学校での学習に対する意欲などの非認知的能力や、いじめの問題に関する意識や自分自身の考えを入選時に確認・把握するようにしている。

●【山形大学附属中学校】

入試問題作成や連絡入学に関する手続き等の検討を重ね、制度等を更新をしている。

●【千葉大学教育学部附属中学校】

教科を中心としていた入試を見直し、表現力・判断力・表現力を高め探究的に学ぶ教育を進める学校の方針に適合する生徒を受け入れられるようにするため、プレゼンテーション、集団討論、総合問題、作文による入試を導入し、入学した生徒の状況について評価検討を進めている。

●【東京学芸大学附属幼稚園（竹早園舎）】

ネット出願を導入し、志願者の負担軽減に努めている。

●【東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）】

大学専門教員と連携しながら、本園の施設設備及び教職員体制と集団の中での育ちの保証を総合的に考慮したうえで、療育機関や医療のフォローを受けている、心身の障害のある幼児や個別の支援が必要と思われる幼児を受け入れている。原則として、選考の優先基準は抽選としている。地域一般の幼児集団となるように、さまざまな幼児がともに育ちあうように受け入れている。通園区域について、通園方法やニーズに対応して随時検討・変更を図っている。

●【東京学芸大学附属小金井小学校】

社会的ニーズを勘案しつつ、それに沿った内容となるよう、学校側の人もふまえながら工夫して実施している。その年度の取組でた課題等を全体で共有し、次年度に生かしてミスをなくして改善していくといったフィードバックの手続きがなされている。

●【東京学芸大学附属大泉小学校】

本校では、志願者の住所が受験時には通学区域外であっても、合格すれば、通学区域内に必ず転居することを確約できる方は、受験できるようなシステムをとっている。

●【東京学芸大学附属竹早小学校】

昨年度よりネット出願に切り替え、より多くの志願者が出願できる体制を整備している。

●【東京学芸大学附属竹早中学校】

自治体からの特別進学制度を設けている。

●【東京学芸大学附属高等学校】

マーケティングにより、中学生・保護者が本校に求めるものが、探究活動や課外活動を通じた生きる力の育成と共に、進路希望の実現であることを把握した。そのためのアドミッションポリシーとして、中学校までの基礎基本のしっかりとした定着をもとに柔軟な発想で知的好奇心を発揮できるかを確認する入試問題を工夫した。

●【東京学芸大学附属国際中等教育学校】

アドミッションポリシーとして選抜の基本方針や、審査・検査の趣旨を明確に示すとともに、学校ウェブサイトで検査問題を公開している。校内分掌として入学検査検討委員会、入学選抜・問題作成委員会を組織し、出題方法等において検討し、評価・見直しに生かしている。

●【お茶の水女子大学附属中学校】

次期学習指導要領等がめざす資質・能力を踏まえて、2021年度より新しい入学検定に変更した。その検定方法の評価・見直しを行い、よりよい入試のあり方の検討を続けている。

●【横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校】

出願手続きにwebシステムを用いたり、選考資料の電子化を図ったりするなど、迅速かつ正確な業務に努めている。また、コロナ感染等で選考機会を失わないよう、救済措置の日程を新たに設けている。

●【横浜国立大学教育学部附属特別支援学校】

新型コロナウイルス感染症対策から追検査を実施したり、グループ分けをして展開するなどした。

●【新潟大学附属新潟中学校】

当校では、選抜検査において、受検者に筆記試験と面接試験を課している。知識・技能を問うだけでなく、新学習指導要領や国際的な経済協力開発機構 OECD が示す社会の共通のゴールであるウェルビーイングの考え方を踏まえるとともに、当校の生徒の実態から成果と課題を分析、把握したうえで、選抜したい生徒の資質・能力を明確にし、作問している。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校】

入学選考委員会を設置し、定期的に見直しを図り改善につなげている。検査と抽選を併用し、本校が目指す資質能力をもった多様な児童を受け入れている。

●【福井大学教育学部附属幼稚園】

令和4年度入試より、「親子支援枠」を設置し、若干名の募集を開始している。「インクルーシブ教育」実現に向けて、行動面などで気がかりさを感じている親子に対して、入園前から観察と相談の機会を設定して個の特性を判断・共有し、より丁寧な関わりがもてるように配慮している。入園後も大学研究者と共に継続的な観察と支援を行っている。

●【福井大学教育学部附属義務教育学校】

令和4年度入試より、前期課程では「親子支援枠（ギフト型）」、後期課程では「ギフト型入試枠」を設置し、若干名の募集を開始している。多様化社会が到来しているが、優れた特性を秘める一方、対人関係に苦手意識を感じて悩んでいる子供や保護者も存在する。「インクルーシブ教育」実現に向けて、個の特性を保護者と共有したうえで、自己有用感を持てるような支援を継続していく。大学研究者と共に継続的な観察と支援を行っている。

●【福井大学教育学部附属特別支援学校】

知的障害児の特別支援学校としての教育実践研究を積み、その成果を発信するために、本校の研究対象の選抜方法については、全職員で評価、見直しをしながら実施検証している。

●【信州大学教育学部附属長野中学校】

国算社理の成績ばかりではなく、集団面接でのコミュニケーション能力並びに協調性等について質問項目を工夫している。また、現代社会の課題に寄せたテーマで自分の考えを書くようにしている。

●【静岡大学教育学部附属幼稚園】

静岡市では、公立の幼稚園がなくなり、こども園になったことで、本園が唯一の国公立の幼稚園となった。幼児教育の大切さや意義を保護者や地域に伝え、未就園児保護者に入園に関しての不安を拭えるように未就園児の会や説明会を行っている。

●【愛知教育大学附属名古屋中学校】

新型コロナの対応のため、会場を分散させたり、別会場を用意したりしている。また、願書の受付も対面から郵送で対応できるようにした。また、選抜後に実施の仕方について見直す機会を設け、次年度に生かしている。

●【京都教育大学附属桃山小学校】

入学者選抜を行う前に、丁寧に学校説明会を開催し、本校の教育方針について十分な理解をしていただくことや、コロナ禍においては追試を設定することなど、社会的ニーズを踏まえた選抜を実施している。

●【京都教育大学附属特別支援学校】

新型コロナウイルス感染症に係る対応として、入学選考の予備日を設定。

●【大阪教育大学附属天王寺中学校】

一般入試の二次筆頭テストにおいて、教科横断的設問をおこない、総合的で臨機応変な問題解決能力を指標に入学者選抜を行っている。

●【大阪教育大学附属高等学校（平野校舎）】

多面的に資質能力を評価することを意図し、「適性検査」と「学力試験」を別日程で行い、それぞれ合格者を決めている。「適性検査」では、本校が重視する社会課題に関する考察力や論理的思考力、協働力、コミュニケーション力を評価する小論文試験と面接試験（個人・グループ）を実施し、「適性試験」による入学者の活動を追跡するとともに、試験方法の改善を続けている。

●【大阪教育大学附属特別支援学校】

二次選考での抽選を廃止し、より選抜方法について明確化した。

●【神戸大学附属幼稚園】

幼児期は、特に生まれ月の違いによる発達差が大きいことから、応募者の実態も踏まえた上で生まれ月のバランスも配慮した入園選考を行うことで多様な発達状況にある幼児が入園できるようにしている。

●【神戸大学附属小学校】

多様な児童の入学を保障するために、抽選を中心とした入選方法に改善し実施している。

●【奈良教育大学附属幼稚園】

入園希望者を原則抽せんによって受け入れていることから、特別な配慮を必要とする園児も複数名在園している。地域の公立園に近い園児の姿や教員配置において行っている本園での取組は地域の教育活動にも受け入れやすいものになっていると考える。

●【奈良教育大学附属小学校】

附属幼稚園から連絡進学として入学希望者を原則全入で受け入れるとともに、外部（奈良市内）からも抽せんによって入学者を決定して受け入れている。抽せんによって半数以上の児童が入学することから、学力的、その他の面でも多様な児童が入学することになり、公立に近い児童の姿となっている。このことから、第4期中期目標・中期計画では、地域の教育課題の解決に貢献する項目をあげている。

●【奈良教育大学附属中学校】

附属小学校から連絡進学として入学希望者（ほぼ地元生）を原則全入で受け入れるとともに、外部（京都附南部を含む）からの入学者を全定員（男女別の定員は4年前から廃止）の約半数となる人数を受けて入れていることにより、学力的、その他の面でも多様な生徒を持つこととなっている。結果として地域の公立校に近い生徒像となり、本校での取組が地域の教育活動にも受け入れやすいものになっていると考える。

●【奈良女子大学附属中等教育学校】

多様な観点から資質能力をはかる選抜方式が求められる中で、アドミッションポリシーを確定し、ポリシーにもとづいた適性検査方式を実施している。特に、他者と協働して問題解決を図る力を見るために、それまでの面接形式からグループでの問題解決を行う活動へと転換し、またそうした力を客観的に評価する方法を開発した。こうした検査方法は、地域の教育委員会からも注目され、公立中高一貫校の検査方式の参考として活用されている。

●【鳥取大学附属小学校】

本校教育が目指す児童像に合致する入試内容（学力と生活行動面）と配点。

●【島根大学教育学部附属学校園】

島根県には私立の進学校がなく、国立附属に期待される役割が多様である。よって、学力が高い園児・児童が入学選考を受ける傾向にあるが、多様な人材を入学させるため、1次選考で幅広く合格を出し、2次選考で抽選をする選抜方法を採用している。

●【島根大学教育学部附属義務教育学校】

入学面接において、その年の時事問題や地域課題を面接内容に盛り込み、“グローバル”な素養をもった人材を選抜している。

●【山口大学教育学部附属特別支援学校】

入学選抜検討委員会を設置し、定期的に見直しを行っている。平成28年度から入学対象者を「発達障害を伴う知的障害があり、一部の援助により、日常生活または社会生活を営むことができる者」に変更し、小・中学校の通常学級や特別支援学級に多く在籍する発達障害のある児童生徒への支援に生かせる研究を行っている。

●【鳴門教育大学附属特別支援学校】

入学選考検討委員会を設置し定期的に見直しを図っている。またその内容を大学と連携し改善につなげている。

●【香川大学教育学部附属高松中学校】

令和2年度には面接方法を集団面接からパフォーマンス活動に改訂し、入学希望者のコミュニケーション能力や表現能力を評価できるようになった。

●【香川大学教育学部附属特別支援学校】

地域最優先で入学を認めている。

●【愛媛大学教育学部附属学校園】

本学附属学校園では、各教育内容の連続性や系統性を担保すること、「自ら学び、考え、実践する能力と、次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に排出する」という本学の使命の実現に向けた教育研究上のニーズを踏まえ、附属幼・小・中の進学にあたり、連絡入学の制度を導入している。さらに、附属学校園の教育方針や特殊性等に関する保護者説明会を開催し、理解してもらった上で入学者選抜を行っている。

●【高知大学教育学部附属中学校】

研究テーマに基づいた本校の求める生徒像を設定し、共有しながら各教科の問題作りを行い、問題検討会を設置して、内容等について検討を行う。また、複数教科をまとめて試験を行い受験時間を短縮し負担の軽減をはかり、募集定員の男女枠の撤廃など時代の状況に応じた変更を行っている。

●【佐賀大学教育学部附属特別支援学校】

連絡入学の見直しや学校見学会の開催方法を工夫するなど、一般の学校が近づきやすい入試の形を探っている。

●【熊本大学教育学部附属中学校】

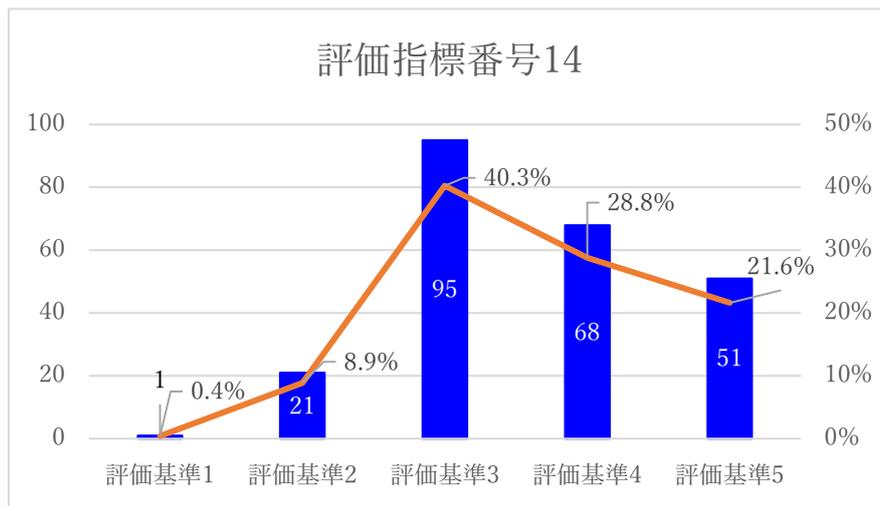
今年度から学部と連携を図り様々な情報をわかりやすく示し、理解してもらった上で入学者選抜を受けてもらう予定である。

## 評価大項目：成果発信と還元

### 評価小項目：学校園の取組

評価指標番号14：附属学校園は、公開研究発表会（研究授業・協議会・講演等）を開催し、発信・普及するとともに、参加者の評価を活用するように取り組んでおり、さらに、教育関係者以外に対しても、多様な手法・媒体による発信にも取り組んでいる。

（想定される回答者：附属学校園）



#### 【評価基準】

- 1：附属学校園は、研究紀要の作成や公開研究会を開催する等、定期的に成果の発信を行っている。
- 2：附属学校園は、研究紀要の作成や公開研究会を開催する等、定期的に成果の発信を行っており、参加者にアンケート等を実施している。
- 3：附属学校園は、研究紀要の作成や公開研究会を開催する等、定期的に成果の発信を行っており、参加者の意見等を取りまとめ、学内に共有している。
- 4：附属学校園は、研究紀要の作成や公開研究会を開催する等、定期的に成果の発信を行っており、参加者の意見等を取りまとめ、学内に共有している。さらに、教育関係者以外に向けても、多様な手法・媒体によって、広く・分かりやすい広報を実施している。
- 5：附属学校園は、研究紀要の作成や公開研究会を開催する等、定期的に成果の発信を行っており、参加者の意見等を取りまとめ、学内に共有し、教育研究の改善に活用している。さらに、教育関係者以外に向けても、多様な手法・媒体によって、広く・分かりやすい広報を実施している。

具体的好事例の内容：

●【北海道教育大学附属旭川幼稚園】

研究大会を実施し、研究の成果を発信すると共に地域の幼児教育研修センター的役割を担っている。また SNS やホームページを適切に活用しながら研究成果を発信している。

●【北海道教育大学附属札幌小学校】

研究の概要を動画にまとめホームページ上で公開するなど、教育関係者以外にもわかりやすい広報を実施している。

●【北海道教育大学附属旭川小学校】

コロナ禍において、児童が探究する姿を生で参観したいという公立学校からの意見を受け、校内研究の授業を人数制限を設けて対面形式で公開するとともに、オンラインでも授業参観及び研究協議への参加ができるようにするなど、地域の学校のニーズに応じた研究発信の方法を工夫している。

●【北海道教育大学附属札幌中学校】

教育研究の内容について、研究紀要のホームページでの公開、学校説明会等での研究内容の説明、動画配信等の取組をしている。

●【北海道教育大学附属函館中学校】

今年度は11月4日（土）に教育研究会の開催を予定している。新たなテーマとして CBT に関する研究を進めており、その先進的な各教科の取組をオンデマンド配信、及びオンラインによる研究協議を検討している。この研究会での成果や課題を研究部を中心に再検討し、来年2月に予定されている北海道教育委員会・北海道教育大学主催の令和4年度北海道教育大学附属函館学校園「授業力向上研究セミナー」で成果発表を行う計画である。

●【北海道教育大学附属釧路義務教育学校（前期課程）】

年間を通して複数回行う各教科等による授業力向上セミナーや各校、地教委からの要請による講師派遣、本校における授業改善研修等を積極的に行い、成果や様子を HP 等で発信している。参加者等のアンケートを検証材料として改善を図っている。

●【北海道教育大学附属特別支援学校】

公開研究会の開催、道内の教員に対しての来校とオンラインを組み合わせた少人数の授業実践研修の実施、学外の研究会等での研究成果の発表など、多様な方法で成果を発信している。少人数の授業実践研修は、参加者のニーズから具体的なテーマを設定して取り組むとともに、助言等では教育委員会と連携して進めている。

●【秋田大学教育文化学部附属中学校】

年2回、対面とオンラインによるハイブリッドな開催方法で研究会を実施している。研究会実施後には、参加者から意見をいただき、次回の研究会に反映できるように、年3回の校内研修会で協議している。研究内容について、研究紀要やホームページにて発信している。

●【山形大学附属幼稚園】

公開研究会におけるアンケートの結果から、本園で育っている子どもの姿を客観的に価値付け、学校評議員並びに保護者に直接または、文書で伝えている。また、幼稚園説明会や子育て支援講座においても、同様にアンケートで評価いただいた点について、広く広報を行っている。

●【山形大学附属中学校】

本校 HP で研究の成果等発信している。

●【茨城大学教育学部附属小学校】

研究紀要の発行・配布、HP での発信、大学の授業等での実践例の活用。

●【筑波大学附属聴覚特別支援学校】

研究紀要掲載項目 HP 公開。早期教育公開研修会。

●【宇都宮大学共同教育学部附属学校園】

公開研究発表会では、コロナ禍においてもオンデマンドによる授業公開・講演や、リアルタイムでのリモートによる協議会を開催している。大学と附属学校園との協働による研究成果を研究紀要としてまとめ、参加者にネット上で配付した。開催後に参加者の意見を取りまとめ、参加した満足度や要望について共有を図りながら、次年度以降の実施における改善点について検討している。

●【群馬大学共同教育学部附属小学校】

研究紀要の作成や公開研究会の開催に加え、提案授業を公開したり、研究授業の様子をホームページで紹介したり、学校通信で、本校の取り組んでいる研究について、保護者に分かりやすく伝えたりしている。

●【群馬大学共同教育学部附属中学校】

総合的な学習の時間の発表会で、学校評議員やPTAに参加してもらい、生徒一人一人の発表に対して多様な視点からの助言をいただいている。

●【群馬大学共同教育学部附属特別支援学校】

毎年公開研究会を開催して成果の発信を行っている。近年ではオンライン形式又はオンライン及び対面のハイブリット形式で開催することで県外からも広く参加いただいた。また研究会の実施報告及びアンケート結果は、校内で共有する他にHPへ掲載し教育関係者以外にも公開還元している。

●【埼玉大学教育学部附属小学校】

研究の案内や成果の発信については、県内の全校に向けて案内を送付したり、オンラインを生かして授業等の研究成果を発表したり、SNSを使って広く学校関係者等に情報が届くように工夫している。

●【東京学芸大学附属幼稚園（竹早園舎）】

未来の学校プロジェクトにおいて、大学・行政だけでなく企業と連携していることから、そちらに向けての成果の発信も行っている。

●【東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）】

年間6回の公開保育研究会の開催と、年1回のリモート研究協議会を開催し、さまざまなニーズに応じた研究会を開催し、その都度、評価を受けている。雑誌への定期事例掲載を通して、教育関係者以外にも、質の高い幼児教育実践とその意義について、広くわかりやすい発信をしている。

●【東京学芸大学附属小金井小学校】

本校では、校内研究授業を毎年の定例行事として積極的に行うとともに、外に向けた公開研究会を定期的に開催している。参加者の意見等も個人・全体で共有できるようにしており、教育・研究の改善に活用している。また、得られた研究成果については、定期的に紀要の作成や書籍の発刊をし、HPも活用しつつ成果の発信をしている。

●【東京学芸大学附属大泉小学校】

毎年研究発表会を実施し、参加者からのアンケートを集約して、次年度にいかしている。本校がIBのPYP認定校になることについては、教育機関はもとより、HPなどでも広く公表していく予定である。

●【東京学芸大学附属竹早小学校】

研究発表会については、コロナ禍のため昨年度はオンラインで行ったが、今年度は対面での実施を予定している。研究紀要についても毎年作成し、発表している。

●【東京学芸大学附属世田谷中学校】

教育活動についてまとめた冊子を保護者や地域の学校に対して配付している。また、授業の様子等についてホームページやフェイスブック等で発信を始めている。

●【東京学芸大学附属竹早中学校】

毎年、幼小中で地区としての公開研究会を開催している。

●【東京学芸大学附属高等学校】

校内統一テーマで各教科が中心となって行った研究成果を発信する公開研究会、および教育学委員会を中心となって高等学校における ICT の活用にかかわる実践的取組を発信する授業実践研究会を毎年実施している。これらの一部は保護者をはじめとしたステークホルダーを含めた関係者にも公開することで、より現実的な教育研究の成果の普及を目指している。

●【東京学芸大学附属国際中等教育学校】

紀要発行、公開研・授業研究会を毎年実施し、研究成果の発信を行っている。教育関係者以外へはニュースレターやウェブサイト、学校説明会等で発信している。SSH の成果は別に特設サイトを置き実施報告書や数学のオリジナルテキスト、理科の実験デザイン集等を発信している。成果は特に他の IB 校との連携において共有・活用されている。

●【東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校】

研究紀要を例年作成、大学に査読を依頼した上で、広く他の学校園に共有している。また、全附属や全音高協など、国立大学附属校や音楽高校などでの研究大会の機会を利用して本校の研究成果を共有している。

●【お茶の水女子大学附属幼稚園】

文科省開発研究を受けて地域の幼児教育施設に入園期の保護者意識についてアンケートを取り、その結果を幼児教育施設に還元するとともに、「育児手帖」という小冊子にまとめた。小冊子を、保護者や地域の幼児教育施設、保育所、また公開研究会に申し込みをした研究者、教員等に配布し、意見を受け、更に、小冊子（2）を発刊した。

●【お茶の水女子大学附属中学校】

保護者や教育関係者以外に向けて、HP 上で研究成果を配信している。また、TV、雑誌、新聞等の報道関係など、教育関係者以外についても視察を受け入れることで、多様な手法・媒体を通して広く配信している。

●【お茶の水女子大学附属高等学校】

SSH 活動の他、新学習指導要領に資する教科指導の公開教育研究会や生徒成果発表会の一部を中学生、保護者、その他教育関係者以外に向けて、オンライン公開開催した。HP 上に成果を発信している。

●【横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校】

研究発表会を開催するとともに、ソーシャルメディアを活用して web 上でも情報を閲覧できるようにし、広く普及を図っている。また、マスメディアにも情報提供を行い、研究の様々な面を発信している。

●【山梨大学教育学部附属幼稚園】

大学教員の協力のもと、公開研究会後の参加者へのアンケート実施、分析が行われている。結果は附属学校園と学部で共有され、見直しに生かされている。昨年度より研究会や研修の案内を、企業内保育所や無認可保育所にも送付したところ多くの参加があった。研修の動画などネット環境が整っていない園には DVD 送付などの対応をしてきている。附属学校園の子どもの様子や行事内容について、地域向けの広報誌を作成配布してきており、地域における附属への理解が深まっている。

●【山梨大学教育学部附属小学校】

公開研究会の成果や月ごとの学校だよりなどについては、ホームページを通じて発信している。附属 4 校園の校内研究会の内容や普段の学校生活の様子については、大学と連携しながら広報誌「きりの華」を発行し、保護者とともに地域にも回覧してもらいながら、各学校園の様子について発信している。

●【新潟大学附属長岡小学校】

感染症拡大に合わせて、オンライン研修会を多く実施している。公開授業をユーチューブに公開し、好評を得ている。

●【新潟大学附属新潟中学校】

毎年10月の研究発表会に加え、春、夏の研修会と題し、DC教育やウェルビーイング等現代的なテーマに関し、著名な有識者に講演を依頼する等し、多くの方から参加いただいた。参加者は、全国の附属校、公立校の教員にとどまらず、全国の大学生、大学院生、教授など多様な方々があり、研修会後のアンケートから感謝の声を多数いただいた。また、研究会を含む、当校の普段の教育活動についてもHPやSNSなどで広く発信している。

●【新潟大学附属長岡中学校】

附属長岡校園では毎年度複数回の公開研究会を実施しており、また同様に毎年度研究紀要を作成して周辺市町村の公立校に無償配布している。研究会は対面だけでなくオンラインも活用することにより、全国各地からの参会者を集めている。令和3年度は文部科学省研究開発指定「いのち」の実践のまとめを文部科学省において全国からの参会者を集めて発表し、また成果発表会という形で、広く発信した。

●【新潟大学附属特別支援学校】

毎年、各学部及び通級指導教室における研究の成果を研究会にて、教育関係者はもとより、企業・福祉・医療など関係機関にパンフレットや当校HPなどで広く周知を図っている。研究の核となる総論・各論そして実践については、スライドと音声で分かりやすくまとめたものを当校HPで公開している。また、研究会後は参加者から研究会への満足度や運営面における改善点など、Googleフォームを活用し広く感想や意見を集めている。集約した内容については、当校のHPに掲載し、福祉や医療など教育関係以外の関係機関も閲覧可能である。

●【富山大学教育学部附属中学校】

ホームページに研究の成果を分かりやすく掲載しているとともに、日々の生徒の姿を通じて研究成果の発信を続けている。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校】

コロナ禍の昨年度・今年度は、対面型ではなくオンデマンド配信により研究会を実施している。研究成果の発信は、教育研究発表会、紀要発行、ウェブサイトで行っている。

●【福井大学教育学部附属特別支援学校】

本校（附属特別支援学校）は、毎年、事前研究会及び公開研究会を開催し、その研究成果を年度末には研究紀要としてまとめて、学内の共有はもちろん教育関係者や本校の生徒の就労先などにも広く配付して意見をいただくようにしている。

●【信州大学教育学部附属学校園】

研究開発の成果を隔年実施の公開研究会で公開・発信している。県内外より多くの方にお越しいただき、そこで得た知見を研究にフィードバックし、改善を重ねている。公開研究会を行わない年には信州ラウンドテーブルを実施し、教育関係者以外の参加もいただいて、より広く発信するとともに、視野を広げるきっかけにもしている。

●【信州大学教育学部附属長野小学校】

2年に一回「初等教育研究会」を開催し、県内外の教職員、大学関係者、保護者、大学生、地域の方に来校頂き、本校の「子どもとつくるカリキュラム」に基づく授業公開を行い、参会者の意見を集約し、それを学内で共有し、教育研究の改善に努めている。また、その成果をホームページや家庭通信を通して、学外の方にも広報している。

●【信州大学教育学部附属長野中学校】

隔年の春の公開研究会を開催・研究紀要の作成、毎年の秋の公開等定期的に成果の発信を行うとともに、公開参加者からアンケートをとって今後の取組に生かしている。また、研究の過程やその成果をHPで紹介している。

●【信州大学教育学部附属松本中学校】

研究授業や協議会等を中心に行う公開研究発表会と、学校関係者をはじめ広く参加者を募り、多様な立場から教育に関する実践について話し合う信州ラウンドテーブルの2つを隔年で実施している。多様な背景を持つ参加者に自らの実践を分かりやすく発表するための工夫や、様々な意見を取り入れて、実践を練り直し、さらに発信することができている。

●【信州大学教育学部附属特別支援学校】

本年度の公開研究発表会では、冊子による紀要作成を廃し、デジタル化した研究資料を発信したり、ライブ中継で授業を公開したりする予定である。また、参加者の声を集め、分析し、より特別支援教育関係者のニーズに合った次回の研究発表会となるよう研究テーマの再検討をする予定である。

●【岐阜大学教育学部附属小中学校】

講習会についてはHP以外にも教育関係団体を通じて広く広報し、成果についても学内にとどまらず、県内外に広めることを行っている。

●【静岡大学教育学部附属静岡中学校】

研究の内容等を全国の附属学校や静岡県内の学校に向けて、年2回パンフレットを送付し紹介している。HPでも紹介している。保護者等にも学校だよりや日々のお便りの中で研究成果を発信している。

●【静岡大学教育学部附属浜松中学校】

ブログやHPを活用した発信をしている。

●【愛知教育大学附属幼稚園】

公開保育研究会開催時を目指して研究紀要を作成し、参加者のみならず教育関係者に広く配布している。また参加者によるアンケート結果については、学内での委員会等で共有している。さらに研究成果を未就園児を含む保護者会で伝えたり、ホームページで公表したりしている。

●【愛知教育大学附属名古屋小学校】

発表会へは直接参加だけでなく、オンライン参加とオンデマンド視聴ができるようにしている。ホームページだけでなく、過去に参加いただいた方へのメール案内もしている。各種教育委員会・各地区校長会へは直接参加し、情宣活動と発表会への参加依頼を行っている。若い方にも親しみやすいよう写真を多用した実践資料集を作成し、全ての学校に配付している。

●【愛知教育大学附属岡崎小学校】

毎年行われる研究会では、各年次の総論や各論をまとめた紀要を作成し、参観者から評価をしてもらっている。また、研究の方向性や総論に関しては、OBの先生に指導を受けている。また、5年周期で研究を行い、最終年次には研究の成果をまとめた本を出版している。

●【愛知教育大学附属名古屋中学校】

年に2回の通信を発行するとともに、HP等を使い、成果やいただいた御意見を紹介している。

●【愛知教育大学附属岡崎中学校】

コロナ禍でも人数制限や見せ方の工夫、動画配信などで研究協議会を開催してきた。参加者のアンケートもWEB上のアンケートフォームを活用するなどして、広く評価を得られるよう工夫している。また、子どもたちが個人のテーマで行う探究学習の取材・発信活動では、取材先の企業、公官庁、研究者などから高い評価をいただいている。

●【三重大学教育大学附属幼稚園】

過去の研究紀要は大学図書館のデータベースに入っており、教育関係者、学生等にも広く活用可能となっている。

●【三重大学教育学部附属小学校】

公開研究会では、360度映像と高音質の音声で録画・編集（上部空間には板書や児童の端末画像が見られるよう工夫）した授業をオンデマンドで公開し、各教科の授業実践について、全国の教育関係者と協議を行っている。このような ICT 機器を活用した授業研究は、コロナ禍で集合型の参観が制約される状況下において、教員も学びを止めない研究のあり方の事例として、報道各社にも取り上げられ、発信の機会となった。

●【滋賀大学教育学部附属中学校】

毎年研究紀要を作成し配付や web 公開を行っている。また公開休業研究会や研究大会を毎年開催する等、定期的に成果の発信を行っており、参加者の意見等を取りまとめ学内に共有し、教育研究の改善に活用している。さらに、教育研究の一部を本校が著者として市販している。

●【京都教育大学附属幼稚園】

毎年研究協議会を実施し教育関係者及び学生に参加を呼び掛けている。また、毎年の研究の成果を日本保育学会で発表し、そのポスターを参観日等に園内に掲示し保護者にも見てもらう機会を作るようにしている。

●【京都教育大学附属桃山小学校】

毎年、研究発表会を開催し、参加いただいた全国の実践者からのヒアリング・アンケートや、大学教員からの指導助言を活用し、さらなる教育実践向上に取り組んでいる。ホームページや学校説明会、学校便り等を通して広く在校生のご家庭をはじめ、さまざまな方に本校の研究について広報を行っている。

●【大阪教育大学附属幼稚園】

研究の取組や研究発表会について記載した研究だよりを発行し、保護者に配布したりホームページに掲載したりしている。

●【大阪教育大学附属天王寺小学校】

1年間の研究成果を研究紀要にまとめ、公開研究会を開催し成果を発信している。参加者からのアンケートを集約、整理した。STEAM 教育については、各都道府県の教育委員会にリーフレットを送付するとともに、授業研究については、本校 HP において随時伝達を行っている。

●【大阪教育大学附属平野小学校】

紀要の作成だけでなく、新教科「未来そうぞう科」に関して 4冊の書籍を発刊し、成果の発信を行っている。

●【大阪教育大学附属天王寺中学校】

研究集録をホームページ上に公開し、教育関係者だけでなく広く一般に公開している。

●【大阪教育大学附属高等学校（平野校舎）】

毎年、教育関係者を対象に、課題研究や探究的な学習の指導方法に関する教員研修会を開催し、本校の授業を公開しながら、教材集等を配布している。附属平野五校園では、生涯発達の視点に基づいた校種間連携型一貫教育をテーマに、五校園の全教員が、本学大学教員の指導助言を得ながら校園種を超えた共同研究に取り組んでいる。年間3回の共同研究集会では全教員が集まり、研究進捗等を共有し、その成果を毎年、研究発表会及び冊子発刊等により発信している。

●【大阪教育大学附属高等学校（池田校舎）】

近年は学校における教育研究の内容や成果、ICTの活用方法、グローバル探究（総合的な探究の時間）の内容などを定期的に更新・発信し、他校の参考となる事例を数多く公開するように努めている。また、HP内にはご意見・ご質問を容易に送ることができるよう配慮しており、担当者が集約・対応している。

●【神戸大学附属幼稚園】

毎年おこなっている参加型研修や依頼を受けて本園でおこなっている兵庫県が主催する新規採用教員研修、年間 50 件程度の講師派遣依頼を受けている各地の教育委員会、幼児教育関係団体等の研修会・研究会において、本園の子どもの事実を根拠とした教育研究の手法や幼児教育の可視化の効果を感じてもらえるように、実際に研修で使い、体験的に学んでもらっている。参加者のアンケートにより実施の効果を確認に常に改善を続けている。また、ホームページによる発信はもちろんのこと、依頼を受けて執筆してきた書籍においても本園の教育研究を紹介したり、本園に関心を持っている未就園児の保護者に対して、本園の取組も含めた日本の幼児教育が目指していることを年 3 回発信したりしている。

●【神戸大学附属中等教育学校】

研究紀要、報告書等は紙媒体で作成するだけでなく、神戸大学学術成果リポジトリ(KERNEL)にアップすることにより、web 検索可能にしている。

●【神戸大学附属特別支援学校】

特別支援学校という性質もあり、近隣福祉事業所に学校新聞を配布している。また障がい者地域生活ケアネットワークに所属し、会議へ参加している。

●【奈良教育大学附属幼稚園】

コロナ禍においても、オンライン、ハイブリット形式、参加者の居住区域の限定などの方法を取り入れながら、毎年公開保育研究会を開催し、研究成果を発信している。参加者には、研究会の一か月後にもアンケートを取り、活用程度を調査し、研究に活かしている。また、研究成果については、紀要や出版物としても発信している。入園希望者に対しては、本園の教育内容及び研究成果をリーフレットや、HP の写真や動画で広報している。

●【奈良女子大学附属幼稚園】

公開保育、オンラインやオンデマンドの利用、HP への掲載、投稿など、誰でも見られように様々な方法で研究成果を報告している。参加者、視聴者からのアンケートや実践への反映などのふりかえりをいただき、研究内容への反映、運営面への改善につなげている。また、保護者にも定期的に研究報告を実施し、その感想や意見は、保育の実践と保育説明へ反映させている。

●【奈良女子大学附属中等教育学校】

毎年、先進的な教育研究をテーマとした公開研究会の実施、研究紀要の発刊を行っており、200 名程度の参観者を得ている。参観者対象の WEB アンケートを実施し、その結果をもとにプログラムの改善を図っている。その結果、公開授業と研究協議という伝統的なスタイルにとどまらない、双方向型のワークショップやラウンドテーブルといった参観者とともに考える研究会形式に移行している。また、成果発信においては HP を重要視し、生徒の発表動画の配信や生徒の探究活動の成長が時系列でわかる見せ方など、他校教員が自らの指導改善に活用できる HP 作成を行っている。

●【鳥取大学附属特別支援学校】

6 歳から 20 歳までの「自分づくり」を支える教育課程の創造（3 年次）のテーマで公開研究会を 12 月 9 日よりウェブ上で公開予定。3 年間の学校研究として実践してきたことを書籍として発行予定。各学部の実践を核とし、小・中・高本科・専攻科のつながりを学部をといた 3 つの部会で検討していく。「生活を楽しむ」授業づくり等の書籍を監修された元校長の渡部昭男先生に講演していただき、専攻科立ち上げ等、今日までの取組や、これからに向け研究を深めたことを発信していく。

●【**島根大学教育学部附属幼稚園**】

本園では、毎年秋に保育研修会を開催している。幼稚園数が減り、保育に係る研修の場が少ない島根県においては貴重な場となっており、研修会後の参加者アンケートでも好評を得ている。また、地域への広報活動の一端として、未就園児へ、木育ルーム「木音（もね）の部屋」や園庭を開放する活動を行っており、毎回、多数の参加を得ており、附属幼稚園への関心を高めていただくことにもつながっている。

●【**島根大学教育学部附属義務教育学校**】

本校独自設定科目である未来創造科では、探究的な見方・考え方を働かせ、地域や社会が直面する課題に主体的・協働的に取り組む活動を行っている。また、後期課程では、学年ごとに成果発表会を企画し、教育委員会や地域の方を招き、地域や社会への貢献活動を提案している。年度末に行う地域貢献度調査では、多くの期待を寄せられている。

●【**広島大学附属学校園**】

教育研究大会だけでなく校内研究授業も含めて、学習指導案や授業資料等を WEB 公開によって提供している。また、研究紀要等の刊行物 WEB 公開のほか、教育研究大会パネルディスカッションでの討議を動画公開するなど、教育関係者以外でも閲覧できるようにしている。

●【**広島大学附属小学校**】

独自の月刊教育総合雑誌「学校教育」を戦前から発行している。

●【**広島大学附属三原小学校**】

スマートフォンでの利用を前提とした HP の新設を行い、短文や図示等による平易な表現によって分かりやすい情報発信の準備を進めている。

●【**広島大学附属福山中学校**】

毎年、教育研究会を開催し、研究授業を公開している。参加者アンケートで意見等を取りまとめ、校内で共有し、教育研究の改善に活用している。研究成果は紀要や学会等で発信している。コロナ禍前は、教育研究会を保護者にも案内し、授業を参観していただいていた。

●【**広島大学附属福山高等学校**】

教育研究発表会を毎年開催し、教科毎の授業を公開している。アンケートも実施し、研究部が集約し、全教員で共有し、授業研究の改善に活用している。コロナ禍以前には公開授業への保護者の参加も促し、授業を見ていただいていた。

●【**山口大学教育学部附属幼稚園**】

公開研究発表会を開催し、研究内容と成果を発信、普及するとともに、参加者の評価をアンケートシステムにより把握・活用している。HP・園だより・保護者会等で保護者にも発信するとともに、地域向けの便り「やまぐち学園だより」や教育関係誌でも発信に努めている。

●【**山口大学教育学部附属特別支援学校**】

研究成果をホームページに掲載し、誰もが自由に閲覧できるようにしている。また、パンフレットにして、県内の学校へ配付している。学校説明会では、入学希望者に対して、教育方針や研究内容について説明するとともに、学校要覧や研究成果のパンフレットを配布している。

●【**鳴門教育大学附属幼稚園**】

毎月、合同研究会を実施し大学教員が共同研究者として参加している。研究紀要も園の教員と大学教員とが一緒になって作成し研究成果の発信を行っている。毎年、幼児教育研究会を実施するとともに、実施は園の HP でも公開し教育関係者以外の参加も可としている。

●【**鳴門教育大学附属特別支援学校**】

今年度は、『主体的な学び』をキーワードに児童生徒と共に授業目標設定や学習評価について、昨年度の公開研究会でのアンケート結果を活かしながら、実践研究を深めている。今年度は、研究の最終年次であり、ハイブリッド形式で研究発表会を開催する予定である。また、ホームページも活用し、研究成果を広く発信する予定である。

●【香川大学教育学部附属高松小学校】

研究会でのアンケートの実施及び、日常の様子をブログにて配信、大学広報での発信や、地域のマスコミへのプレスリリースや取材活動を受けることで多くの県内外の方々へ取組を紹介している。

●【香川大学教育学部附属高松中学校】

隔年で研究発表会を開催し、県内外から多数の来校者の参加を得ている。コロナ禍において対面開催ができなかった昨年度は資料映像を WEB 公開した。

●【香川大学教育学部附属坂出中学校】

令和 4 年度の研究発表会（6 月）は、コロナ感染予防のため、オンライン（オンデマンド）開催とした。研究紀要は県内全学校をはじめ、広く全国に配布した。オンラインのアクセス数は、1,000 を超え（8 月現在）、意見なども寄せられている。共創型探究学習の総合学習は、文部科学省研究開発の 4 年目に入り、学外の指導もいただきながら成果を紀要、HP 等で発信予定である。

●【香川大学教育学部附属特別支援学校】

研究発表会を実施しない年度においても、公開講演会等を実施している。

●【愛媛大学教育学部附属学校園】

本学附属学校園では、毎年「愛媛教育研究大会」を開催し、昨年度で 100 回を重ねている。本研究大会では、日常から取り組んでいる先進的な授業を学外に公開している。大会参加者から意見を聴取し、教育研究の改善にも取り組んでいる。さらに一連の研究成果は HP でも広く公開している。原則毎日、先進的な教育実践（ICT を活用した在宅生徒への支援、NIE 活動等）を含む日々の学校活動を、HP で情報発信している。そのうちのいくつかの事例は、新聞報道された。

●【高知大学教育学部附属中学校】

研究発表会を毎年実施し、案内は本校 Web ページで発信し、メールでできるだけ多くの学校関係者に発信している。県内の先生方にはメールでは個人で受信が難しい場合もあるので FAX を使用するなど、いくつかの手段を使っている。研究授業はオンデマンド配信、協議会にはテレビ会議システムを使用するなど多様な方法で成果の発信を行っている。アンケートは Web システムを使って行い、教員会で共有している。

●【高知大学教育学部附属特別支援学校】

校内研究は 2 年ごとの成果をまとめて発信する。1 年目の成果は中間発表としてまとめて発信する。2 年目は研究紀要作成と発表会を行う。1 年目から計画的に公開授業研、講演会などを行い、県内外に取組の成果を発表する。研究会後の反省の際に、参加者からの意見等をまとめ、次年度の研究活動に生かしている。

●【福岡教育大学附属幼稚園】

福岡県国公立幼稚園・こども園の中でも、毎年、研究紀要作成や公開研究会を実施しているのは、本園だけである。福岡教育大学幼児教育研究部会との共同研究を通して研鑽を積み、幼児教育の先進的役割を果たしている。公開研究会についてはコロナ禍の影響により、令和 3 年度からオンライン開催の工夫とオンデマンド配信を行い、幅広く多方面の人々が視聴できるようにしている。本園のホームページでも、広報に努めている。

●【福岡教育大学附属福岡小学校】

本校では、毎年2月に1年間の研究の集大成として位置付ける教育研究発表会を2日間実施している。(令和4年度は11月と2月に1日ずつ開催予定)

・令和2年度 400名参加

※参会者を限定しての開催(直接参加100名、オンライン参加300名)

※事前録画授業18本公開、ライブ授業2本公開

・令和3年度 557名参加

※完全オンライン開催

※事前録画授業3本公開、ライブ授業18本公開

研究紀要は研究発表会開催前に作成し参会者に事前配付するとともに、事後アンケートを実施し、結果を実施報告書にまとめ大学に提出している。

●【福岡教育大学附属小倉小学校】

例年、6月には北九州市内の教科等サークルと連携して学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの基礎・基本について学び合う「授業づくり公開研究会」を実施している。また、2月には県内外から参加者を募り、本校の教育研究の成果を発信する研究発表会を実施している。いずれも案内ポスターに加え、インスタグラムを活用して広報活動を行っている。また、直接参加、ライブ配信視聴、オンデマンド視聴など、様々な実施形態を準備することで参加しやすいようにしている。

●【福岡教育大学附属小倉中学校】

令和元年より2年間の文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」において、『カリキュラム・マネジメントの手引き～資質・能力育成に向けたリアルな学習デザイン実現の処方箋』を作成し、研究発表会で配付した。今年度もリーフレット形式の手引きを作成し、成果報告会で配付の予定である。また、研究発表会や成果報告会での参加者の意見は研究部がとりまとめ、全職員に共通理解を図り、研究改善に活用している。

●【佐賀大学教育学部附属特別支援学校】

研究発表会はオンライン開催、オンデマンド配信、報告書作成・配付を、全国を対象に広く成果を共有した。現在も学校HPでその内容を提供中。

●【熊本大学教育学部附属特別支援学校】

本校では、毎年2月上旬に公開研究会を実施し、研究の成果を発信している。また、研究紀要や研究報告として、関係の機関や学校に配付している。その他、学校ホームページに研究成果のページを設け、特殊教育学会や教大協研究集会などでの発表、論文の執筆や書籍への起稿など、教育関係者に限らず広く情報を発信している。

●【大分大学教育学部附属幼稚園】

1月28日にリモートで開催する予定。参加者が園研究の系統性が見られるように3歳から5歳まで時間をずらして実施する。また、協議においては、全職員でフォローできるように、体制を整えている。

●【大分大学教育学部附属中学校】

附属中学校版GIGAスクール、「附中ギガ」と銘打って、これまで蓄積してきた教育実践の成果を土台に、生徒と教師が共に創る「GIGAスクール構想」を模索してきたが、研究開始当初から放送大学中川一史教授から、先生の研究の視点や本校の研究に活かせるような他校での実践事例等、ICTを日常的に活用するところから、効果的な活用に至るまで本校の研究に対し指導及び助言をいただき、研究が一層加速した。

- **【宮崎大学教育学部附属小学校】**

カリキュラム・マネジメントに関する研究が3年目に入った。昨年度、コロナ禍の中ではあるが、授業を録画しYouTubeにて配信するとともに、研究紀要をHPにアップし、研究の基本的な考え方、各教科・領域の研究の詳細について公開した。それをもとにZoomにて公開研究会を開催し、協議の場を提供し内容について周知することができた。

- **【鹿児島大学教育学部附属特別支援学校】**

隔年で公開研究会の開催及び研究紀要の刊行を行っている。公開研究会の参加者に対してアンケートを実施し、学校研究の内容等について評価を受け、その結果を大学・学部が設置する附属学校園運営協議会で報告し、共有している。研究成果の広報については、公開研究会の開催案内を福祉等の関係者にも送付し、連携の機会としたり、学校ホームページへの掲載及び書籍等への寄稿を行ったりしている。

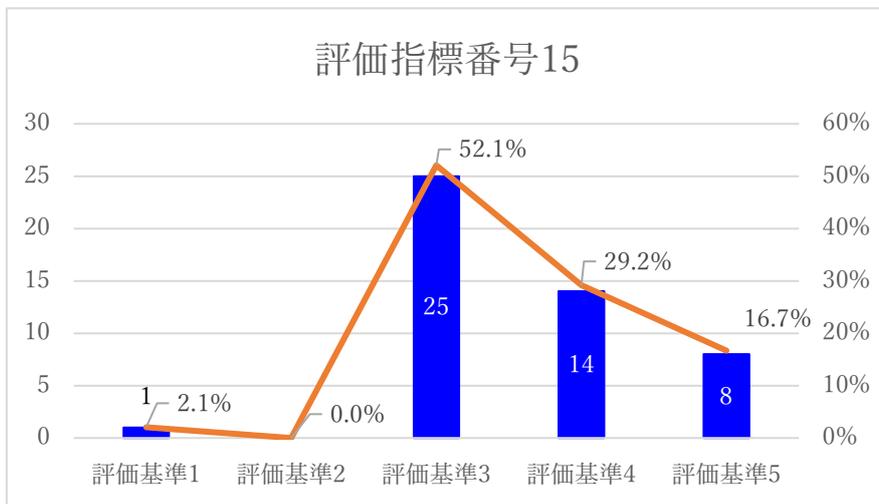
- **【名称非公開】**

- ① 15.特別支援教育専攻教授から定期的に助言を受け、実践研究に取り組んでいる。公開研究会では現職教員だけでなく、学生、教職大学院生を受入れる他、県教育委員会から助言者を招聘し、客観的な評価が得られるようにしている。

評価小項目：大学の取組

評価指標番号15：大学・学部は、附属学校園全体の教育研究の成果が効果的に普及できるよう、戦略的に成果発信に取り組んでいる。

(想定される回答者：大学・学部)



【評価基準】

- 1：大学・学部は、各附属学校園の成果発信の受け手である。
- 2：大学・学部は、各附属学校園の成果発信の内容を把握している。
- 3：大学・学部は、各附属学校園の成果発信の内容を把握し、より効果的なものになるよう指導助言している。
- 4：大学・学部は、各附属学校園の成果発信の内容を把握し、より効果的なものになるよう指導助言し、全附属学校園の一体的な成果発信について具体的に検討している。
- 5：大学・学部は、各附属学校園の成果発信の内容を把握し、より効果的なものになるよう指導助言し、全附属学校園の一体的な成果発信について具体的に検討、改善を図り、戦略的な成果発信に取り組んでいる。

具体的好事例の内容：

●【岩手大学教育学部】

学部長が議長を務める附属学校運営会議の下に「学校公開・共同研究専門委員会」を設置し、教育実践を中心とした教育学部・附属学校の共同研究の充実強化に向けた取組を推進している。具体的には、学部・附属学校の共同研究強化の促進を目的とする、学部長裁量経費による「教育学部プロジェクト推進支援事業（学部 GP）」に関し、学部 GP 発表会の実施や学部 GP 教育実践研究論文集の発行（ホームページへの掲載）等を行うことにより、附属学校の成果発信を推進している。

●【秋田大学教育文化学部】

附属学校運営全学協議会を設置し、学長・学部長と附属学校園の校長・副校長との意見交換の場を定期的に設けており、全ての附属学校園の成果発信の内容を把握している。またその成果がより効果的なものになるよう、財政面を含めて指導助言するだけでなく、広報課を通した発表についても検討している。

●【山形大学】

大学教員と附属学校園教員（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）で構成される教科やテーマごとの共同研究部会を設置している。令和 3 年度までの 15 部会に、「ICT 教育」「インクルーシブ教育」「英語教育」「SDGs 教育」の 4 部会を加えた 19 部会で教育研究の推進に取り組んでいる。各部会の研究成果をまとめた「大学と附属学校園の共同研究報告書」を作成し、山形大学附属学校園総合ページに毎年アップして内外に発信している。

●【宇都宮大学共同教育学部】

公開研究会は、授業の配信動画を作成し、オンラインと対面形式によるハイブリッドの方法で行っている。また、配信動画は一定期間、随時閲覧できるようにして効果的に成果を発信できるようにしている。

●【埼玉大学教育学部】

年 1 回 2 月に教育実践フォーラムを開催し、教育研究の成果発表を行っている。2022 年度は全体会で附属 4 校園から「共生・ダイバーシティの担い手づくり」についての取組を発表する他、各種ラウンドテーブルを開催する。

●【千葉大学教育学部】

各附属学校園は、公開研究発表会を開催し、学部等の研究者との共同研究成果を公開している。公開された研究成果の活用事例等についてのフィードバックについてのアンケート調査を実施し、研究成果活用の効果等について検討している。

●【お茶の水女子大学】

附属学校園における教育研究成果の効率的で戦略的な発信や普及を図るため、附属学校園論文・教材等データベースを整備しており、附属学校園において作成された論文・教材等を搭載し、それを発信している。本データベースの活用状況は、附属学校部にある教育研究推進専門委員会で報告され、それらなどに基づいて、各学校園の成果発信の状況を把握し、より効果的な成果発信になるよう指導助言している。

●【新潟大学】

附属学校部は附属 6 校園にて作成している各ホームページをまとめ、さらに大学と附属学校共同研究開発・実施に関する内容も加えたコンテンツを大学ホームページのトップ「大学案内」内に開設している。これにより、6 附属学校園の独自性と特色を活かした情報公開の機会増加を図っている。附属学校部は附属学校園全体の教育実践研究の成果発信の内容を逐次把握し、より効果的となるよう助言している。今後、全附属学校園の一体的となる成果発信について検討している。

●【金沢大学人間社会学域学校教育学類】

附属学校園と大学が協議し令和3年に附属学校園将来構想「金沢モデル」を策定した。令和4年には「コラボレーション推進室」を金沢市の施設に開設し、さまざまな民間団体や自治体とタイアップしながら社会と連動した教育方法を研究している。令和4年8月にはキックオフシンポジウムを開催し、地元新聞にも取り上げられた。

●【福井大学教育学部】

附属学園内では年2回の合同研究会を開催して、附属学園の教員の実践事例を発表し合う機会としている。互いの実践を通して子どもへの向き合い方や指導観、探究学習について学び合っている。その場面に大学教員も関与し、それぞれの教育活動の意味づけを行っている。また、その場面に関わる大学教員は、県内からの派遣教員であり、派遣教員を通して、県内の教育研究活動に発信をしている。

●【信州大学教育学部】

附属学校園での働き方改革として校務のDX化に文科省事業を受託して取り組み、その成果を県教委の冊子やシンポジウムで公開し、成果を発信している。同様に、附属学校でのICT活用について取り組んだ成果について、附属学校教員と学部教員が共同し、各種研究会や学会等で発表したり、書籍刊行の準備を進めたりしている。

●【愛知教育大学】

愛知教育大学未来共創プランの戦略に基づき、大学と附属学校園の連携推進プロジェクトに取り組み、今後の公立学校のモデルとなる実証研究を行っている。具体的には附属学校園に所属する研究主任クラスの教員と大学教員により構成されたプロジェクトチームが主体となり、月1回のペースでリモート協議会を開催している。その成果は附属学校園同士の交流や大学との共同研究によってモデル授業として開発されている。

●【三重大学教育学部】

各附属学校園における公開研究会において、その準備段階から地域のニーズ等を踏まえた先進的な内容となるように学部教員が指導助言し、成果を発信している。発信については、オンラインを活用している。特に附属小学校においては、360度映像と高音質音声で録画・編集した授業をオンデマンドで公開し、各教科の授業について全国の教育関係者と協議を行っている。現在、他の学校園についても同様の発信が実施できるよう、環境整備を進めている。

●【山口大学教育学部】

附属学校園全体の教育研究の成果については、対面・オンラインだけでなく、Googleとの協働・連携も含めたオンデマンドによる成果発信にも着手しはじめている。

●【福岡教育大学】

各附属学校園は、地域の課題を解決するために大学で戦略的に設定した中期目標・中期計画に基づき、年間を通して実施された教員研修（若年教員向けの授業づくり研修会）や教育研究発表会などの成果発信を行い、その成果や課題を学内の附属学校運営委員会、および外部の構成員からなる地域連絡協議会などに報告し、地域貢献を軸とした検討改善を図っている。

●【長崎大学教育学部】

教育学部・研究科の研究企画推進委員会により、長崎県教育委員会、学部・大学院、附属学校が連携して読解力育成、GIGAスクール構想、ふるさとの活性化及び学習指導要領改訂の観点から授業改善の協働研究を組織的に推進している。その成果は、例えば、県教育委員会が、「長崎県授業改善メソッド」として県内全教職員に配付し、県教育センターホームページにも掲載した。また県教育の情報化推進協議会では、附属学校のオンライン授業実践やその成果を発信した。

- 【大分大学教育学部】

毎月開催される王子キャンパス会議において、附属学校園連携統括長が、国や県の今日的教育事情や要請事項について紹介、説明することで、情報の共有化を図り、附属学校園統一した運営方針を決定している。また、附属小学校をはじめとする附属学校園の「働き方改革」や、附属中学校の「GIGA スクール構想」、附属幼稚園の「リカレント研修」、附属特別支援学校の「現職教員実地指導研修」等の取組の優れた点（文科省 GP を含む）を大学・学部が十分に把握し、県内や県外（国）に対してそれらの成果を情報発信している。その結果、他大学や他の附属校からの視察も相次いできた。それらの視察の際に、附属学校園が共通に抱えている課題や、本大学・学部独自の課題を検討することができ、附属や学部の教育・研究・研修体制を見直すよい機会となっている。さらに、附属教育実践総合センターレポートに、毎年度の各附属学校園の取組を紹介するページを設定したり、学内・学外向けの広報新聞（Edu-ta!）の見開き1面を附属に割り当てたりして、附属の情報を積極的に公開する機会を設けている。

- 【名称非公開】

- ① 大学と附属の連携、大学と附属、もしくは公立学校が三位一体となった連携業務を毎年継続している。その中で、附属学校教員すべてがこの連携業務に取り組むように依頼している。公立学校については、教育委員会を通じて公募を行っている。こうして取り組んだ内容については、毎年2月に成果発表会を公開で行い、大学が中心となって附属、さらには公立学校の教育の質的向上に資するように取り組んでいる。